

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第78集

蛇塚 A 遺跡群

HEBI ZUKA
蛇 塚 遺 跡
蛇 塚 古 墳

長野県佐久市安原蛇塚遺跡・蛇塚古墳発掘調査報告書

2000.3

佐久市土地開発公社
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第78集

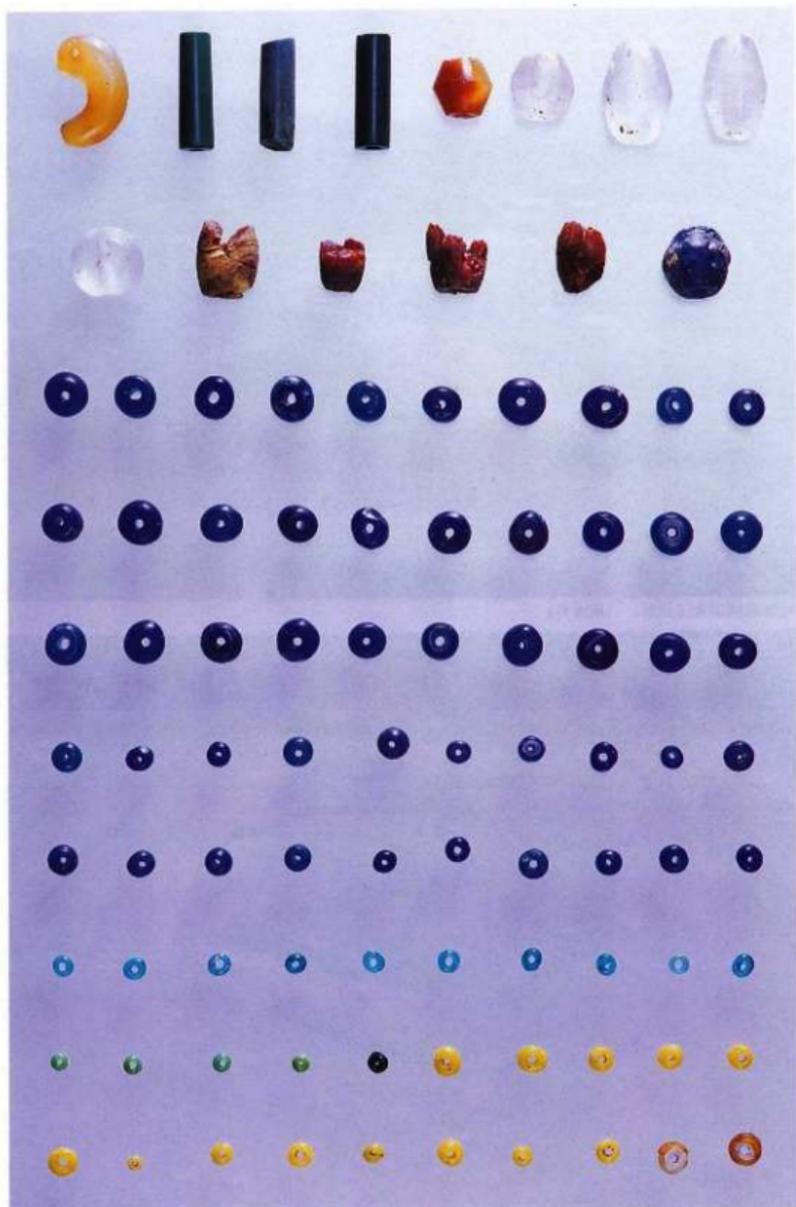
蛇塚A遺跡群

HEBI ZUKA
蛇 塚 遺 跡
蛇 塚 古 墳

長野県佐久市安原蛇塚遺跡・蛇塚古墳発掘調査報告書

2000.3

佐久市土地開発公社
佐久市教育委員会



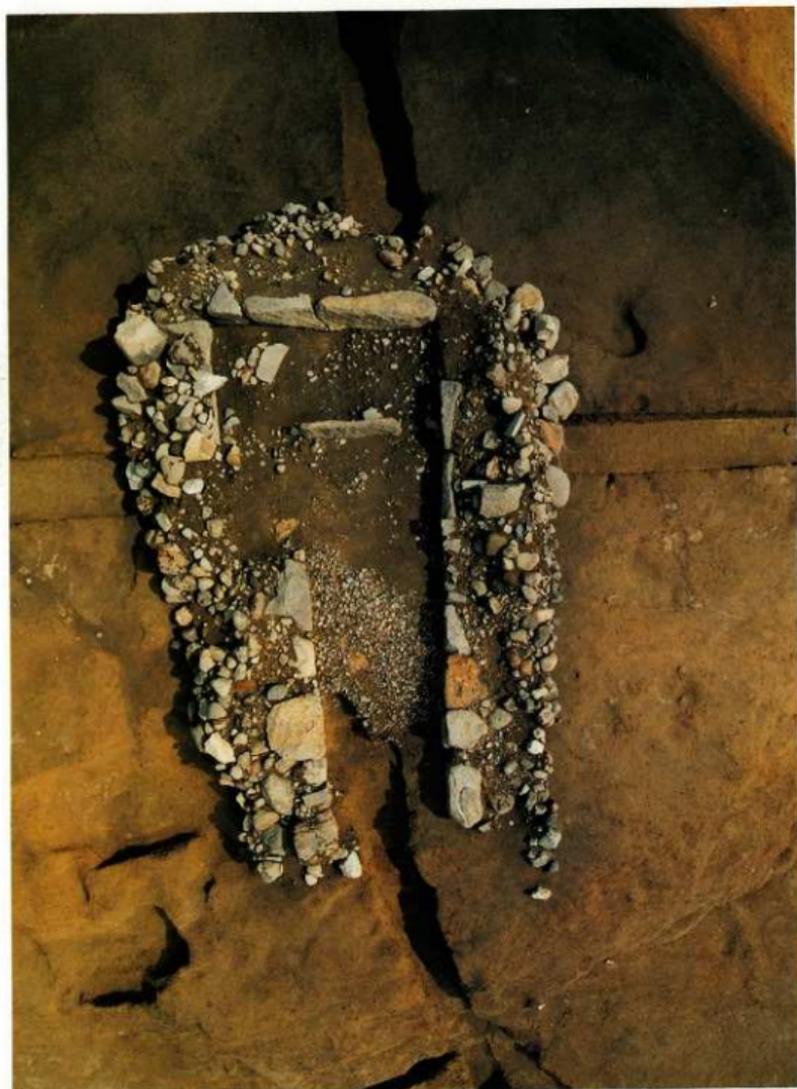
蛇塚古墳 1 号墳出土玉製



蛇塚遺跡調査区遠景 (南より)



蛇塚古墳1号墳全景 (西より)



蛇塚古墳 1 号墳石室全景



3号墳全景 (南より)



3号墳出土耳環



1号墳出土鐲



3号墳内回り外護列石検出状況（北より）



3号墳列石及び石室根石検出状況（東より）

例 言

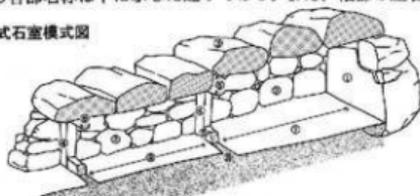
1. 本書は、佐久市土地開発公社が行う宅地造成事業（開発面積15,800㎡）に伴い平成6年度・平成8年度に行った蛇塚A遺跡群 蛇塚遺跡と蛇塚古墳（調査面積合計5,980㎡）の発掘調査報告書である。整理作業・報告書刊行は平成9年度・平成11年度に行った。
2. 調査委託者 佐久市土地開発公社
3. 調査受託者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び所在地
蛇塚A遺跡群 蛇塚遺跡 佐久市安原蛇塚 1367.1378-2.1368-3.1372-5.1373-3.
1389-2.1390-7.1392-1.1390-8.1391-5.
1392-1.1395-3.1367-2.1400-3
蛇塚古墳 佐久市安原蛇塚1377
遺跡略記号 (YHA)
5. 調査期間及び面積
蛇塚遺跡 発掘調査 平成6年7月7日～8月25日
面 積 3,480㎡
蛇塚古墳 発掘調査 平成8年4月4日～9月26日
面 積 2,500㎡
整理作業 平成11年4月1日～平成12年3月31日
6. 本遺跡出土の人間の鑑定は聖マリアンナ医科大学 平田和明氏・奥千奈美氏に依頼した。
平成8年度調査では(財)長野県埋蔵文化財センター調査研究員宇賀神誠司氏に調査指導を依頼した。
平成8年度調査区測量は、株式会社こうそくに委託した。
7. 本遺跡調査は平成6年度分が林、平成8年度分が三石、整理作業の内、縄文は小林、陶磁器類は森泉、石材鑑定は羽毛田が行い、その他の編集・執筆は富沢が行った。
8. 本書及び蛇塚遺跡・蛇塚古墳出土遺物等のすべての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
9. 調査から報告書作成に至る過程で以下の方々並びに各機関のご指導・ご協力を頂いた。厚く御礼申し上げます。(順不同・敬称略)
青沼博之 玉井昌二 小島きみ子 白田武正 白鳥喜一郎 征矢野安政 宇賀神誠司
依田謙一 藤原直人 桜井秀雄 山岡一英 上沼由彦 尾台昇 森田安彦
土生田純之 福岡邦男 (財)長野県埋蔵文化財センター-佐久調査事務所

凡 例

1. 遺構の略記号は以下の通りである。
竪穴住居址-H 掘立柱建物址-F 土坑-D
2. 遺構の縮尺は原則として以下の通りである。
竪穴住居址・掘立柱建物址-1/80 カマド・伊-1/40 土坑-1/30.1/60
古墳全体図-1/150 石室-1/60
土器-1/4 石器・鉄製品-1/2 玉類-1/1 標記以外のものは挿図中に明記した。
3. 遺構の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」として記した。
4. 土層・遺物の胎土の色調は、1988年版『新版 標準土色帖』に基づいて示した。
5. 写真図版中の遺物の縮尺は概ね挿図と同じである。また、遺物番号は挿図番号と対応する。

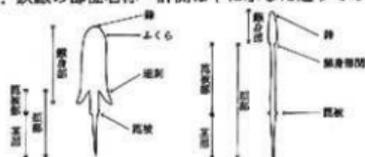
6. 石室の各部名称は下に示した通りである。また、袖部の左右は狭道部より向かって右・左とした。

横穴式石室模式図



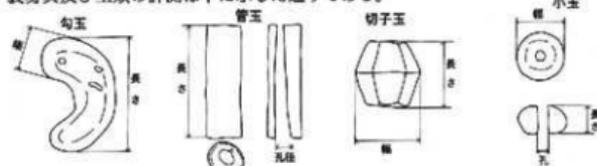
1. 奥壁
 2. 側壁
 3. 天井石
 4. 袖石
 5. 仕切石
 6. 軒石
 7. 文室
 8. 玄門部
 9. 狭道部
- 『古墳辞典』より一部改変

7. 鉄鍔の部位名称・計測は下に示した通りである。



鍔身部の形態……(三)角形・(圓)状(三)角形・(柳)葉形・(扇)状(圓)葉形
(ノミ)形・(片)刀形・(長)三角形・(圓)状長(三)角形
(方)圓形・(他)圓形
鍔身部の造り……(丸)造り・(片丸)造り・(平)造り・(片)造り・(片)切刃造り
(他)刃造り
鍔身部の造り・開……(溝)状・(重)状・(直)角形・(斜)角形・(長)角形・(短)角形
二枚造り
『東三河の横穴式石室 資料編』三河考古 6号より 一部改変

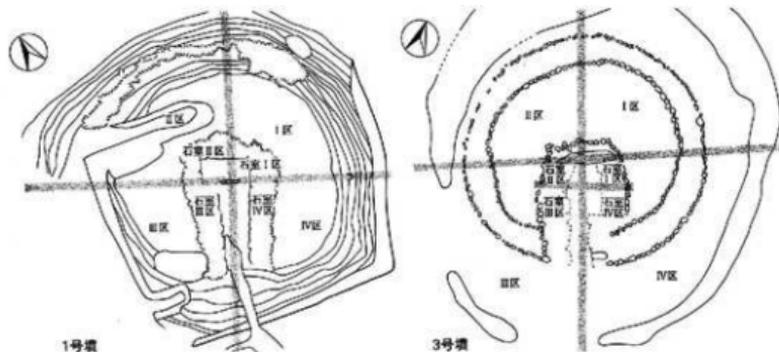
8. 装身具及び玉類の計測は下に示した通りである。



9. 挿図中におけるスクリーン・トーンは下の通りである。

| | | | |
|----|---------------------|-------|-------|
| 遺構 | 地山 黒色土(田表土) | 焼土範囲 | 石断面 |
| | 地山 暗褐色土 (ローム層移層) | カマド範囲 | 墳丘盛地面 |
| | 地山 明褐色土 (ローム層) | | |
| 遺物 | 須恵郡断面 | 黒色処理 | 鉄鍔断面 |

10. 各古墳の区設定は下の模式図の通りである。



目 次

巻頭図版

例 言

凡 例

目 次

| | | |
|-----|-----------------|----|
| 第Ⅰ章 | 発掘調査の経緯 | |
| 第1節 | 調査の経緯と経過 | 1 |
| 第2節 | 調査体制 | 2 |
| 第3節 | 調査日誌 | 2 |
| 第Ⅱ章 | 遺跡の環境 | |
| 第1節 | 自然的環境 | 4 |
| 第2節 | 歴史的環境 | 5 |
| 第Ⅲ章 | 基本層序と概要 | |
| 第1章 | 基本層序 | 8 |
| 第2章 | 検出遺構・遺物の概要 | 8 |
| 第Ⅳ章 | 遺構と遺物 | |
| 第1節 | 古墳跡 | |
| 1) | 蛇塚古墳1号墳 | 10 |
| 2) | 蛇塚古墳2号墳 | 31 |
| 3) | 蛇塚古墳3号墳 | 35 |
| 第2節 | 竪穴住居址 | |
| 1) | 1号住居址 | 49 |
| 2) | 2号住居址 | 50 |
| 3) | 3号住居址 | 54 |
| 第3節 | 掘立柱建物址 | |
| 1) | 1号掘立柱建物址 | 57 |
| 第4節 | 土 坑 | |
| 1) | 1号土坑 | 58 |
| 2) | 2号土坑 | 58 |
| 3) | 3号土坑 | 58 |
| 第5節 | 遺構外遺物 | 59 |
| 第Ⅴ章 | 考 察 | |
| 第1節 | 調査のまとめ | 60 |
| 第2節 | 蛇塚遺跡・蛇塚古墳出土人骨鑑定 | 66 |

引用参考文献

写真図版

挿図目次

| | | | | | |
|------|-------------------------------|----|------|-------------------|----|
| 第1図 | 蛇塚A遺跡群蛇塚遺跡・蛇塚古墳位置図 (1:50,000) | 1 | 第27図 | 3号墳周溝掘出土状況 | 35 |
| 第2図 | 蛇塚遺跡位置図 (1:5,000) | 4 | 第28図 | 3号墳実測図 | 36 |
| 第3図 | 周辺遺跡位置図 (1) | 6 | 第29図 | 3号墳墳丘セクション | 37 |
| 第4図 | 周辺遺跡位置図 (2) | 7 | 第30図 | 3号墳外観列石実測図 | 38 |
| 第5図 | 蛇塚遺跡トレンチ土層柱状図 | 8 | 第31図 | 3号墳整地範囲及び根石検出状況 | 39 |
| 第6図 | 蛇塚遺跡・蛇塚古墳調査全体図 (1:1,000) | 9 | 第32図 | 3号墳石室及び掘り方実測図 | 41 |
| 第7図 | 蛇塚古墳1～3号墳周辺地形図 | 10 | 第33図 | 3号墳出土遺物実測図 (1) | 43 |
| 第8図 | 1号墳調査前全体図 (1:200) | 11 | 第34図 | 3号墳出土遺物実測図 (2) | 44 |
| 第9図 | 1号墳墳丘セクション図 | 12 | 第35図 | 3号墳出土遺物実測図 (3) | 46 |
| 第10図 | 1号墳墳丘実測図 | 13 | 第36図 | 3号墳出土遺物実測図 (4) | 47 |
| 第11図 | 1号墳石室実測図 | 15 | 第37図 | H1号住居址実測図 | 49 |
| 第12図 | 1号墳石室展開図 | 16 | 第38図 | H1号住居址出土遺物実測図 | 50 |
| 第13図 | 1号墳石室計測図 | 17 | 第39図 | H2号住居址実測図 | 51 |
| 第14図 | 1号墳墳丘下溝状遺構実測図 | 18 | 第40図 | H2号住居址コマド実測図 | 52 |
| 第15図 | 1号墳石室遺物出土位置図 | 19 | 第41図 | H2号住居址出土遺物実測図 (1) | 53 |
| 第16図 | 1号墳出土遺物実測図 (1) | 21 | 第42図 | H2号住居址出土遺物実測図 (2) | 54 |
| 第17図 | 1号墳出土遺物実測図 (2) | 23 | 第43図 | H3号住居址及び出土遺物実測図 | 55 |
| 第18図 | 1号墳出土遺物実測図 (3) | 24 | 第44図 | F1号竪立柱建物址実測図 | 57 |
| 第19図 | 1号墳出土遺物実測図 (4) | 25 | 第45図 | D1,2,3号土坑実測図 | 58 |
| 第20図 | 1号墳出土遺物実測図 (5) | 26 | 第46図 | D2号上坑出土古銭拓影図 | 58 |
| 第21図 | 1号墳出土遺物実測図 (6) | 27 | 第47図 | 遺構外遺物実測図 | 59 |
| 第22図 | 1号墳出土遺物実測図 (7) | 28 | 第48図 | 蛇塚古墳1号墳推定復元図 | 62 |
| 第23図 | 2号墳実測図 | 31 | 第49図 | 蛇塚古墳3号墳推定復元図 | 63 |
| 第24図 | 2号墳石室実測図 | 32 | | | |
| 第25図 | 2号墳石室掘り方実測図 | 33 | | | |
| 第26図 | 2号墳出土遺物実測図 | 34 | | | |

表目次

| | | | | | |
|-----|----------------|----|------|------------------|----|
| 第1表 | 1号墳出土遺物観察表 | 20 | 第6表 | 3号墳出土土器観察表 | 45 |
| 第2表 | 1号墳出土鉄器観察表 | 22 | 第7表 | 3号墳出土鉄器観察表 | 46 |
| 第3表 | 1号墳出土玉類観察表 (1) | 29 | 第8表 | 3号墳出土玉類観察表 | 48 |
| 第4表 | 1号墳出土玉類観察表 (2) | 30 | 第9表 | H2・H3号住居址出土遺物観察表 | 56 |
| 第5表 | 2号墳出土土器観察表 | 33 | 第10表 | D2号土坑・3号墳出土古銭一覧表 | 59 |

写真図版目

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 図版一 | 調査区全景 | 図版十 | ①1号墳石室玄室部全景 |
| 図版二 | ①1号墳調査前風景 ②1号墳南側石積み近景 ③1号墳調査前風景 | ②1号墳石室玄室部内近景 | |
| 図版三 | ①1号墳全景 ②1号墳全景 | ③1号墳石室「右障」全景 | |
| 図版四 | ①1号墳墳丘側面東側 ②1号墳墳丘側面西側 ③1号墳墳丘側面北側 | 図版十一 | ①1号墳石室羨道部障床 ①1号墳石室羨道部障床検出状況 ②1号墳石室羨道部玉割出土状況 |
| 図版五 | ①1号墳外観列石検出状況北側面全景 ②1号墳外観列石検出状況 ③1号墳外観列石検出状況北側斜面近景 | ③1号墳墳丘盛土状況 | |
| 図版六 | ①1号墳西側掘乱部分 ②1号墳石室検出状況 ③1号墳石室検出状況 | ②1号墳墳丘盛土状況 ③1号墳墳丘盛土状況 | |
| 図版七 | ①1号墳石室全景 | 図版十三 | ①1号墳墳丘盛土検出状況 ②1号墳外観列石埋設状況 ③1号墳外観列石埋設状況 |
| 図版八 | ①1号墳石室全景南より ②1号墳石室全景西より ③1号墳石室全景 | ②1号墳墳丘盛土検出状況 ③1号墳外観列石埋設状況 | |
| 図版九 | ①1号墳石室奥壁検出状況 ②1号墳石室右側壁検出状況 ③1号墳石室左側壁検出状況 | 図版十四 | ①1号墳石室裏込め検出状況 ②1号墳石室裏込め状況 ③1号墳石室裏込め状況 |
| | | ③1号墳石室裏込め検出状況 ②1号墳石室裏込め検出状況 ③1号墳石室裏込め検出状況 | |
| | | 図版十五 | ①1号墳石室裏込め検出状況 ②1号墳石室裏込め検出状況 ③1号墳石室裏込め検出状況 |
| | | ③1号墳石室裏込め検出状況 ②1号墳石室裏込め検出状況 ③1号墳石室裏込め検出状況 | |
| | | 図版十六 | ①1号墳石室床底部検出状況 ②1号墳石室割礎設置状況 ③1号墳石室掘り方 |
| | | ③1号墳石室掘り方 ①1号墳石室奥壁埋設状況 ②1号墳石室右側壁埋設状況 ③1号墳石室左側壁埋設状況 | |
| | | 図版十七 | |

- 図版十八 ①1号墳墳丘整地層
②1号墳墳丘下溝状遺構検出状況
③1号墳調査風景
- 図版十九 ①2号墳調査前風景
②2号墳調査前石室全景
- 図版二十 ①2号墳全景
②2号墳全景
- 図版二十一 ①2号墳周溝調査近景
②2号墳周溝調査近景
③2号墳周溝内遺物出土状況
- 図版二十二 ①2号墳石室全景
②2号墳石室全景
- 図版二十三 ①2号墳石室掘り方全景
②2号墳石室玄室内近景
- 図版二十四 ①3号墳調査前風景
②3号墳調査前風景
③3号墳調査前風景
- 図版二十五 ①3号墳検出状況
②3号墳外回り外護列石検出状況
③3号墳外回り外護列石検出状況
- 図版二十六 ①3号墳東側周溝調査風景
②3号墳東側周溝調査風景
③3号墳南側周溝調査風景
- 図版二十七 ①3号墳東側周溝セクション
②3号墳北側周溝セクション
③3号墳周溝内遺物出土状況
- 図版二十八 ①3号墳全景
②3号墳全景
- 図版二十九 ①3号墳全景
②3号墳全景
- 図版三十 ①3号墳外回り外護列石全景南側
②3号墳外回り外護列石全景北側
③3号墳外回り外護列石全景東側
④3号墳外回り外護列石全景西側
- 図版三十一 ①3号墳外回り外護列石近景
②3号墳外回り外護列石近景
③3号墳外回り外護列石控え積み状況
④3号墳外回り外護列石控え積み状況
- 図版三十二 ①3号墳全景外回り外護列石除去後
- 図版三十三 ①3号墳全景外回り外護列石除去後
②3号墳全景外回り外護列石除去後
- 図版三十四 ①3号墳内回り外護列石全景南側
②3号墳内回り外護列石全景北側
③3号墳内回り外護列石全景東側
④3号墳内回り外護列石全景西側
- 図版三十五 ①3号墳内回り外護列石近景
②3号墳内回り外護列石近景
③3号墳内回り外護列石近景
- 図版三十六 ①3号墳内回り外護列石近景
②3号墳内回り外護列石近景
③3号墳内回り外護列石近景
- 図版三十七 ①3号墳外回り外護列石掘石検出状況
②3号墳外回り外護列石掘石検出状況
③3号墳内回り外護列石近景
- 図版三十八 ①3号墳内回り外護列石控え積み検出状況
②3号墳内回り外護列石控え積み検出状況
③3号墳内回り外護列石控え積み検出状況
- 図版三十九 ①3号墳内回り外護列石控え積み検出状況
②3号墳内回り外護列石控え積み検出状況
③3号墳内回り外護列石控え積み検出状況
- 図版四十 ①3号墳全景内回り外護列石除去後
②3号墳全景内回り外護列石除去後
- 図版四十一 ①3号墳石室控え積み検出状況
②3号墳石室控え積み検出状況
③3号墳石室控え積み検出状況
- 図版四十二 ①3号墳石室控え積み検出状況
②3号墳石室控え積み検出状況
③3号墳石室奥壁設置状況
- 図版四十三 ①3号墳石室奥壁設置状況
②3号墳調査風景
③3号墳石室掘り方検出状況
- 図版四十四 ①3号墳奥壁除去作業風景
②3号墳墳丘整地面検出状況
③3号墳旧地形検出状況
- 図版四十五 ①H1号住居址全景
②H1号住居址炉検出状況
③H1号住居址遺物出土状況
- 図版四十六 ①H2号住居址全景
②H2号住居址カマド全景
- 図版四十七 ①H2号住居址貯蔵穴検出状況
②H2号住居址北東コーナー遺物出土状況
③H2号住居址間仕切り溝検出状況
- 図版四十八 ①H3号住居址全景
②F1号竪立柱建物全景
- 図版四十九 ①D1号土坑全景
②D2号土坑全景
③D3号土坑全景
- 図版五十 蛇塚古墳1,2号墳出土遺物
- 図版五十一 蛇塚古墳3号墳出土遺物
- 図版五十二 蛇塚遺跡H1,2号住居址出土遺物
- 図版五十三 蛇塚遺跡H2号住居址出土遺物
- 図版五十四 蛇塚遺跡H3号住居址・ノ」」出土遺物
- 図版五十五 蛇塚古墳2号墳・土坑出土遺物
- 図版五十六 蛇塚古墳1号墳出土鉄製品①
- 図版五十七 蛇塚古墳1号墳出土鉄製品②
- 図版五十八 蛇塚古墳1号墳出土鉄製品③
- 図版五十九 蛇塚古墳3号墳出土鉄製品
- 図版六十 蛇塚古墳1号墳出土装身具類①
- 図版六十一 蛇塚古墳1号墳出土装身具類②
- 図版六十二 蛇塚古墳3号墳出土装身具類
- 図版六十三 蛇塚古墳1,3号墳出土鉄製品X線写真
- 図版六十四 蛇塚古墳1,3号墳出土鉄製品X線写真

第I章 発掘調査の経緯

第1節 調査の経緯と経過

蛇塚遺跡及び蛇塚古墳が所在する蛇塚 A 遺跡群は、佐久市の北東部、安原地籍に所在し浅間山に源を発する湯川の浸食により形成された第2段丘面に位置する。標高は720m内外を測る。この白地の周辺には、北から腰巻遺跡、西大久保遺跡、下小平遺跡、蛇塚B遺跡などの調査された遺跡が存在する。また、遺跡の北300mの地点には、湯川によって形成された河岸段丘の崖際にその年の初午祿日で賑わいをみせる「鼻頭稲荷神社」が鎮座している。

今回調査の経緯は、まず蛇塚遺跡部分について平成5年に佐久市において宅地造成が計画され、同年6月に教育委員会によって試掘調査を行った。その結果、古墳時代の竪穴住居址1軒と古墳跡1基が確認された。よって佐久市と教育委員会で協議を行い、墳丘が存在する蛇塚古墳においては現状保存とし、確認された蛇塚遺跡内の遺構については記録保存とすることが決まり、平成6年度に発掘調査がなされた。しかし、平成7年度に入り佐久市土地開発公社に事業移管がなされ、設計段階の時点で、現状での蛇塚古墳の保存が困難となり、古墳規模・残存状況の把握の為に試掘調査がなされた。その結果をもとに佐久市土地開発公社と佐久市教育委員会において再度協議を行ったが、造成地内の入り口部分に当たることや、日照の問題等々で現状での保存は困難となり、その結果あらためて蛇塚古墳及び開発拡張部分の記録保存を目的とする発掘調査を実施することとなった。調査は佐久市土地開発公社から委託を受けた佐久市教育委員会が実施した。

なお、調査対象地内にあった旧(財)長野県埋蔵文化財センター佐久調査事務所敷地部分(2000m²)については1982年度(昭和57年度)に佐久水道企業団による開発時に試掘調査を、また造成時の1986年度(昭和61年度)に立ち会い調査をした結果、遺構・遺物は存在しないことが確認されている。



第1図 蛇塚A遺跡群蛇塚遺跡・蛇塚古墳位置図(1:50,000)

第2節 調査体制

| | | | | | | |
|--------|-------|---------|-------|------|-------|------|
| 平成6年度 | 調査受託者 | 教育長 | 大井季夫 | | | |
| | | 事務局 | 教育次長 | 奥原秀雄 | | |
| | | 埋蔵文化財課長 | 戸塚 満 | | | |
| | | 管理係 | 長谷津恭子 | | | |
| | | 管理係 | 田村和広 | | | |
| | | 埋蔵文化財係長 | 草間芳行 | | | |
| | | 埋蔵文化財係 | 林 幸彦 | 三石宗一 | 須藤隆司 | 小林眞寿 |
| | | 羽毛田卓也 | 富沢一明 | 上原 学 | | |
| 平成8年度 | 調査受託者 | 教育長 | 依田英夫 | | | |
| | | 事務局 | 教育次長 | 市川 源 | | |
| | | 埋蔵文化財課長 | 北沢元平 | | | |
| | | 管理係長 | 榑沢慶子 | | | |
| | | 管理係 | 田村和広 | | | |
| | | 埋蔵文化財係長 | 大塚達夫 | | | |
| | | 埋蔵文化財係 | 林 幸彦 | 三石宗一 | 須藤隆司 | 小林眞寿 |
| | | 羽毛田卓也 | 富沢一明 | 上原 学 | | |
| 平成11年度 | 調査受託者 | 教育長 | 依田英夫 | | | |
| | | 事務局 | 教育次長 | 小林宏造 | | |
| | | 文化財課長 | 草間芳行 | | | |
| | | 文化財係長 | 萩原一馬 | | | |
| | 文化財係 | 林 幸彦 | 須藤隆司 | 小林眞寿 | 羽毛田卓也 | |
| | | 富沢一明 | 上原 学 | 山本秀典 | 出澤 力 | |

平成6年度～11年度

| | | | | | | |
|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 調査主任 | 佐々木宗昭 | 森泉かよ子 | | | | |
| 調査副主任 | 堺 益子 | | | | | |
| 調査員 | 飯沢つや子 | 井出愛子 | 上原幸子 | 遠藤しづか | 小幡弘子 | 小田川栄 |
| | 川多アヤ子 | 神津ツネヨ | 小林淳子 | 小林幸子 | 小山澄恵 | 齋藤真理 |
| | 佐久本眞樹子 | 佐藤愛子 | 島田幹子 | 角田すづ子 | 角田トミエ | |
| | 角田良夫 | 東城友子 | 東城幸子 | 徳田代助 | 榑田咲枝 | 橋詰けさよ |
| | 橋詰勝子 | 橋詰信子 | 花里番代子 | 宮川百合子 | 柳沢孝子 | |
| | 山崎 直 | 依田みち | | | | |

第3節 調査日誌

蛇塚遺跡（平成6年度）

| | | | |
|-------|------------------|-------|------------|
| 7月7日 | 発掘調査準備 | 7月27日 | 3号住居址平面図作成 |
| 7月11日 | 精査・竪穴住居址の掘り下げ | 7月29日 | 2号住居址カマド図面 |
| 7月14日 | 2号墳の調査開始 | 8月4日 | 2号墳周溝全景写真 |
| 7月15日 | 2号墳の周溝掘り下げ | 8月12日 | 2号墳全体図作成 |
| 7月20日 | 2号住居址の平面図・土層図面作成 | 8月17日 | 整理作業 遺物洗浄 |
| | 2号墳周溝セクション図・写真撮影 | 8月25日 | 整理作業 写真整理 |

蛇塚古墳 (平成8年度)

| | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------------------------|
| 4月4日 | 機材搬入 | 7月2日 | 1号墳東西セクション写真撮影 |
| 4月8日 | 1号墳調査開始 | 7月9日 | 3号墳コンテ図作成 |
| 4月9日 | 3号墳調査開始 | 7月11日 | H1号住居址埋蓋実測 |
| 4月11日 | 1号墳ラジコンによる空中撮影 | 7月15日 | 1次墳丘トレンチ掘り下げ |
| 4月17日 | 3号墳外回り外護列石検出 | 7月20日 | 蛇塚古墳現地説明会 |
| 4月23日 | 3号墳周溝掘り下げ | 8月2日 | 3号墳東西セクション作成 |
| 5月7日 | 1号墳石室範圍検出 | 8月9日 | 3号墳石室裏込め撮影 |
| 5月16日 | 1号墳墳丘北側石積み検出 | 8月22日 | 奥壁支柱設置 |
| 5月21日 | 1号墳羨道部ガラス小玉出土 | 8月30日 | 1号墳・3号墳ラジコン撮影 |
| 5月23日 | 1号墳2回目航空測量実施 | 9月2日 | 3号墳外回り外護列石根石図 エレベーション図作成 |
| 5月24日 | 北側拡張部分の試掘調査 | 9月5日 | 1号墳石室内上ふるい |
| 5月29日 | 3号墳石室掘り下げ | 9月18日 | 3号墳奥壁・側壁掘り方平面図 |
| 6月6日 | 3号墳周溝平面図 1号墳石室実測 | 9月26日 | 1号墳裏込め基礎部セクション図作成 |
| 6月12日 | 3号墳ラジコンによる空中撮影 | 9月27日 | 発掘調査終了 機材撤収をする。 |
| 6月20日 | H1号住居址検出 | | |

蛇塚遺跡・蛇塚古墳 (平成11年度)

平成11年4月1日～平成12年3月31日

出土遺物の復元・実測

遺構・遺物の挿図作成

遺物写真撮影

原稿執筆を行い報告書を刊行する。



蛇塚古墳現場説明会風景

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 自然的環境

佐久市の地形は巨視的にみると大きく南北二つの地域に分かれる。一つは浅間山及びその周辺火山の活動に影響を受け地形形成がなされた北部地域であり、もう一つは千曲川及びその支流の氾濫過程において浸食と堆積が繰り返された結果、地形が形造られた南部地域である。地籍的には北部が岩村田・小山井・長土呂・中佐都・安原地籍周辺であり、南部が平賀・中込・野沢・根岸付近をさす。

蛇塚遺跡が含まれる蛇塚A遺跡群は佐久市の北東部安原地籍にあり、湯川の河岸段丘最上面に所在する。湯川は浅間山麓に源を発し南流しながら佐久市に入り、蛇塚遺跡下流1kmのところで流れを西に向ける。遺跡と湯川との高低差は48mを測る。遺跡の立地するこの段丘は浅間火山がもたらした浅間第一軽石流(P1)が厚く堆積する。この軽石流堆積物は固結凝集が不十分で水の浸食にきわめて弱く、小さな川でも浸食され田切地形を形成しやすく、湯川対岸の岩村田・長土呂地籍はこの田切地形が顕著にみられる。また、これら田切地形の末端にある中佐都地籍は、黒夷火山の活動の末期に起こった大規模な水蒸気爆発によって破壊された物質が大量に山麓へ流下してできたものと考えられている「流れ山」が数多く見られる。この「流れ山」は凹凸の大きい堆積物の表面を新しい沖積堆積物が覆ったため、もっとも高い頂上部だけが小丘として残ったものである。蛇塚古墳もこれと類似する微高地上に立地するが、中佐都地籍にみられるような「流れ山」と形成要因が同一であるかは不明である。



第2図 蛇塚遺跡位置図 (1:5000)

第2節 歴史的環境

今回発掘調査を行った蛇塚遺跡が所在する蛇塚A遺跡群は過去調査された遺跡は存在しないが、周辺の調査された遺跡も含め時代別に周辺地域の歴史的環境を概観したい。

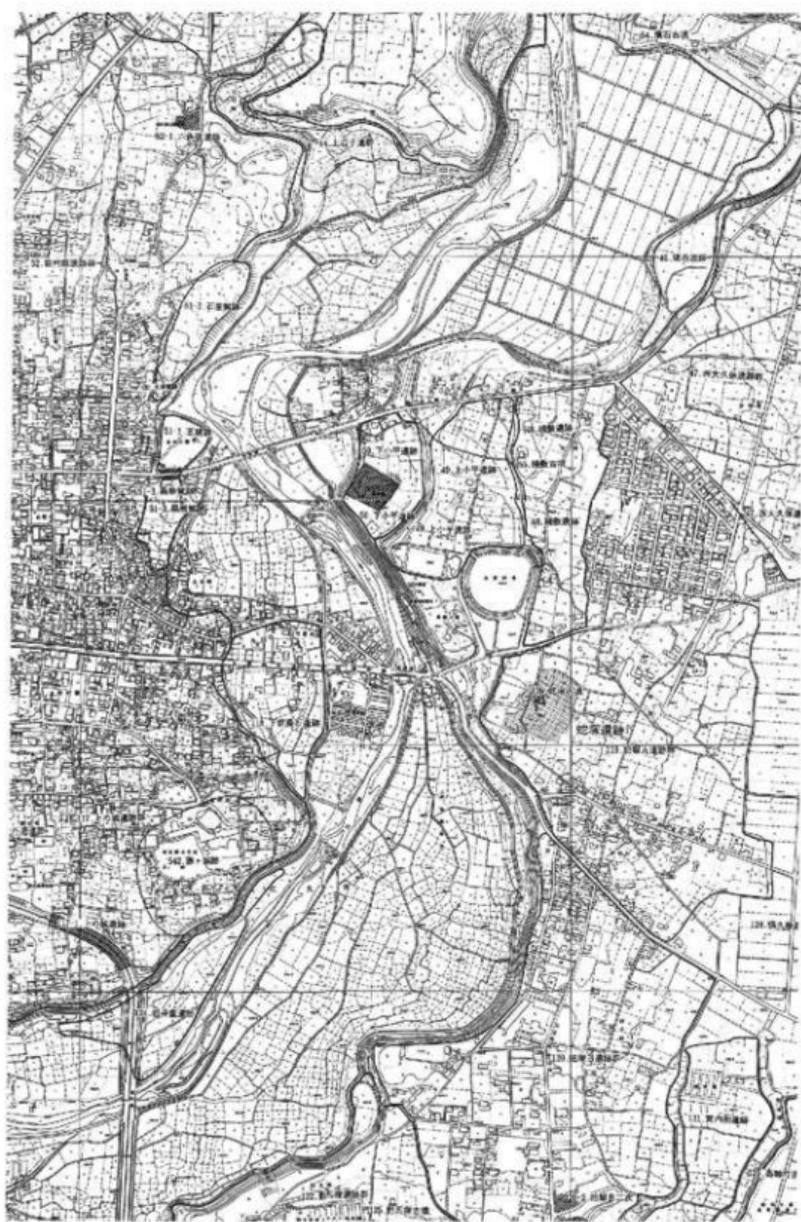
まず先土器時代の遺構は周辺地域では見つからない。次に縄文時代の遺跡としては当遺跡東方2kmの山沿いに権現平・池端遺跡がある。部分的な調査ではあるが前期中葉（黒浜・有尾）の集落址8軒が検出され、また隣接の池端城跡からは中期初頭末（五領ヶ台）の住居址1軒が調査されている。この内、権現平遺跡の縄文集落址は部分的発掘調査の為全容が不明であるが、佐久市としては千曲川西岸の蓼科山麓に立地する後沢遺跡の縄文前期（関山平行）の集落址に続く唯一の黒浜期集落址として貴重な資料を提示した。また遺跡の北方1.2kmの湯川河岸段丘の上に立地する腰巻遺跡からは、中期後葉から晩期末葉の所産と考えられる土坑が検出されている。当地域の縄文時代集落は東側山地部分で数多く検出され、今回、蛇塚遺跡で検出の住居址1軒は非常に珍しい。

次に弥生時代になると先に挙げた腰巻遺跡や湯川第1河岸段丘上の下小平遺跡、濱石遺跡がある。まず、腰巻遺跡は後期の住居址1軒、濱石遺跡も後期の住居址1軒、下小平遺跡は後期の住居址5軒、野馬窪遺跡では後期住居址2軒が検出されている。何れも小規模な発掘面積のため、集落の全容は把握できないが湯川西岸の岩村田・長土呂地籍に展開する「赤い土器」と呼ばれる後期箱清水期の集落である周防畑遺跡のような規模の大きくなりそうな集落址は発見されていない。

古墳時代になると前期の集落として、先にも上げた腰巻遺跡・濱石遺跡や湯川西岸の栗毛坂遺跡、また東方の山際にあたる宿上屋敷遺跡・池端城跡及び池端遺跡などがある。遺構は腰巻遺跡が住居址4軒、濱石遺跡が住居址1軒、宿上屋敷遺跡で2軒、池端城跡及び池端遺跡で3軒、栗毛坂遺跡で7軒、下小平遺跡で方形周溝墓2基が検出されている。過去この前期集落址は佐久平において調査例が少なく稀少であった。しかし、近年の調査で検出例が増加している。これらの成果を踏まえると佐久平内において集落の分布にかたよりが見られる。まず1つは今回の蛇塚遺跡周辺の湯川べりから山際にかけての地域、そして、もう一つは新幹線佐久平駅周辺、そして最後に蓼科山麓の山裾近辺である。ちょうど佐久平を東西に横切る状態を示している。このことは、「古東山道」との関連もふくめて非常に興味深い現象といえる。次に中・後期の集落としては、蛇塚遺跡の湯川対岸にあたる黒岩城跡で15軒、栗毛坂遺跡で10軒を数える。前段階に比べると若干集落規模は拡大するものの、長土呂地籍で検出されるような大集落は形成されない。それとは逆に古墳址となると非常に集中傾向をみせる。まず、湯川の段丘縁には北より濱石古墳・棧敷古墳・蛇塚古墳・野馬窪古墳があり、東側山地斜面には北から横根古墳群28基、平古墳群3基、矢口古墳群3基、一本松古墳群3基、城古墳群6基などがある。佐久市の後期古墳群はこの東部山地に偏在する傾向にあるが、蛇塚古墳周辺の古墳群もその一翼を担っている。なおこれらの古墳は何れも横穴式石室を主体部に持つ小規模な円墳と考えられるが、湯川段丘端に築かれた古墳はいずれもやや大型で単独墳的な様相をみせている。

次に古代に入ると集落がやや大きくなる傾向にある。当遺跡の南1kmの蛇塚B遺跡では過去3度の調査がなされ26軒の平安時代住居址が検出されている。しかし、湯川西岸の長土呂地籍において平成元年度から7年間調査され、竪穴住居址975軒・掘立柱建物址858棟が検出された聖原遺跡のような大規模な集落は発見されていない。このことは、湯川東岸が稲作生産に適さない水利条件ということが最大の原因と考えられるが、聖原遺跡も決して水田耕作に適した土地とはいえず、その点からも聖原遺跡の特殊性が伺える。

中世以降としては、湯川西岸の段丘上に石並城・王城・黒岩城跡がある。これら城郭は中世前期に佐久平で活躍した大井氏の本拠地として推定され大井城跡とも呼ばれている。大井氏は承久の乱（1221年）後佐久に勢力をのびた地方豪族で信濃国守護小笠原氏を祖とする一党である。同時期に佐久平南部に勢力をはった伴野氏とは兄弟関係にある。大井氏はその後文明16年（1484年）に村上氏によ



第3圖 周邊遺跡位置圖(1)

って大井城を焼かれるまで260年にわたって佐久北部に勢力をふるった。この大井城跡のうち王城の一部と黒岩城の一部が昭和54.55.59年にそれぞれ発掘調査が行われている。検出された遺構としては竪穴状遺構54基・土坑285基・掘立柱建物址3棟で所産時期はそれぞれ15.16世紀と考えられている。特に掘立柱建物址は大型のもので注目される。出土遺物としては石臼・金属製品・国産陶磁器・舶載青白磁器・鉄滓などが出土している。これら遺物と遺構から調査された遺構は城郭主要部分の建物址ではなく、城に付随した周辺の工房であった可能性が指摘されている。

近世にはいると江戸幕府により整備された「中山道」が現岩村田市街地を通過し宿場町が形成された。当時の建物は殆どのこされていなが、現在でも地割りに町屋としての面影を残している部分もある。この内、中宿地籍で平成9年度に発掘調査がなされている。調査面積は450㎡と狭い範囲であったが、古墳時代後期の住居址2軒と中世～近世と考えられる竪穴建物址7棟が検出された。また出土遺物としては舶載青磁・国産陶磁器類・鉄製品などがあった。出土遺物の所産時期は古いもので15世紀の青磁片もあるがおおむね17世紀前半～19世紀代のものであった。なかでも織部大皿(16世紀前半～17世紀前半)と志野織部向付(16世紀末～17世紀)の破片がそれぞれ出土したことは注目される。報文では県内出土の例として松本市の「松本城三の丸跡」出土黒織部茶碗があるのみで他に例を聞かないようであり、本遺跡出土の織部の意義を近接した大井城との関連で想定している。ただ、江戸幕府の岩村田宿整備について「佐久市志 歴史編(三) 近世」によれば「慶長12年(1607年)に岩村田宿役人が小諸城主に出した文書の中に能雲寺・西念寺・真光寺の門前百姓だけでも91軒、1744人、しかし諸職については医師一人・かじ一人・大工二人・退帳者六人とだけ記載されており、この時点で市店の並ぶ宿場までの発展はしていなかったと思われる。」と述べられている。兵火にあった文明16年(1484年)から約120年間の中世岩村田の様子は「大井氏降参の頃に比べどのようなものであったのか不透明である。織部が出土した特殊遺構からは「寛永通宝」を含む19世紀代の遺物も出土していることから、中宿遺跡も敷地内に含まれる可能性がある岩村田陣屋(成立は遅くとも18世紀初頭)や宿場整備後(17世紀初頭)に成立した問屋衆との関連も否定しえないように思われる。

以上、周辺の調査された遺跡を中心に時代をおって歴史的環境を概観してみた。



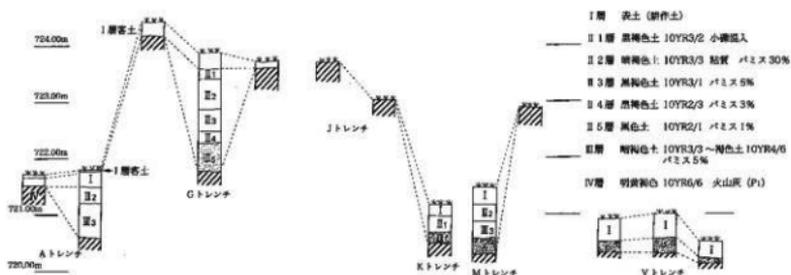
第4図 周辺遺跡位置図(2)

第三章 基本層序と概要

第1節 基本層序

蛇塚遺跡は蛇塚A遺跡群の西端に位置し、湯川東岸の河岸段丘端に位置する。遺跡の海拔は722～724mを測る。遺跡周辺部は東側の平坦地に比べ約2mほど高く微高地を形成している。また今回の調査対象地内には西より埋没谷が延びてきており、旧来の地形は現状と大きく異なっていたことが試掘調査により解っている。なお、この埋没谷はそのまま湯川側に緩やかに傾斜しており、当遺跡西側は付近の「鼻願稲荷神社」が立地するような急峻な崖ではなかったようである。このことは後述する蛇塚古墳築造の大きな理由の一つとも考えられる。

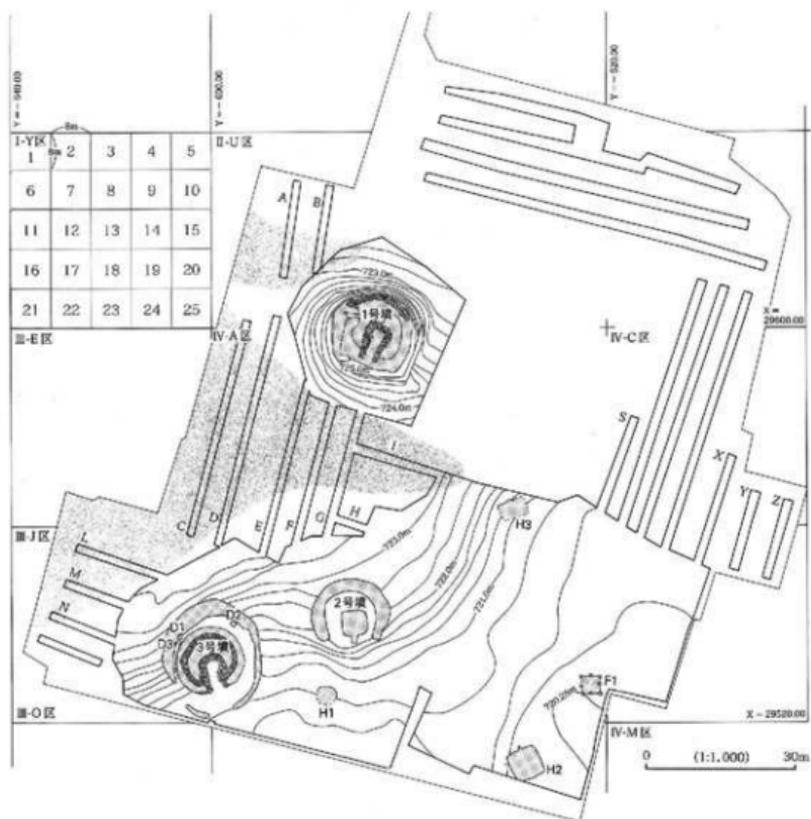
遺跡の堆積土は基本的に浅間山の噴出物であるP1（Ⅳ層）に覆われている。一部埋没谷によって形成された黒褐色土（Ⅱ層）が存在する。遺構確認面は基本的にⅣ層でおこなった。



第5図 蛇塚遺跡トレンチ土層柱状図

第2節 検出遺構・遺物の概要

| | | | |
|------|--------|--|---|
| 検出遺構 | 古墳址 | 3基 | (1号墳 6世紀後葉～7世紀初頭) (2号墳 8世紀前半) (3号墳 7世紀後半) |
| | 竪穴住居址 | 3軒 | (縄文中期後半1・古墳時代後期1・平安時代1) |
| | 掘立柱建物址 | 1棟 | (時期不明) |
| | 土坑 | 3基 | (中世・D1は火葬墓、D2は土墳墓) |
| 出土遺物 | 古墳関係 | 須恵器一甕・提瓶・ハク・器台・高坏 土師器一坏 鉄製品一轡・鞍金具・辻金具・帯金具・刀子・鉄鍬 装身具一勾玉・管玉・ガラス小玉・切子玉・棗玉・耳環 | |
| | 住居址関係 | 縄文土器一深鉢 (加曾利EⅣ、唐草文系) 石器一打製石斧 土師器一坏・甕 | |
| | 土坑関係 | 古銭・人骨 | |



第6図 蛇塚A遺跡群。蛇塚遺跡・蛇塚古墳調査全体図



蛇塚遺跡調査区東側全景（北より）

第Ⅳ章 遺構と遺物

第1節 古墳跡

今回調査された古墳跡の内、蛇塚古墳1号墳については「蛇塚古墳」として旧来より周知されていた古墳である。平成6年度、開発に先立つ試掘調査がなされ2基の古墳跡がみつかり蛇塚古墳が群集する古墳群であることが確認された。よって、本来ならば蛇塚古墳群1～3号墳と名称をつけなければならないところであるが、周辺部に新たな古墳跡発見の可能性も薄いことから混乱を防ぐために、今回の報告では蛇塚古墳1号墳・2号墳・3号墳として報告することとした。

1) 蛇塚古墳1号墳

本址は調査区の北側Ⅱ-U-24.25、Ⅳ-A-4、5Grに位置する。1号墳の調査前の状況は、墳丘上に佐久水道企業団の構築物があり墳頂部及び西側にも基礎が立っていた。調査前の墳丘規模は南北20m、東西23mでいびつな円形を呈し、北側で比高差4mを測る。南側墳端には地籍境の石垣が築かれていた。

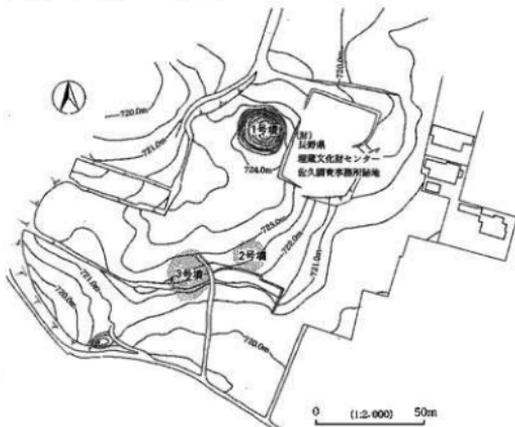
立地は2、3号墳と異なり、台地部分の中でもより高い残丘状の微高地を選地している。

この微高地は標高724m付近か 第7図 蛇塚古墳1～3号墳周辺地形図

らば円錐形に盛り上がり、高さは2.7m程の規模であった様である。微高地の形成過程は不明であるが、古墳調査の折り東側断面で、P1層が南側に向けてせり上がる状態を示しており、中佐都地籍に多く見られる「流れ山」と或いは同一の形成過程を推定できるのかもしれない。表土除去後の状況では墳丘南側・東側は自然の浸食か或いは畑地拡大の為の削平が行われており、西側は構築物の基礎部分があったらしく大きく地形の改変を受けていた。また墳丘部分にもセメントが詰まった土坑状の攪乱があった。

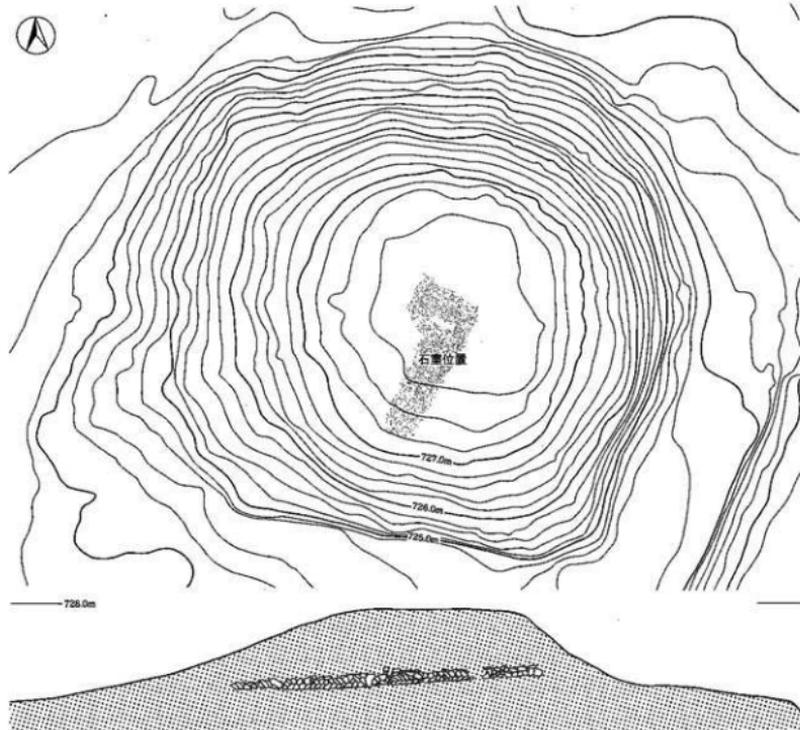
墳丘は墳丘北側で検出された外護列石が円弧状に確認されたことから円墳と考えられる。規模は先の外護列石の円弧をもとに推定すると直径16.8mで、円の中心は石室框石上に求められる(第48図推定復元図参照)。周溝は確認されなかった。主体部は墳頂部に南側開口の横穴式石室が検出された。石室の主軸はやや西側にずれる。

墳丘は先にも述べたが攪乱が激しく、古墳本来の墳丘が確認された部分のごく僅かである。墳丘が確認された部分は北側標高725m付近の外護列石から東側一部と墳頂部であるが、墳頂部も本来の盛土高さは失われており、石室側壁1段のみしか残存していないことから大部分は損失しているものと思われる。墳丘盛土は北側が標高725m、南側が標高726m前後より上部で確認された。盛土最大の高さが確認されたのは北側セクション付近で旧地表面より1.35m程を測る。盛土は基本的に4種類に分別できた。墳丘整地土・一次墳丘・二次墳丘・石室構築土である。各土層の概要は、まず墳丘整地層で旧表土上に墳丘北側を中心に確認された。地形の傾斜を水平に保つ為の土層と考えられる。次に一次

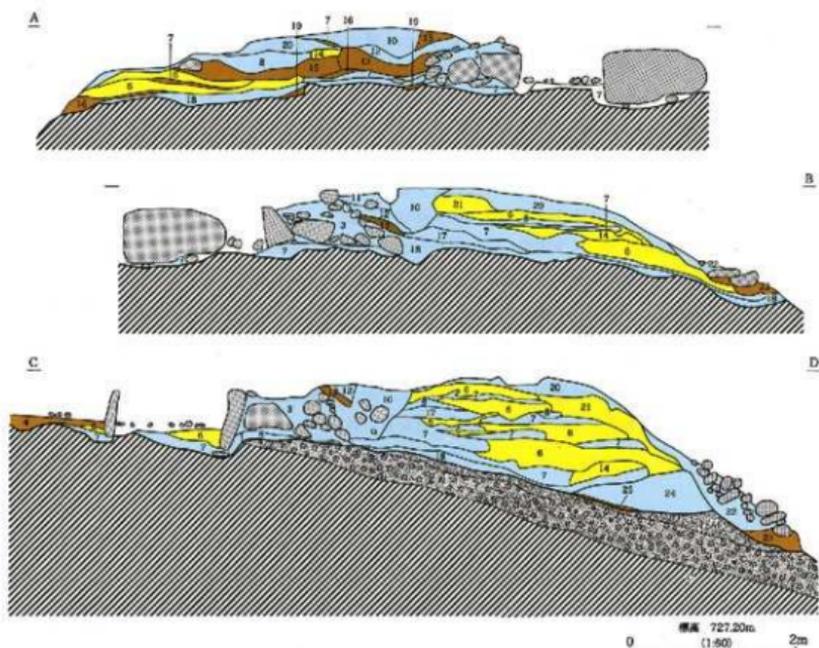


墳丘としたもので、墳丘の骨格を形成する土層である。黒色土と明黄褐色土を中心に版築状に積み上げられていた。特に北側では黒色土と明黄褐色土が交互に積み重ねられている良好な様子が観察された。ただ、詳細に観察すると一次墳丘は石室裏込め石を覆うような状態で盛り上げられているが、石室際（10～13層）は石室裏込め土と一次墳丘を掘り込んだ様な状態を示しており、一次墳丘として同一には捉えられないのかもしれない。次に二次墳丘で、古墳の最終整形に関わる土層と考えられる。主に北側から東側で確認され外護列石を支えるよう状態であった。石室構築時に伴う土層は石室の部で後述する。これらの土層は古墳の中でそれぞれに機能を担っている訳であるが、それぞれが独立した土層ではなく、連鎖的なつながりをもって存在する。特に一次墳丘と石室構築土は交互に積み重ねを行った様な状況が観察でき作業時間の連続性を推察できる。

外護列石は北側墳丘を中心に東側の一部で確認された。規模は残存状況のよい北東側で高さ1.5m、9段の石積みが確認された。積み方の傾斜は40°前後を測る。積み方は基底部のみ人頭大の礫をほぼ規則的に並べているが、2段目からは不規則な積み方で大きさも不統一である。列石の使用礫は基底部が湯川系黒色多孔質安山岩が多く、2段目以上は湯川系黒色多孔質安山岩・輝石安山岩・細粒安山岩などが多く使用されていた。これらの礫はいずれも湯川河床面で採取できるものである。なお、今回1号墳の墳端部の礫群を「外護列石」として報告したが、東側墳丘上部まで礫の散在する状況や緩い傾斜で積まれている事などから「葺石」とすべきかもしれない。



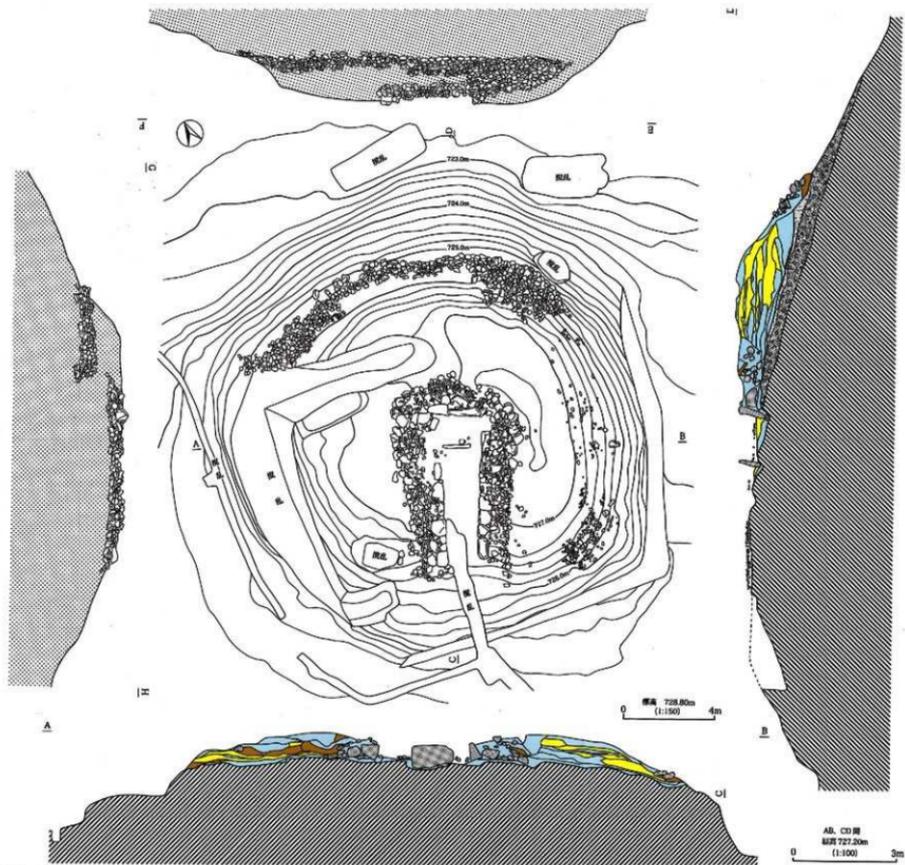
第8図 1号墳調査前全体図(1:200)

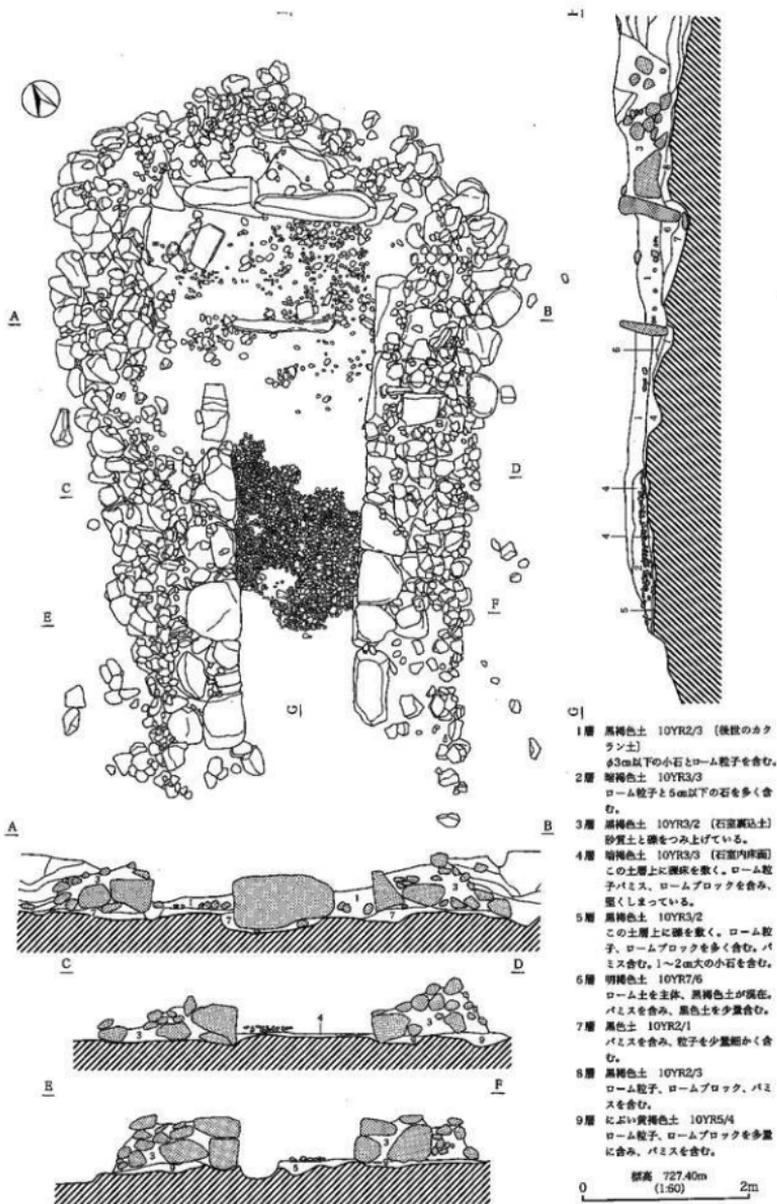


- (石室内埋蔵土)
- 1層 黒褐色土 10YR2/3 雑草の埋蔵土で ϕ 3cm以下の小石とローム粒子を含む。
- 2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子と5cm以下の石を多く含む。
- (石室溝込土)
- 3層 黒褐色土 10YR3/2 砂質土と礫を積み上げている。
- 4層 暗褐色土 10YR3/3 この土層上に礫床を敷く。ローム粒子、パミスロームブロックを含み、硬くしまっている。
- 5層 黒褐色土 10YR3/2 この土層上に礫床敷く。ローム粒子、ロームブロックを多く含む。パミスを含む。1~2cmの小石を含む。
- (石室敷地土)
- 6層 明褐色土 10YR7/6 ローム土を主体、黒褐色土が混在。パミスを含まず黒色土を少量含む。
- 7層 黒色土 10YR2/1 パミスを含み、粒子を少量細かく含む。
- 8層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子、ロームブロック、パミスを含む。
- 9層 Cの埋蔵土 10YR5/4 ローム粒子、ロームブロックを多量に含み、パミスを含む。
- (一次墳丘)
- 10層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子、パミスを含む。ロームブロック少量含む。
- 11層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒子、パミス少量含む。
- 12層 黒色土 10YR2/1 ローム粒子、ロームブロックを含む。パミス含む。粒子細かい。
- 13層 褐色土 10YR4/4 ローム粒子多く含む。
- 14層 明褐色土 10YR7/5 ローム土主体、パミス含む。
- 15層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子、ロームブロック、パミスを含む。
- 16層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒子を少量含む。パミスを含む。

- (一次墳丘)
- 17層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子、パミスを少量含む。
- 18層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒子、ロームブロックを含む。パミスを含む。非常に硬く、しまっている。
- 19層 暗褐色土 10YR3/3 パミス、ローム粒子を含む。 ϕ 2~3cmの小石を少量含む。しまりあり。
- 20層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒子、パミスを含む。ロームブロックを少量含む。しまりあり。黒色土のブロックを含む。
- 21層 明褐色土 10YR7/5 黒褐色土との混合土でパミス含む。
- (二次墳丘)
- 22層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子、パミスを少量含む。新石儀込のため ϕ 10cm以下の内礫を多く含む。しまりなし。
- 23層 褐色土 10YR4/4 ローム粒子多く含む。パミスを含む。しまりあり。
- (溝内埋蔵土)
- 24層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒子、ロームブロック、パミスを少量含む。
- 25層 褐色土 10YR4/4 ローム粒子を多く含む。パミスを含む。
- (地山)
- A層 黒色土 10YR2/1 旧土層
- B層 暗褐色土 10YR3/3 ローム埋蔵層
- C層 明褐色土 10YR5/8 ローム層 (F1)

第9図 1号地増丘の断面図

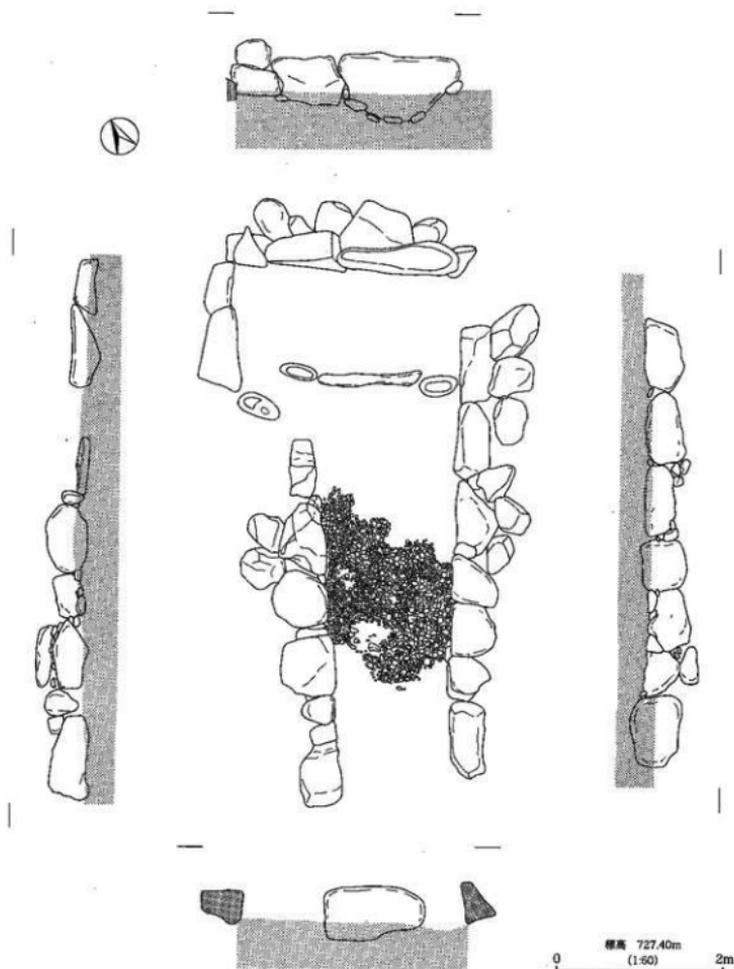




第11図 1号墳石室実測図

埋葬施設は前述したが両側開口の横穴式石室である。残存状態は幾たびかの破壊を受け不良であった。奥壁・側壁とも基底部に近い一段を残すのみであり、また羨道部先端はすでに消滅していた。玄室内も羨道部に一部礎床が残存するのみで、他の部分は石室裏込め土や後世の攪乱土とその礫が混入していた。

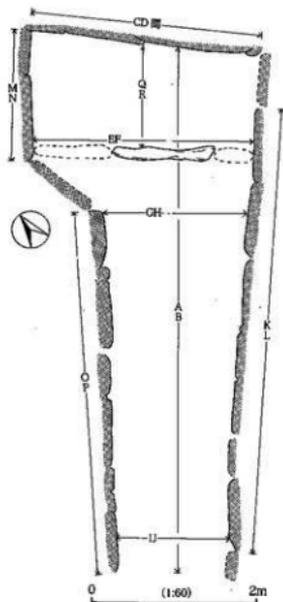
形態は羨道部に比べ奥壁の左側が長い事から左片袖型の横穴式石室と判断した。しかし、左側壁が框石付近で欠損している為、石室左片を何処で設定してよいか判断に苦しんだ。羨道側からみて左側壁最後の石と奥壁側からの石の間には長軸54cm、深さ21cmほどの掘り込みが検出された。これを側



第12図 1号墳石室展開図

壁跡とすると、板状の礫を「石障」的な礫と判断する事となる。また、第48図1号墳推定復元図で後述するが、この「石障」的な石から奥壁までの長さ1.4mは奥壁長さ2.8mの1/2に当たり、企画性が読みとれる。このことから判断すると板状の礫は「框石」とも考えられる。これら二者の考え方が存在してしまっていたが、調査段階及び本報告では左側側壁がこの「框石」まで設置された痕跡が無いことから前者の考え方に立って報告し（第13図参照）、石室規模もそれに従い計測した。よって本古墳の埋葬施設形態は左側片袖の横穴式石室であり、玄室は羨道部よりも短い特異な「L字型」の形態を持つ。玄室の入り口側にはいわゆる「石障」と呼ばれるような仕切石状の礫が設置されており、また左右につながるように掘り込みが検出されている。掘り込みはそれぞれ右側が深さ12cm、左側が7cmを測る。

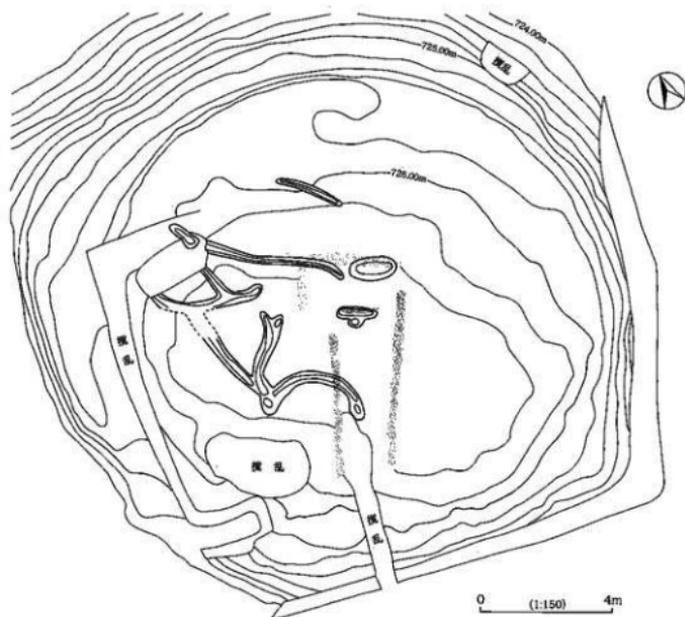
石室規模は、石室長が残存値で6.46m(AB間)・奥壁幅2.8m(CD間)・右壁残存長5.46m(KL間)・左壁残存値長4.46m(OP間)・玄室部分左壁が1.6m(MN間)を測る。玄室の「石障」部分までの規模は右側壁で1.18m・左側壁で1.4m・中央部で1.26m(QR間)をそれぞれ測り、右側と左側では最大42cmの差がある。羨道幅はGH間で1.78m・IJ間で1.37mを測る。高さは右側壁で二段61cm・左側壁で二段55cm・奥壁で二段62cmを測る。石室主軸方位はABラインを基にするとN-25°-Wを示す。よって両側壁ともに奥壁に対して直行せず、羨道入り口に向かって幅が狭まるいわゆる「羽子板型横穴式石室」の形態要素も含む。



第13図 1号墳石室計測図

よって重複するが本古墳石室の特徴をまとめると、まず左壁が変則的に曲がる「L字型」の左片袖の横穴式石室である。袖石・框石等は置かず、玄室入り口側に「石障」的な石を設置している。この「石障」的な石は掘り込みの痕跡から玄室内を仕切っていた可能性があるが、この礫が複室構造を意図するものか、組合式石棺的な意味合いのものか類例に乏しく現時点では判断できない。また石室側壁は奥壁に対して直行せず「羽子板状」に羨道に向かって狭くなっており、礫床は羨道部で一部残存していたが玄室内の状況は不明であった。

石室礫積み方は礫の最大面を石室側に使う方法で、特に右側奥壁と「石障」は腰石的に立っている状況であった。裏込めの状況は壁石の後ろと基底部分は側壁に匹敵するような大型の礫を使用し裏込めに当てている。その他は人頭大の礫から拳大の礫まで不規則に詰めるような状態であった。裏込め土は黒褐色土を基本とし、基底部分は黒色土と黄褐色土を地山削平の後、整地土として使用していた。使用礫の種類は石室壁に使用している物はほとんどか平尾志賀系溶結凝灰岩を使用し、裏込め石は湯川系の輝石安山岩を多く使用している。石室側壁は最大二段までしか残っていないため、上部構造は不明であるが、側壁石の様子から側壁の「持ち送り」が若干見受けられた。また、奥壁と「石障」は顕著な掘り込みの後設置しているが、残り奥壁・側壁ともに地山に殆ど掘り込み面を持たず、整地面に直に設置しているだけの状態が観察された。



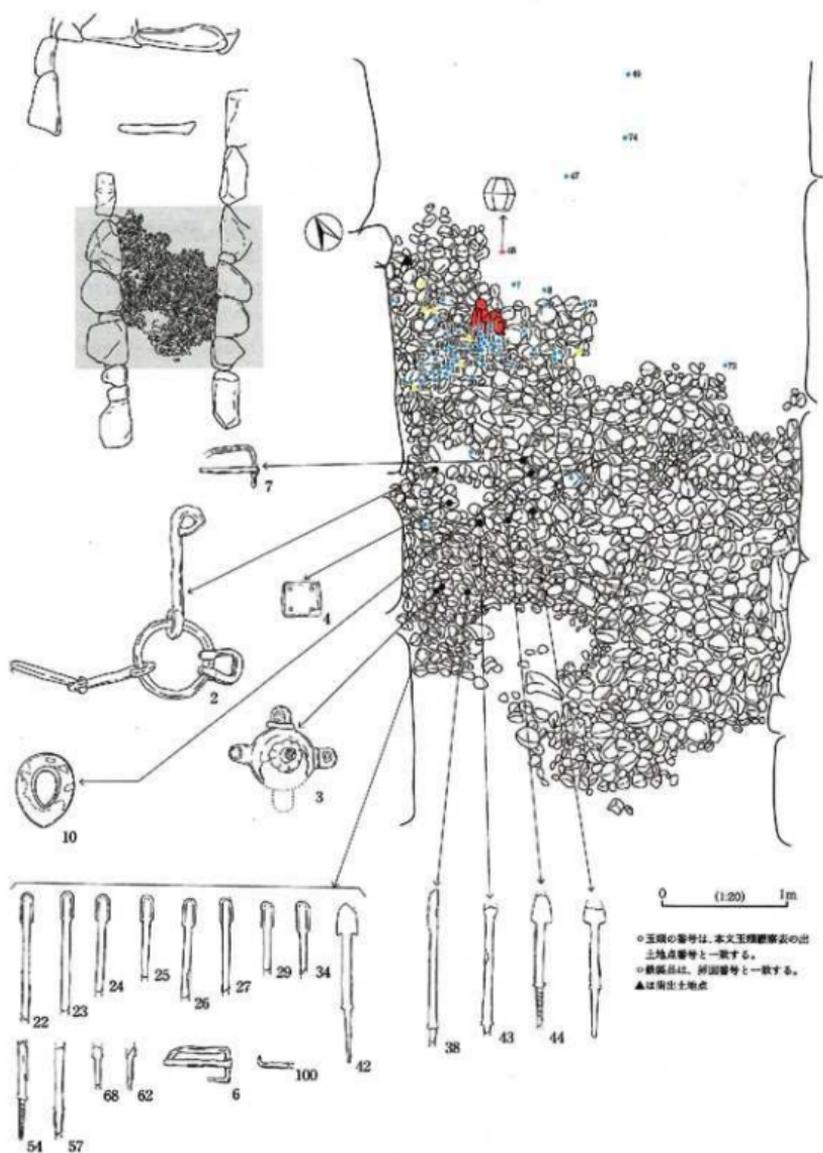
第14図 1号墳墳丘下溝状遺構実測図

溝状遺構が墳丘下より検出された。石室下より西側に伸びる状態ではあるが7本確認されている。いずれも幅約37cm・深さは10～32cm程である。これら溝状遺構の機能は不明であるが、ほぼ東西に同一方向で検出されていることから、石室内の排水的な役割がある物とも推測できる。また、「石障」的の掘り方南側に径32cm・深さ25cmのピットが検出された。この付近は本古墳の中心点に当たり、或いはこのピットが古墳築造時の円形を割り出すためのコンパスの中心点的役割を果たしたとも考えられる。

出土遺物

本古墳の出土遺物は、後世の擾乱や盗掘などにより多くの遺物が散逸してしまったと考えられるが、墳丘及び石室内から土師器・須恵器、鉄製品、装身具である玉類など多種多様な遺物が出土した。

特に石室羨道部の礫床が残存している部分からは、ガラス小玉・切子玉及び馬具・鉄鍔などの鉄製品が出土した(第15図参照)。ガラス小玉は散らばりはあるものの左側壁の一角所から集中的に出土し、特に黄色のガラス小玉も纏まって出土した。このガラス小玉の出土箇所付近の礫床は一部の石に径13cmほどのほぼ円形に赤彩された痕跡があった。また、赤彩箇所の北側より人骨の骨が出土した。これらの事と遺物が羨道部左側に偏って検出されていることなどを考え合わせると、或いはこの部分に一体化の埋葬を推定できるのかもしれないが、釘等の出土はなかった。次に羨道部内の鉄製品であるが、出土地点を図に示したが、何れも欠損品であり原位置を保っている確証は得られなかった。ただ、一部鉄鍔が纏まって出土した部分があるが東ねられた様子などは確認されず、形態も異なっているものが含まれていた。

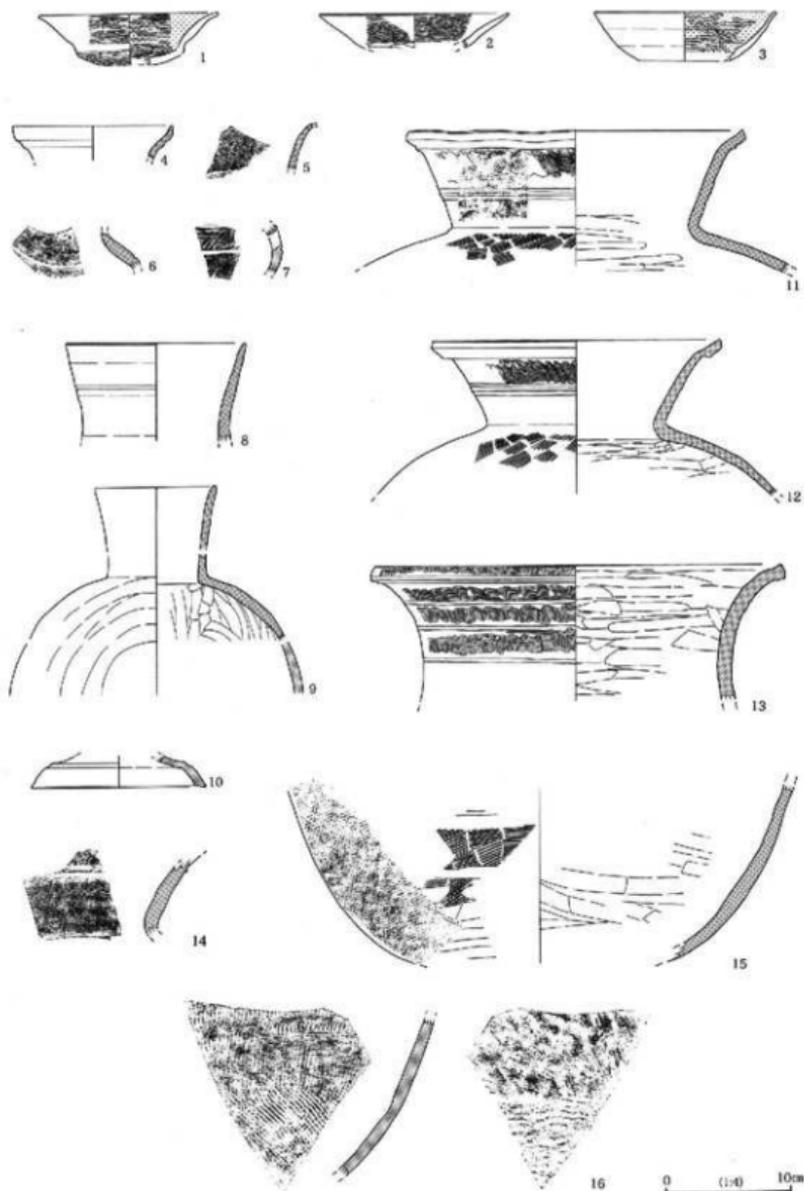


第15図 1号墳石室遺物出土位置図

土師器・須恵器は、主に墳丘上特に外護列石検出中と石室掘り下げ時に多く出土した。しかし、石室内及び墳丘上においても原位置を保っている物は一つもないと考えられる。1～3は土師器である。3はロクロ整形で内面黒色処理された土師器であり平安期の混入品と考えられる。1,2は当地域において古墳時代後期に普遍的に存在する土師器で石室上南東側で出土した。1は内外面ともに丁寧なミガキが施され、内面は黒色処理されている。2は内外面丁寧なヘラミガキを施し、色調は赤褐色化しており赤色塗彩しているように見える。4～7は須恵器である。4は表土中より出土した。調整は口唇部に弱い沈線が巡り、口縁部には自然釉の付着が顕著である。5は墳丘Ⅳ区から出土し、調整は口縁部付近で外面に櫛播の細かな波状文を施文している。6は墳丘Ⅲ区より出土し、調整は頸部で一条の沈線がある。7は試掘時に墳丘より採集された破片で、調整は体部に刺突文を施し焼成前の穿孔がある。8・9は提瓶である。8は表土より出土し、口縁部はロクロヨコナデが施されている。9は墳丘Ⅱ区から出土した。頸部から胴部が残存し、口縁部は推定である。8・9は何れも自然釉の付着が顕著である。10は墳丘Ⅳ区から出土した。台付壺の脚端部と思われるが、他の出土した須恵器破片の中に上部と考えられる壺あるいは同一個体の脚と考えられる破片が無いと他との遺構からの混入品とも考えられる。11～16は須恵器甕である。何れも焼成は良好であり自然釉の付着も顕著である。11は石室上より出土した。調整は胴部外面平行タタキ目残り、内面ナデが施されている。文様は口縁部に2条の沈線と、器面が硬化した後施文したためか、細線ではなくヘラ状の沈線になってしまった波状文がある。12・13も口縁部に波状文が巡り、13は口唇部にも波状文を巡らしている。内面は何れもナデが施されている。14は他の甕と違い生焼的に赤褐色化しており、口縁部に細かな波状文が施文されている。

第1表 1号墳出土遺物観察表

| 群 器 番号 | 器 種 | 法 量 (cm) | | | 成 形 ・ 調 整 | | 胎 土 色 調 |
|-----------|------------|----------|--------|------|---|-----|---------------------------------------|
| | | 口徑 | 器高 | 底径 | 外 面 | 内 面 | |
| 16-1 | 土師器 杯 | 14.5 | 4.2 | 8.8 | 外面 底部ヘラツクリの後「丁寧なミガキ」 内面 「丁寧なミガキ」と黒色処理 | | 径0.5mm以下の白色粒子を含む 10YR6/2 灰黄褐色 |
| 16-2 | 土師器 杯 | 15.4 | <2.8> | --- | 外面 底部ヘラツクリ、口縁部丁寧なミガキ 内面 丁寧なミガキ | | 径0.5mm以下の黒色粒子を含む 2.5YR 5/8 明赤褐色 |
| 16-3 | 土師器 杯 | 14.6 | 4.0 | 7.2 | 外面 ロクロヨコナデ 内面 ヘラミガキと黒色処理 | | 径0.5mm以下の白色・黒色粒子を含む 10YR6/4 に近い黄褐色 |
| 16-4 | 須恵器 ハソウ | 12.9 | <2.8> | --- | 外面 自然釉付着で調整不明 内面 ロクロヨコナデ | | 表面で微少な白色粒子を含む N 6/ 灰色 |
| 16-5 | 須恵器 ハソウ | --- | --- | --- | 外面 沈線と波状文 内面 ナデ | | 径0.5mm以下の白色粒子を含む 7.5Y 4/1 灰色 |
| 16-6 | 須恵器 ハソウ | --- | --- | --- | 外面 ナデの後、沈線 内面 ナデ | | 径0.5mmの白色・黒色粒子を含む。 10Y 5/1 灰色 |
| 16-7 | 須恵器 ハソウ | --- | --- | --- | 外面 ナデの後沈線区画内に刺突文 内面 ナデ、穿孔は焼成前以外面方向から内面へ | | 径0.5mmの白色粒子を含む。 N 3/ 暗灰色 |
| 16-8 | 須恵器 提瓶 | 14.5 | <8.0> | --- | 外面 ヲコナデ、口縁部に沈線 内面 ナデ | | 表面、黒色粒子を含む。 2.5GY 5/1 オリーブ灰色 |
| 16-9 | 須恵器 提瓶 | --- | <7.1> | --- | 外面 縦方向のナデ、自然釉付着 内面 ナデ、自然釉付着 | | 径0.5mmの白色粒子を含む。 N 5/ 灰色 |
| 16-10 | 須恵器 台付壺 | --- | <2.6> | 14.0 | 外面 ロクロナデ 内面 ロクロナデ | | 径1mmの白色粒子を含む。 5GY 6/1 オリーブ灰色 |
| 16-11 | 須恵器 甕 | 27.5 | <11.1> | --- | 外面 胴部平行タタキ目、口縁部2条の沈線に波状文、1指折り返し 内面 ナデ | | 径1mmの白色・黒色粒子を含む 7.5GY 6/1 緑灰色 |
| 16-12 | 須恵器 甕 | 23.5 | <12.7> | --- | 外面 胴部平行タタキ目、口縁部2条の沈線に波状文、口唇折り返し 内面 ナデ | | 径1mmの白色・黒色粒子を含む 7.5GY 6/1 緑灰色 |
| 16-13 | 須恵器 甕 | 32.6 | <11.0> | --- | 外面 口縁部3条の沈線区画内に波状文、口唇部に波状文 内面 ナデ | | 径0.5mmの白色・黒色粒子・小石を含む N 4/1 灰色 |
| 16-14 | 須恵器 甕 | --- | --- | --- | 外面 1条の隆帯の上下に波状文 内面 胴部付近は縦方向のナデ | | 径0.5mmの白色粒子を含む 7.5Y 4/1 灰色 (内面) |
| 16-15 | 須恵器 甕 | --- | --- | --- | 外面 平行タタキ目と横方向のカキ目 内面 ナデ | | 径0.5mmの白色・黒色粒子を含む 2.5GY 6/1 オリーブ灰色 |
| 16-16 | 須恵器 甕 | --- | --- | --- | 外面 平行タタキ目と横方向のカキ目 内面 同心円状の当て具痕をナデにより覆う滑す | | 径0.5～1mmの白色・黒色粒子を含む 10Y 5/1 灰色 |

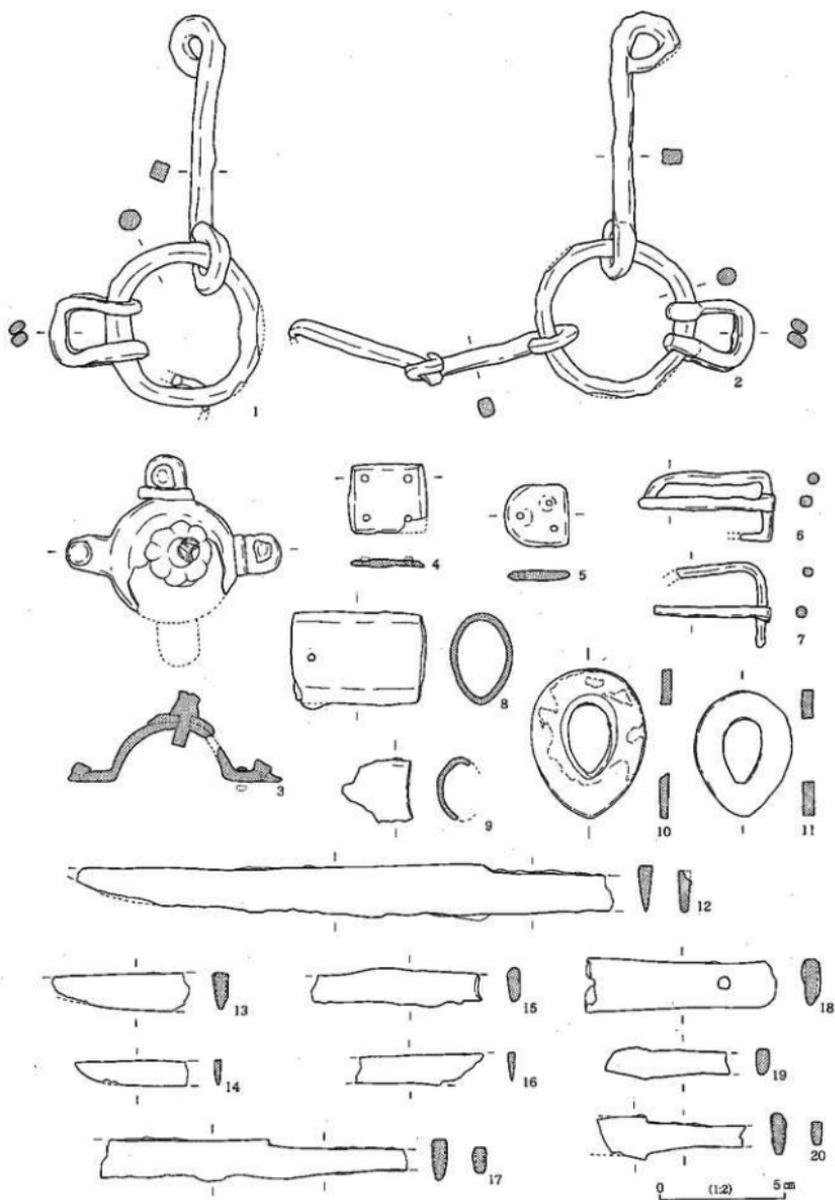


第16图 1号出土上遗物实測图(1)

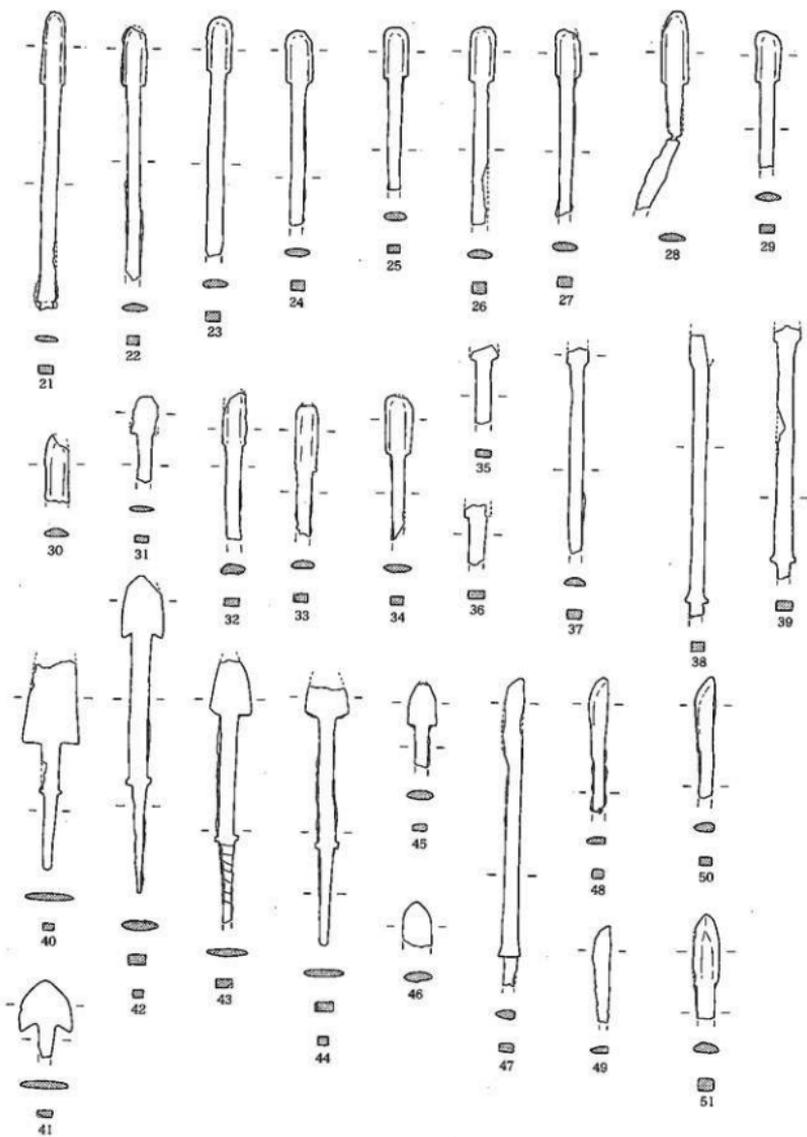
次に鉄製品であるが103点を図示した。出土位置は土器と同じく墳丘及び石室掘り下げ時であるが、羨道部より出土した鉄鏃の中に一部原位置を保っている可能性が指摘できた。1・2は環状鏡板付替である。2は石室羨道部より出土した。同一品と考えられるが銜の部分で欠損している。形態は鏡板がほぼ正円で、銜と引手の部分が獣手状でお互いに連結していない。また、鏡板の立間部は素環を半円に折り曲げた形状である。3は辻金具であり、羨道部から出土した。脚と鉢部の一部が欠損しているが、形態は脚が四脚で鉢部が半球状を示し、花形の台座に宝珠の銜を施す。また脚部には貴金具が付き、銜は一つである。4、5は飾金具で、4は石室羨道部より出土した。形態は4が方形で四つの銜があり、5が半円形で三つの銜がある。また、何れも表面には金張りが確認できる。6、7は鉸具である。いずれも石室羨道部から出土した。8は直刀柄頭で一カ所に目釘孔が確認できる。9は直刀の貴金具と思われる。10.11は無窓の鈎で、10は金銅張りである。12~20は直刀或いは刀子の一部と考えられるものである。まず12は小刀で茎の部分が欠損している。関は側面のみ明瞭に確認できる。13、14は刃先の部分で何れも平造りの平棟である。15、16は刀の刃部分と思われるが不明瞭である。17、19、20は刀子と思われ、茎から刃の一部が残る。18は茎の部分で茎尻は丸く、目釘孔が一カ所確認できる。21~94は鉄鏃である。全容を把握できるものは少なく、40、42~44の僅か4本にすぎず、何れも短頸鉄鏃である。鏃身部の形態は21~39、51が柳葉系、40~46が長三角系、47~50が片刃箭系である。鏃身部の断面形は柳葉系と片刃箭系が片丸で、長三角系が両丸或いは平造りである。箆被部は21、47の関箆被と40.42~44の棘箆被がある。また逆刺部は腸扶のあるものが41と42で、32と33は不明瞭であるが重扶扶に成っている。52~94は鉄鏃の箆被部か或いは茎部の欠損品である。43や54の茎部には糸かがりをしたような痕跡がある。95、97は不明鉄製品である。96は鉄板状の板に一本の釘と目釘がある。用途は不明瞭であるが馬具の辻金具の一部とも考えられる。98~101は鉸具の一部と考えられるが部位が不明瞭である。102は一つの銜があるため辻金具かあるいは飾金具と思われる。103は頭部が「L」字型に曲がり先端も屈曲しているが形状は釘と思われる。

第2表 1号墳鉄鏃観察表

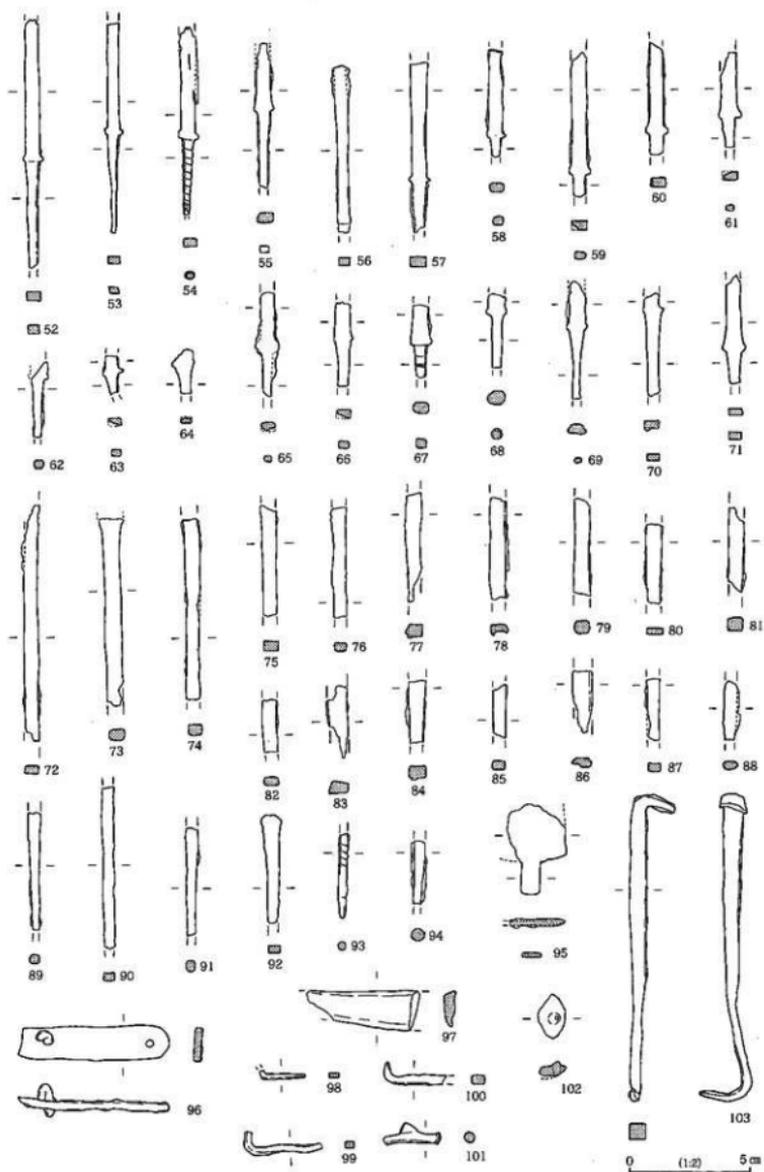
| 番号 | 名称 | 原部 | 箆被 | 逆刺 | 刃形状 | 平面形 | 備考 |
|-------|--------------------|----|-----|-----|------|------|-----------|
| 18-21 | 長頸関箆被直内角片丸造柳葉式 | 長頸 | 関箆被 | 直内角 | 片丸造 | 柳葉系 | |
| 18-22 | 長頸(関箆被)直内角片丸造柳葉式 | 長頸 | --- | 直内角 | 片丸造 | 柳葉系 | |
| 18-23 | 長頸(関箆被)直内角片丸造柳葉式 | 長頸 | --- | 直内角 | 片丸造 | 柳葉系 | |
| 18-24 | 長頸(関箆被)直内角片丸造柳葉式 | 長頸 | --- | 直内角 | 片丸造 | 柳葉系 | |
| 18-25 | 長頸(関箆被)直内角片丸造柳葉式 | 長頸 | --- | 直内角 | 片丸造 | 柳葉系 | |
| 18-26 | 長頸(関箆被)直内角片丸造柳葉式 | 長頸 | --- | 直内角 | 片丸造 | 柳葉系 | |
| 18-27 | 長頸(関箆被)直内角片丸造柳葉式 | 長頸 | --- | 直内角 | 片丸造 | 柳葉系 | |
| 18-28 | 長頸(関箆被)直内角片丸造柳葉式 | 長頸 | --- | 直内角 | 片丸造 | 柳葉系 | |
| 18-29 | 長頸(関箆被)直内角片丸造柳葉式 | 長頸 | --- | 直内角 | 片丸造 | 柳葉系 | |
| 18-32 | 長頸(関箆被)直内角片丸造柳葉式 | 長頸 | --- | 直内角 | 片丸造 | 柳葉系 | 逆刺部破損の可能性 |
| 18-33 | 長頸(関箆被)直内角片丸造柳葉式 | 長頸 | --- | 直内角 | 片丸造 | 柳葉系 | 逆刺部破損の可能性 |
| 18-34 | 長頸(関箆被)直内角片丸造柳葉式 | 長頸 | --- | 直内角 | 片丸造 | 柳葉系 | |
| 18-40 | 短頸棘箆被直内角平造長三角系式 | 短頸 | 棘箆被 | 直内角 | 平造 | 長三角系 | |
| 18-41 | 短頸(棘箆被)腸扶両丸造長三角系式 | 短頸 | --- | 腸扶 | 平造 | 長三角系 | |
| 18-42 | 短頸棘箆被腸扶両丸造長三角系式 | 短頸 | 棘箆被 | 腸扶 | 両丸造 | 長三角系 | |
| 18-43 | 短頸棘箆被直内角平造長三角系式 | 短頸 | 棘箆被 | 直内角 | 平造 | 長三角系 | |
| 18-44 | 短頸棘箆被直内角平造長三角系式 | 短頸 | 棘箆被 | 直内角 | 平造 | 長三角系 | |
| 18-45 | 短頸(棘箆被)直内角両丸造長三角系式 | 短頸 | --- | 直内角 | 両丸造 | 長三角系 | |
| 18-47 | 長頸関箆被無内角平刃片刃箭系式 | 長頸 | 関箆被 | 無内角 | 平刃造 | 片刃箭系 | |
| 18-48 | (短頸関箆被)無内角平刃片刃箭系式 | 短頸 | --- | 無内角 | 片刃造? | 片刃箭系 | |
| 18-49 | (短頸関箆被)無内角平刃片刃箭系式 | 短頸 | --- | 無内角 | 平刃造 | 片刃箭系 | |
| 18-50 | (短頸関箆被)無内角平刃片刃箭系式 | 短頸 | --- | 無内角 | 平刃造 | 片刃箭系 | |
| 18-51 | (短頸関箆被)無内角片丸造柳葉系式 | 短頸 | --- | 無内角 | 片丸造 | 柳葉系 | |



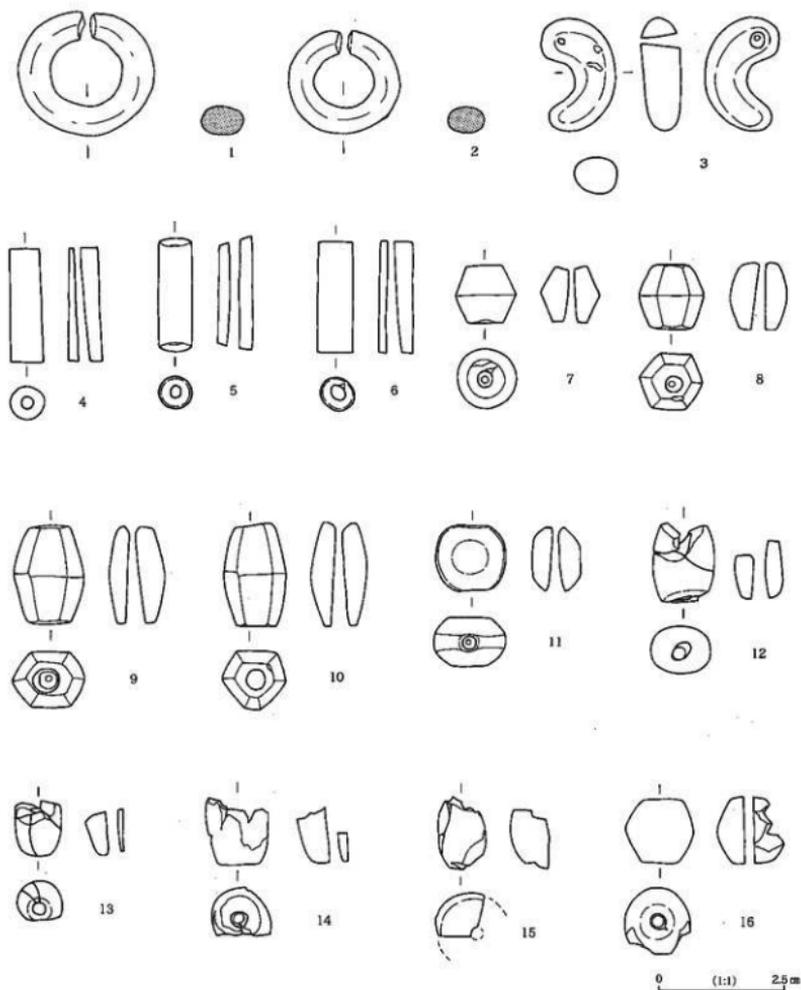
第17图 1号填出土遺物実測図(2)



第18图 1号墳出土遺物実測図(3)

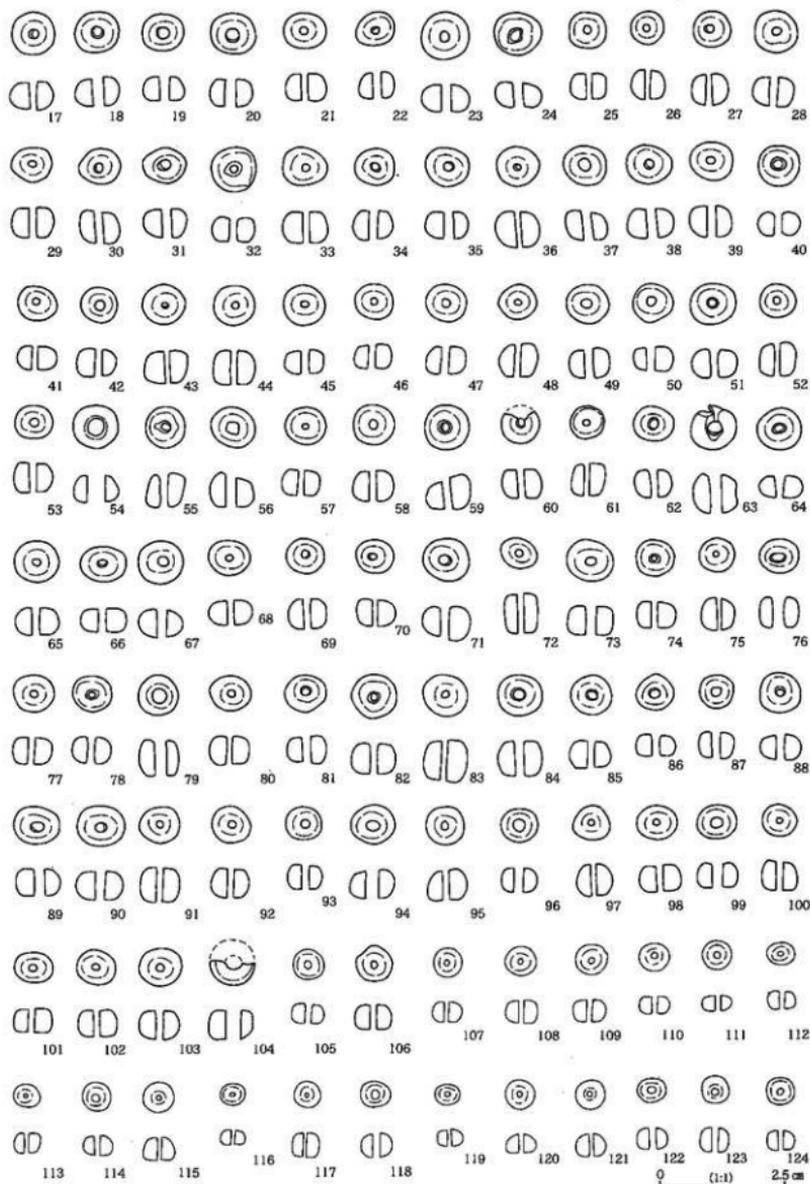


第19图 1号墳出土遺物実測図(4)

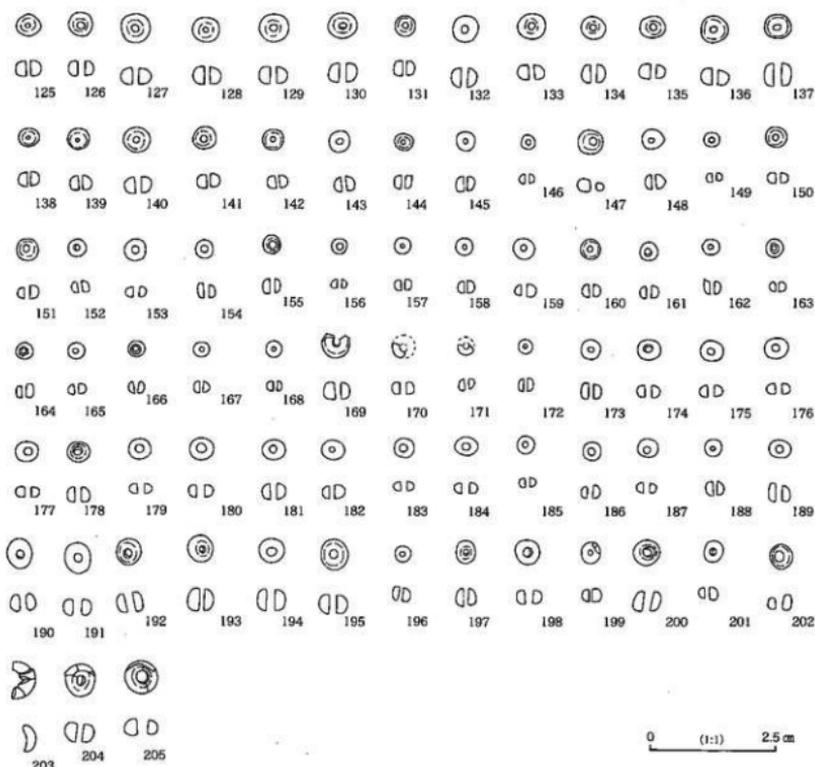


第20図 1号墳出土遺物実測図(5)

装身具類は耳環と玉類が出土している。耳環は2点が出土している。1は銅芯銀張りで2が銅芯金張りである。3は勾玉で材質が瑪瑙である。4～6は管玉でどれも石室内から出土している。孔は4と6は片側からの穿孔で、5は両側から穿孔している。材質は碧玉製である。7は瑪瑙製の算盤玉である。8～10は水晶製の切子玉で扁平ではあるが六面を切り出している。孔はどれも片側から穿孔している。11は平玉で材質は水晶である。12～15は琥珀の棗玉でどれも破損が激しい。



第21图 1号填出土遗物尖圆图(6)



第22図 1号墳出土遺物実測図(7)

16～205は丸玉及びびら小玉である。総数で190点が出土している。纏まりのある出土地点は先にも述べたが羨道部分であり、他の物は石室内より出た排土をふるいにかけて検出された。大きさは16が最大で長さ13.2mmを測る。最小のものは2mmを測る。なお、名称については幅径6mm以下のものを小玉とした。色調はブルー系の青・紺・群青色が圧倒的に多く170点、黄色が15点、緑が4点、黒が1点である。形態は小玉内面の気泡の状態と小口面の調整によって分類し観察表に掲載した。分類基準は以下のとおりである。

- 気泡の形状
- Aが孔と平行に細かい気泡列が走る。
 - Bが細かい気泡が結合し大きな気泡が点在する。
 - Cが小口面の片側に大きな気泡が偏在する。

- 小口面の調整
- 1が両面に加熱処理による表面張力整形が行われたもの。
 - 2が小口面の片面押圧整形が行われたもの。
 - 3が小口面の両面押圧整形が行われたもの。
 - 4が小口面の片面研磨整形が行われたもの。
 - 5が小口面の両面研磨整形が行われたもの。

第3表 1号墳出土玉類観察表(1)

(単位 mm・グラム)

| 番号 | 種別 | 出土地点 | 長さ | 幅 | 厚 | 孔径 | 径 | 材質 | 色調 | 彫刻 | 備考 | 番号 | 種別 | 出土地点 | 長さ | 幅 | 厚 | 孔径 | 径 | 材質 | 色調 | 彫刻 | 備考 | |
|----|-----|-------|-------|-------|---------|------|---|-----|----|-----|----|-----|----|-------|------|------|------|------|-----|-----|----|----|-----|-----|
| 3 | 勾玉 | 石室内 | 22.50 | 11.20 | 1.0-3.0 | 3.20 | | 瑪瑙 | 褐色 | | | 67 | 丸玉 | 石室内 | 6.10 | 8.90 | 2.50 | 0.84 | ガラス | 藍色 | | 無 | B-3 | |
| 4 | 管玉 | 石室扉区 | 23.00 | 7.00 | 2.60 | 1.95 | | 碧玉 | 緑色 | | | 68 | 丸玉 | 石室内 | 4.90 | 5.50 | 1.50 | 0.45 | ガラス | 藍色 | | | A-3 | |
| 5 | 管玉 | 石室扉区 | 23.00 | 7.30 | 2.50 | 1.95 | | 碧玉 | 緑色 | | | 69 | 丸玉 | 石室内 | 5.50 | 7.90 | 1.50 | 0.50 | ガラス | 褐色 | | | B-3 | |
| 6 | 管玉 | 石室内 | 23.00 | 7.20 | 3.10 | 2.16 | | 碧玉 | 緑色 | | | 70 | 丸玉 | 石室内 | 6.00 | 7.80 | 1.40 | 0.53 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 7 | 切子玉 | 石室内 | 11.50 | 12.00 | 1.5-3.2 | 2.25 | | 瑪瑙 | 褐色 | | | 71 | 丸玉 | 石室内 | 7.10 | 9.50 | 2.10 | 0.85 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 8 | 切子玉 | No.68 | 13.00 | 13.10 | 1.6-3.4 | 2.70 | | 水晶 | 白色 | | | 72 | 丸玉 | 石室内 | 8.00 | 7.50 | 1.50 | 0.63 | ガラス | 藍色 | | | A-3 | |
| 9 | 切子玉 | 石室1区 | 19.80 | 14.20 | 1.5-4.3 | 4.47 | | 水晶 | 白色 | | | 73 | 丸玉 | 石室内 | 6.10 | 8.60 | 2.00 | 0.80 | ガラス | 藍色 | | | A-3 | |
| 10 | 切子玉 | 石室内 | 20.50 | 12.60 | 3.60 | 3.94 | | 水晶 | 白色 | | | 74 | 丸玉 | 石室内 | 5.40 | 8.00 | 1.50 | 0.51 | ガラス | 藍色 | | | A-3 | |
| 11 | 平玉 | 石室扉区 | 13.60 | 14.80 | 3.00 | 2.86 | | 水晶 | 白色 | | | 75 | 丸玉 | 石室内 | 6.80 | 7.20 | 1.00 | 0.51 | ガラス | 褐色 | | | A-3 | |
| 12 | 扁玉 | 石室扉区 | 15.50 | 12.60 | 4.20 | 1.05 | | 琥珀 | 褐色 | | | 76 | 丸玉 | 石室内 | 6.00 | 8.00 | 2.20 | 0.56 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 13 | 扁玉 | 石室扉区 | 11.00 | 8.40 | 2.50 | 0.45 | | 琥珀 | 褐色 | | | 77 | 丸玉 | 石室内 | 5.30 | 8.00 | 1.20 | 0.50 | ガラス | 褐色 | | | B-3 | |
| 14 | 扁玉 | 石室扉区 | 13.50 | 13.00 | 2.60 | 0.89 | | 琥珀 | 褐色 | | | 78 | 丸玉 | 石室内 | 5.50 | 8.50 | 1.80 | 0.52 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 15 | 管玉 | 石室内 | 14.00 | 10.00 | 平 | 1.04 | | 琥珀 | 褐色 | | | 79 | 丸玉 | 石室内 | 7.40 | 8.50 | 2.00 | 0.67 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 16 | 丸玉 | No.20 | 13.20 | 13.20 | 2.60 | 2.58 | | ガラス | 藍色 | - | 1 | 80 | 丸玉 | 石室内 | 6.00 | 8.00 | 1.50 | 0.57 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 17 | 丸玉 | No.9 | 6.00 | 8.10 | 2.00 | 0.70 | | ガラス | 藍色 | - | 3 | 81 | 丸玉 | 石室内 | 5.80 | 8.10 | 2.00 | 0.53 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 18 | 丸玉 | No.13 | 5.40 | 8.90 | 2.50 | 0.59 | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 82 | 丸玉 | 石室内 | 6.20 | 9.20 | 1.80 | 0.78 | ガラス | 藍色 | | | A-3 | |
| 19 | 丸玉 | No.14 | 5.10 | 8.50 | 2.50 | 0.55 | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 83 | 丸玉 | 石室内 | 8.50 | 9.40 | 1.60 | 1.04 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 20 | 丸玉 | No.15 | 5.50 | 9.40 | 2.50 | 0.86 | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 84 | 丸玉 | 石室内 | 7.20 | 9.00 | 2.00 | 0.89 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 21 | 丸玉 | No.16 | 5.60 | 8.50 | 1.80 | 0.56 | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 85 | 丸玉 | 石室内 | 6.00 | 8.20 | 1.50 | 0.61 | ガラス | 褐色 | | | A-3 | |
| 22 | 丸玉 | No.17 | 3.30 | 8.00 | 1.70 | 0.48 | | ガラス | 褐色 | A-3 | | 86 | 丸玉 | 石室内 | 4.80 | 7.80 | 2.00 | 0.39 | ガラス | 褐色 | | | B-3 | |
| 23 | 丸玉 | No.18 | 5.80 | 9.70 | 2.00 | 0.87 | | ガラス | 褐色 | A-3 | | 87 | 丸玉 | 石室内 | 5.20 | 7.30 | 1.80 | 0.42 | ガラス | 褐色 | | | A-3 | |
| 24 | 丸玉 | No.21 | 5.20 | 9.50 | 2.50 | 0.65 | | ガラス | 褐色 | B-3 | | 88 | 丸玉 | 石室内 | 5.50 | 7.80 | 2.00 | 0.54 | ガラス | 藍色 | | | B-2 | |
| 25 | 丸玉 | No.22 | 5.10 | 7.40 | 1.50 | 0.43 | | ガラス | 褐色 | A-3 | | 89 | 丸玉 | 石室内 | 5.20 | 8.50 | 2.00 | 0.56 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 26 | 丸玉 | No.23 | 5.80 | 7.40 | 1.20 | 0.46 | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 90 | 丸玉 | 石室内 | 6.00 | 9.60 | 2.00 | 0.79 | ガラス | 藍色 | | | A-3 | |
| 27 | 丸玉 | No.24 | 6.60 | 8.30 | 1.20 | 0.64 | | ガラス | 藍色 | A-5 | | 91 | 丸玉 | 石室内 | 6.80 | 8.60 | 1.30 | 0.65 | ガラス | 藍色 | | | - | |
| 28 | 丸玉 | No.25 | 6.20 | 8.20 | 2.00 | 0.78 | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 92 | 丸玉 | 石室内 | 6.00 | 7.80 | 1.30 | 0.55 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 29 | 丸玉 | No.27 | 6.10 | 8.70 | 1.60 | 0.66 | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 93 | 丸玉 | 石室内 | 5.00 | 7.20 | 1.50 | 0.40 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 30 | 丸玉 | No.32 | 6.80 | 8.00 | 1.80 | 0.59 | | ガラス | 褐色 | A-3 | | 94 | 丸玉 | 石室内 | 6.00 | 9.00 | 2.80 | 0.66 | ガラス | 褐色 | | | A-3 | |
| 31 | 丸玉 | No.33 | 6.00 | 8.60 | 2.00 | 0.82 | | ガラス | 褐色 | A-2 | | 95 | 丸玉 | 石室内 | 6.20 | 7.80 | 1.80 | 0.57 | ガラス | 褐色 | | | B-3 | |
| 32 | 丸玉 | No.34 | 5.00 | 9.60 | 1.80 | 0.56 | | ガラス | 褐色 | A-3 | | 96 | 丸玉 | 石室内 | 5.80 | 7.40 | 2.50 | 0.39 | ガラス | 褐色 | | | B-3 | |
| 33 | 丸玉 | No.38 | 6.80 | 9.00 | 1.80 | 0.76 | | ガラス | 褐色 | A-3 | | 97 | 丸玉 | 石室内 | 6.50 | 7.50 | 1.30 | 0.47 | ガラス | 褐色 | | | A-3 | |
| 34 | 丸玉 | No.39 | 6.00 | 8.40 | 2.00 | 0.63 | | ガラス | 褐色 | A-3 | | 98 | 丸玉 | 石室扉区 | 5.40 | 8.00 | 1.50 | 0.49 | ガラス | 褐色 | | | B-3 | |
| 35 | 丸玉 | No.40 | 5.30 | 9.00 | 1.80 | 0.64 | | ガラス | 褐色 | A-3 | | 99 | 丸玉 | 石室内 | 5.00 | 5.00 | 2.00 | 0.44 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 36 | 丸玉 | No.41 | 7.00 | 8.50 | 1.20 | 0.73 | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 100 | 丸玉 | 石室内 | 6.00 | 7.20 | 1.30 | 0.44 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 37 | 丸玉 | No.55 | 6.60 | 8.40 | 2.20 | 0.64 | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 101 | 丸玉 | 石室内 | 6.00 | 7.20 | 1.50 | 0.38 | ガラス | 藍色 | | | A-3 | |
| 38 | 丸玉 | No.56 | 6.00 | 9.00 | 1.80 | 0.67 | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 102 | 丸玉 | 石室内 | 5.70 | 7.80 | 1.50 | 0.53 | ガラス | 藍色 | | | A-3 | |
| 39 | 丸玉 | No.57 | 6.40 | 8.80 | 1.80 | 0.72 | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 103 | 丸玉 | 石室内 | 6.00 | 8.40 | 1.50 | 0.61 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 40 | 丸玉 | No.58 | 5.50 | 9.00 | 1.80 | 0.63 | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 104 | 丸玉 | 石室内 | 6.00 | 9.00 | 不 | 明 | 3 | ガラス | 褐色 | | | B-3 |
| 41 | 丸玉 | No.59 | 5.00 | 7.80 | 1.50 | 0.43 | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 105 | 丸玉 | 石室内 | 4.00 | 6.60 | 1.30 | 0.28 | ガラス | 褐色 | | | A-3 | |
| 42 | 丸玉 | No.69 | 5.80 | 7.80 | 2.00 | 0.51 | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 106 | 丸玉 | 石室内 | 5.00 | 7.50 | 1.50 | 0.40 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 43 | 丸玉 | No.66 | 7.00 | 8.60 | 1.80 | 0.75 | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 107 | 小玉 | 石室内 | 4.00 | 6.00 | 1.20 | 0.22 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 44 | 丸玉 | No.71 | 6.80 | 8.40 | 1.50 | 0.74 | | ガラス | 褐色 | A-3 | | 108 | 丸玉 | 石室内 | 4.90 | 6.50 | 1.20 | 0.29 | ガラス | 藍色 | | | C-3 | |
| 45 | 丸玉 | 「I」 | 8.10 | 8.20 | 1.80 | 0.53 | | ガラス | 褐色 | B-3 | | 109 | 丸玉 | 石室内 | 4.30 | 6.30 | 1.30 | 0.26 | ガラス | 褐色 | | | B-3 | |
| 46 | 丸玉 | 石室1区 | 6.40 | 7.80 | 1.50 | 0.50 | | ガラス | 褐色 | A-3 | | 110 | 丸玉 | 石室内 | 3.30 | 6.10 | 1.00 | 0.19 | ガラス | 褐色 | | | B-3 | |
| 47 | 丸玉 | 石室1区 | 5.80 | 8.30 | 1.80 | 0.58 | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 111 | 丸玉 | 石室内 | 3.50 | 6.30 | 1.00 | 0.22 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 48 | 丸玉 | 石室扉区 | 7.00 | 8.10 | 1.50 | 0.61 | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 112 | 小玉 | No.3 | 4.00 | 5.40 | 1.30 | 0.16 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 49 | 丸玉 | 石室扉区 | 5.80 | 8.60 | 1.80 | 0.60 | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 113 | 小玉 | No.6 | 4.10 | 5.10 | 1.00 | 0.16 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 50 | 丸玉 | 石室扉区 | 5.30 | 8.20 | 1.60 | 0.54 | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 114 | 小玉 | No.11 | 4.00 | 6.20 | 1.20 | 0.23 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 51 | 丸玉 | 石室扉区 | 5.80 | 9.00 | 1.80 | 0.64 | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 115 | 丸玉 | No.12 | 4.30 | 6.30 | 1.20 | 0.25 | ガラス | 藍色 | | | B-2 | |
| 52 | 丸玉 | 石室扉区 | 7.00 | 7.10 | 1.50 | 0.53 | | ガラス | 藍色 | B-5 | | 116 | 小玉 | No.19 | 3.20 | 5.00 | 1.00 | 0.12 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 53 | 丸玉 | 石室扉区 | 6.40 | 7.50 | 1.80 | 0.55 | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 117 | 小玉 | No.35 | 4.80 | 5.50 | 1.00 | 0.22 | ガラス | 藍色 | | | B-2 | |
| 54 | 丸玉 | 石室扉区 | 6.70 | 9.40 | 3.50 | 0.57 | | ガラス | 藍色 | A-1 | | 118 | 丸玉 | No.37 | 4.80 | 6.10 | 1.80 | 0.23 | ガラス | 褐色 | | | B-3 | |
| 55 | 丸玉 | 石室扉区 | 7.20 | 8.40 | 1.80 | 0.80 | | ガラス | 褐色 | B-3 | | 119 | 小玉 | No.42 | 3.50 | 5.00 | 1.30 | 0.11 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 56 | 丸玉 | 石室扉区 | 7.00 | 9.00 | 2.80 | 0.74 | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 120 | 丸玉 | No.43 | 4.00 | 6.20 | 1.00 | 0.22 | ガラス | 藍色 | | | B-2 | |
| 57 | 丸玉 | 石室扉区 | 5.40 | 8.50 | 1.50 | 0.59 | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 121 | 丸玉 | No.44 | 4.50 | 6.00 | 1.00 | 0.24 | ガラス | 藍色 | | | B-2 | |
| 58 | 丸玉 | 石室扉区 | 6.00 | 8.60 | 1.80 | 0.76 | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 122 | 丸玉 | No.45 | 4.30 | 5.80 | 1.50 | 0.20 | ガラス | 藍色 | | | B-5 | |
| 59 | 丸玉 | 石室扉区 | 6.60 | 9.30 | 1.80 | 0.78 | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 123 | 小玉 | No.50 | 5.10 | 5.60 | 1.00 | 0.22 | ガラス | 褐色 | | | B-1 | |
| 60 | 丸玉 | 石室扉区 | 6.60 | 7.90 | 1.50 | 0.43 | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 124 | 丸玉 | No.67 | 4.00 | 5.50 | 1.30 | 0.19 | ガラス | 藍色 | | | B-3 | |
| 61 | 丸玉 | 石室扉区 | 7.30 | 7.00 | 1.60 | 0.49 | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 125 | 小玉 | No.69 | 3.00 | 5.00 | 1.00 | 0.10 | ガラス | 褐色 | | | B-3 | |
| 62 | 丸玉 | 石室扉区 | 6.00 | 8.50 | 1.80 | 0.64 | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 126 | 小玉 | No.70 | 3.20 | 5.10 | 1.50 | 0.13 | ガラス | 褐色 | | | B-1 | |
| 63 | 丸玉 | 石室内 | 8.10 | 9.50 | 2.80 | 0.78 | | ガラス | 褐色 | B-1 | | 127 | 丸玉 | 石室扉区 | 3.50 | 6.00 | 1.50 | 0.19 | ガラス | 藍色 | | | B-1 | |
| 64 | 丸玉 | 石室内 | 5.20 | 9.10 | 2.00 | 0.50 | | ガラス | 褐色 | B-3 | | 128 | 小玉 | 石室扉区 | 3.80 | 5.80 | 1.30 | 0.20 | ガラス | 褐色 | | | B-2 | |
| 65 | 丸玉 | 石室内 | 5.60 | 9.00 | 1.50 | 0.68 | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 129 | 丸玉 | 石室扉区 | 3.80 | 6.00 | 1.50 | 0.19 | ガラス | 褐色 | | | B-3 | |
| 66 | 丸玉 | 石室内 | 5.00 | 8.90 | 1.60 | 0.82 | | ガラス | 褐色 | B-3 | | 130 | 丸玉 | 石室扉区 | 4.00 | 6.00 | 1.50 | 0.17 | ガラス | 褐色 | | | B-3 | |

第4表 1号墳出土玉類観察表(2)

(単位 mm・グラム)

| 番号 | 種別 | 出土地点 | 高さ | 幅 | 厚 | 孔径 | 径 | 重さ | 材質 | 色調 | 形態 | 備考 | 番号 | 種別 | 出土地点 | 高さ | 幅 | 厚 | 孔径 | 径 | 重さ | 材質 | 色調 | 形態 | 備考 |
|-----|----|-------|------|------|---------|------|---|----|-----|----|-----|-----|-----|----|-------|------|------|------|------|------|-----|----|-----|------|----|
| 131 | 小玉 | 石室Ⅱ区 | 3.10 | 4.20 | 1.30 | 0.09 | | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 169 | 小玉 | 石室内 | 3.50 | 5.40 | 1.50 | 0.13 | | ガラス | 藍色 | B-1 | 気泡多い | |
| 132 | 小玉 | 石室Ⅱ区 | 4.00 | 5.30 | 1.50 | 0.16 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | | 170 | 小玉 | 石室内 | 2.50 | 4.30 | 1.50 | 0.03 | | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 133 | 小玉 | 石室内 | 3.20 | 5.80 | 1.30 | 0.15 | | | ガラス | 褐色 | B-3 | | 171 | 小玉 | 石室内 | 2.30 | 3.50 | 1.50 | 0.02 | | ガラス | 藍色 | B-1 | 縦溝内 | |
| 134 | 小玉 | 石室内 | 3.80 | 6.00 | 1.50 | 0.13 | | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 172 | 小玉 | No.73 | 2.80 | 3.00 | 0.60 | 0.04 | | ガラス | 青色 | B-1 | | |
| 135 | 小玉 | 石室内 | 3.20 | 5.20 | 2.00 | 0.10 | | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 173 | 小玉 | No.75 | 3.30 | 4.00 | 1.00 | 0.06 | | ガラス | 青色 | B-1 | | |
| 136 | 小玉 | 石室内 | 3.50 | 5.30 | 1.30 | 0.16 | | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 174 | 小玉 | No.76 | 2.50 | 4.50 | 1.50 | 0.07 | | ガラス | 青色 | B-1 | | |
| 137 | 小玉 | 石室内 | 4.50 | 5.50 | 1.50 | 0.20 | | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 175 | 小玉 | No.78 | 2.50 | 4.30 | 1.20 | 0.06 | | ガラス | 青色 | B-1 | | |
| 138 | 小玉 | 石室内 | 3.00 | 4.00 | 1.00 | 0.07 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | | 176 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.30 | 4.70 | 1.50 | 0.06 | | ガラス | 青色 | B-1 | | |
| 139 | 小玉 | 石室内 | 3.00 | 4.70 | 1.00 | 0.10 | | | ガラス | 藍色 | A-3 | | 177 | 小玉 | Ⅱ区 | 2.20 | 4.80 | 1.60 | 0.06 | | ガラス | 青色 | B-1 | | |
| 140 | 小玉 | 石室内 | 3.20 | 5.50 | 1.50 | 0.14 | | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 178 | 小玉 | 石室Ⅱ区 | 3.00 | 4.40 | 1.60 | 0.06 | | ガラス | 青色 | B-1 | | |
| 141 | 小玉 | 石室内 | 2.80 | 4.70 | 1.00 | 0.10 | | | ガラス | 褐色 | B-1 | | 179 | 小玉 | 石室内 | 2.20 | 4.70 | 1.50 | 0.06 | | ガラス | 青色 | B-1 | | |
| 142 | 小玉 | 石室内 | 2.80 | 4.20 | 1.00 | 0.09 | | | ガラス | 褐色 | B-3 | | 180 | 小玉 | 石室内 | 2.80 | 5.00 | 1.80 | 0.08 | | ガラス | 青色 | B-1 | | |
| 143 | 小玉 | 石室内 | 3.00 | 4.20 | 1.00 | 0.08 | | | ガラス | 褐色 | B-1 | | 181 | 小玉 | 石室内 | 3.50 | 4.80 | 1.50 | 0.06 | | ガラス | 青色 | B-1 | | |
| 144 | 小玉 | 石室内 | 2.80 | 3.50 | 1.00 | 0.05 | | | ガラス | 藍色 | B-3 | | 182 | 小玉 | 石室内 | 3.00 | 4.50 | 1.00 | 0.08 | | ガラス | 青色 | B-1 | | |
| 145 | 小玉 | 石室内 | 3.00 | 4.00 | 1.00 | 0.07 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | 縦溝内 | 183 | 小玉 | 石室内 | 2.00 | 4.00 | 1.50 | 0.04 | | ガラス | 青色 | B-1 | | |
| 146 | 小玉 | No.7 | 2.60 | 3.00 | 1.10 | 0.03 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | | 184 | 小玉 | 石室内 | 2.60 | 5.00 | 1.80 | 0.07 | | ガラス | 青色 | B-1 | | |
| 147 | 小玉 | No.8 | 2.50 | 5.50 | 1.50 | 0.10 | | | ガラス | 藍色 | A-1 | | 185 | 小玉 | 石室Ⅱ区 | 2.60 | 3.50 | 1.00 | 0.63 | | ガラス | 緑色 | -1 | | |
| 148 | 小玉 | No.30 | 3.00 | 4.60 | 1.00 | 0.08 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | | 186 | 小玉 | 石室内 | 2.80 | 3.80 | 1.50 | 0.06 | | ガラス | 緑色 | -1 | | |
| 149 | 小玉 | No.47 | 2.00 | 3.20 | 1.00 | 0.03 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | | 187 | 小玉 | 石室内 | 2.30 | 4.00 | 1.20 | 0.04 | | ガラス | 藍色 | -1 | | |
| 150 | 小玉 | No.49 | 2.20 | 4.20 | 1.20 | 0.06 | | | ガラス | 褐色 | B-3 | | 188 | 小玉 | 石室内 | 3.00 | 3.50 | 0.80 | 0.07 | | ガラス | 緑色 | -1 | | |
| 151 | 小玉 | No.72 | 3.00 | 4.50 | 1.00 | 0.07 | | | ガラス | 褐色 | B-2 | | 189 | 小玉 | 石室内 | 4.00 | 4.30 | 1.50 | 0.07 | | ガラス | 藍色 | -1 | | |
| 152 | 小玉 | No.74 | 2.40 | 3.80 | 1.20 | 0.05 | | | ガラス | 褐色 | B-3 | | 190 | 丸玉 | No.4 | 3.50 | 6.10 | 1.00 | 0.16 | | ガラス | 藍色 | -1 | | |
| 153 | 小玉 | No.77 | 2.40 | 4.20 | 1.40 | 0.07 | | | ガラス | 褐色 | B-1 | | 191 | 丸玉 | No.25 | 3.10 | 6.20 | 1.50 | 0.15 | | ガラス | 褐色 | -1 | | |
| 154 | 小玉 | 石室Ⅱ区 | 3.10 | 3.80 | 1.50 | 0.06 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | | 192 | 小玉 | No.46 | 4.20 | 5.40 | 2.00 | 0.15 | | ガラス | 青色 | -1 | | |
| 155 | 小玉 | 石室Ⅱ区 | 3.20 | 3.80 | 1.30 | 0.02 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | 水漬状 | 193 | 小玉 | No.61 | 4.90 | 5.40 | 1.00 | 0.17 | | ガラス | 青色 | -1 | | |
| 156 | 小玉 | 石室Ⅱ区 | 2.00 | 3.10 | 1.00 | 0.04 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | | 194 | 小玉 | No.68 | 4.00 | 5.10 | 2.00 | 0.16 | | ガラス | 藍色 | -1 | | |
| 157 | 小玉 | 石室内 | 2.20 | 3.50 | 0.80 | 0.04 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | | 195 | 丸玉 | 石室Ⅱ区 | 3.70 | 6.10 | 1.50 | 0.18 | | ガラス | 藍色 | -1 | | |
| 158 | 小玉 | 石室内 | 2.40 | 3.80 | 1.00 | 0.04 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | | 196 | 小玉 | 石室Ⅱ区 | 2.30 | 3.10 | 1.00 | 0.03 | | ガラス | 黄色 | -1 | | |
| 159 | 小玉 | 石室内 | 2.80 | 4.20 | 1.00 | 0.07 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | | 197 | 小玉 | 石室内 | 3.40 | 4.80 | 1.50 | 0.10 | | ガラス | 黄色 | -1 | | |
| 160 | 小玉 | 石室内 | 2.50 | 4.00 | 1.00 | 0.06 | | | ガラス | 褐色 | B-3 | | 198 | 小玉 | 石室内 | 2.70 | 5.10 | 3.00 | 0.09 | | ガラス | 黄色 | -1 | | |
| 161 | 小玉 | 石室内 | 2.80 | 3.60 | 1.00 | 0.06 | | | ガラス | 褐色 | B-1 | | 199 | 小玉 | 石室内 | 3.00 | 4.30 | 1.00 | 0.07 | | ガラス | 黄色 | -1 | | |
| 162 | 小玉 | 石室内 | 3.00 | 3.20 | 1.00 | 0.04 | | | ガラス | 褐色 | B-1 | | 200 | 小玉 | 石室内 | 4.30 | 5.10 | 2.00 | 0.15 | | ガラス | 黄色 | -1 | | |
| 163 | 小玉 | 石室内 | 2.00 | 3.30 | 1.60 | 0.03 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | | 201 | 小玉 | 石室内 | 3.10 | 4.30 | 1.00 | 0.07 | | ガラス | 黄色 | -1 | | |
| 164 | 小玉 | 石室内 | 2.80 | 3.90 | 1.50 | 0.05 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | | 202 | 小玉 | 石室内 | 3.10 | 5.00 | 2.00 | 0.09 | | ガラス | 黄色 | -1 | | |
| 165 | 小玉 | 石室内 | 2.10 | 3.90 | 1.00 | 0.03 | | | ガラス | 褐色 | B-1 | | 203 | 丸玉 | 石室内 | 5.60 | 7.60 | 不 | 明 | 0.22 | ガラス | 黄色 | -1 | | |
| 166 | 小玉 | 石室内 | 2.20 | 3.40 | 1.0-1.4 | 0.04 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | | 204 | 丸玉 | No.5 | 4.20 | 6.80 | 2.00 | 0.23 | | ガラス | 黄色 | -3 | 内面白 | |
| 167 | 小玉 | 石室内 | 2.50 | 3.50 | 0.80 | 0.04 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | | 205 | 丸玉 | No.10 | 3.20 | 6.80 | 2.50 | 0.19 | | ガラス | 黄色 | -3 | 内面白 | |
| 168 | 小玉 | 石室内 | 2.20 | 3.30 | 0.80 | 0.03 | | | ガラス | 藍色 | B-1 | | | | | | | | | | | | | | |

分類基準をもとに観察した結果、気泡の形状については観察できた物の内Cに属するものは1点のみでAが47点、Bが117点であった。Bは全体の約70%を占める。また小玉についてはBの出現率が非常に高かった。気泡の形状はガラス管成形技術との関わりが指摘でき、引伸法・巻付法などの作成方法により形状が異なると考えられている。Aの形状については引伸法、Bについては巻付法により生じた結果と考えられていることから、本古墳出土の小玉は巻付法により作成されたものが多数を占めるようである。小口面の整形については丸玉が押圧整形によるものが多く、小玉が加熱処理による表面張力整形が行われたものが多い。なお、玉類観察表の出土地点No.は第15図の番号と一致する。

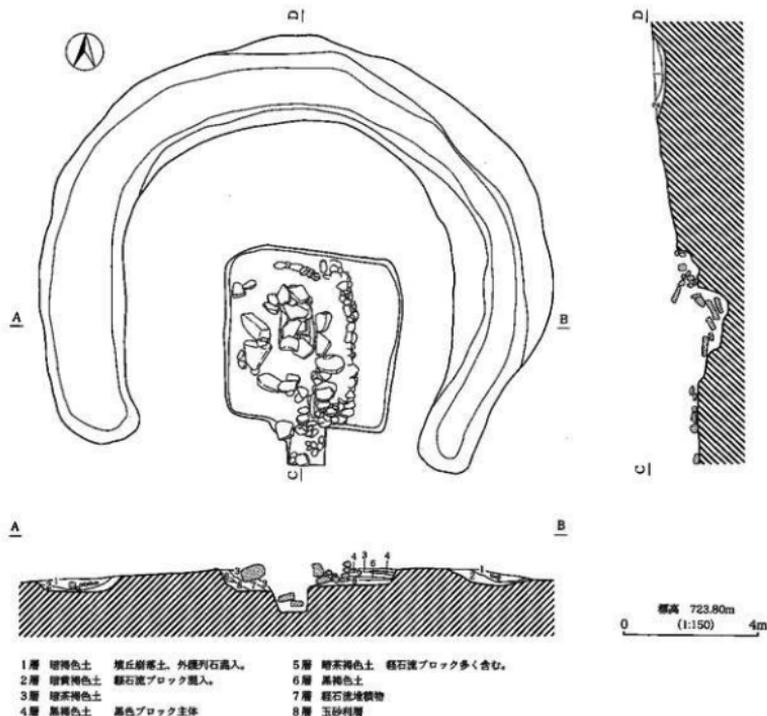
2) 蛇塚古墳 2号古墳

本古墳はⅣ-K区の8.9.10.13.14.15Grに位置する。2号墳の立地は台地中央の微高地よりやや南下がった傾斜面に構築されている(第7図参照)。南西側に3号墳が並ぶように位置する。調査前の状況は畑地であり、耕作土を除去すると石室控積みの石がすでに露出した状態であった。

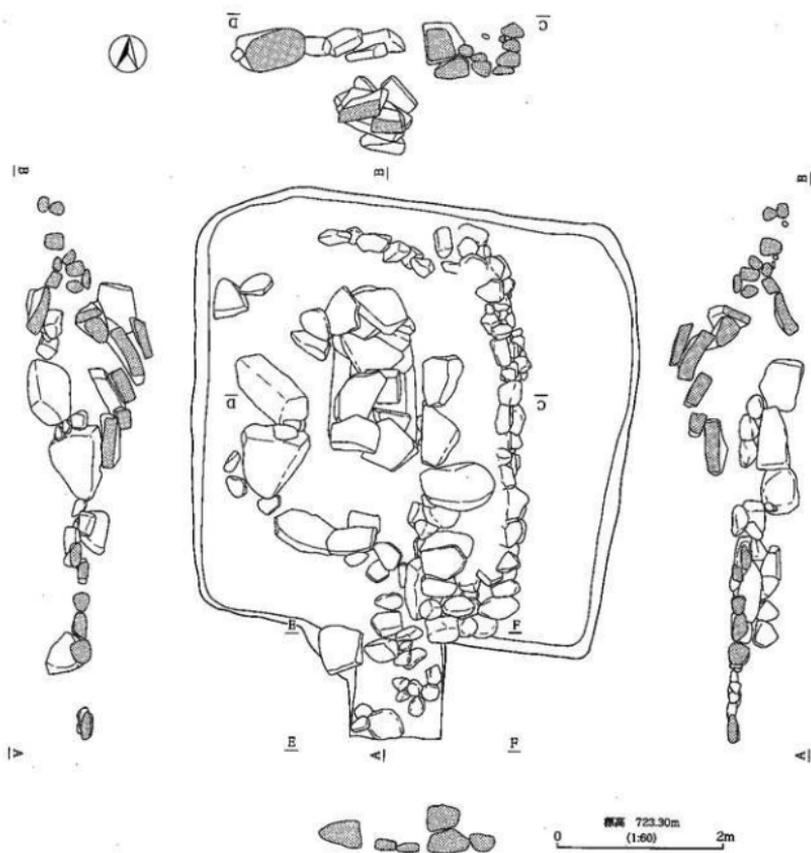
墳形は南側周溝がとぎれるものほぼ円形を呈する為、円墳と考えられる。規模は周溝外側径で東西軸15.5m・南北軸13.2mを測る。円の中心はほぼ石室奥壁近辺に求められる。

周溝は南側が掘り残されるいわゆる馬蹄形状の形態である。溝底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。地形の傾斜に沿うように掘られており、北側が深く掘られるといった状態は観察できなかった。規模は溝幅2.4~3m・深さが38cmを測る。溝覆土は自然堆積で、覆土中層付近には墳丘側より崩落したと思われる多量の人頭大の礫が検出された。これらの礫は外護列石使用の石と考えられる。また、礫の中からは須恵器等の遺物も出土した。墳丘は検出時にすでに存在しておらず、形状等は不明であるが、石室等の規模から低墳丘であった可能性が高い。

埋葬施設は南開口の横穴式石室として捉えられたが玄室部が特異な形態で、玄室内に土坑を掘り「組合式石棺」的な施設を持っていた。しかし、残存状態が非常に悪く確実に原位置を保っている礫は、右壁の一部と右壁後ろの控積の礫のみの様であった。石室の形態は左片袖の横穴式石室で、規模は羨道部で幅80cm・長さ2.5m(残存値)・高さ45cm(残存値)を測る。玄室幅は推定で1.6mを測る。



第23図 2号墳実測図

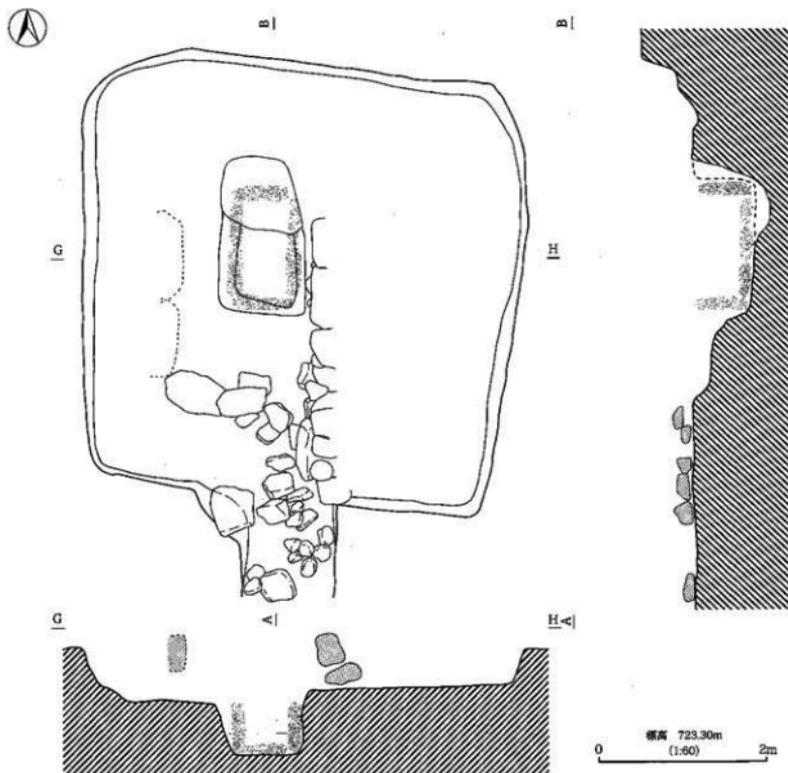


第24図 2号墳石室実測図

主軸方位は $N-3^{\circ}-E$ を測る。側壁の礫積み方は小口面を使うものと最大面を使う物の両者が存在し整った積み方ではない。控積みの土層は右側はきれいな版築を示していたが、左側は流れ込んだ様な状態で左側の側壁控積みも確認されなかったことから、部分的に後世の攪乱を受けていると考えられる。玄室内の「組合式石棺」は、床面に長軸 1.2m ・短軸 1.05m ・深さ 75cm の土坑を掘りその中に平石を組み合わせて埋葬施設としていたと考えられる。残存状況が悪く詳細については不明だが、推定復元からの規模は長軸 1.25m ・短軸 50cm 程を測る。なお、北側の円形部分は後世の攪乱である。

石室掘り方は羨道部も含め確認された。規模は北壁 4.6m ・東壁 5m ・深さ 40cm を測る。底面はほぼ水平であり、石室控積み石と掘り方壁の間には小石が不規則に敷き詰められていた。

出土遺物は殆どか周溝からで、図示した1と2のみが羨道部より出土した。玄室内からの出土遺物全く無かった。1と2は須恵器環と高台環である。調整はいずれもロクロ整形で、どちらもが底部

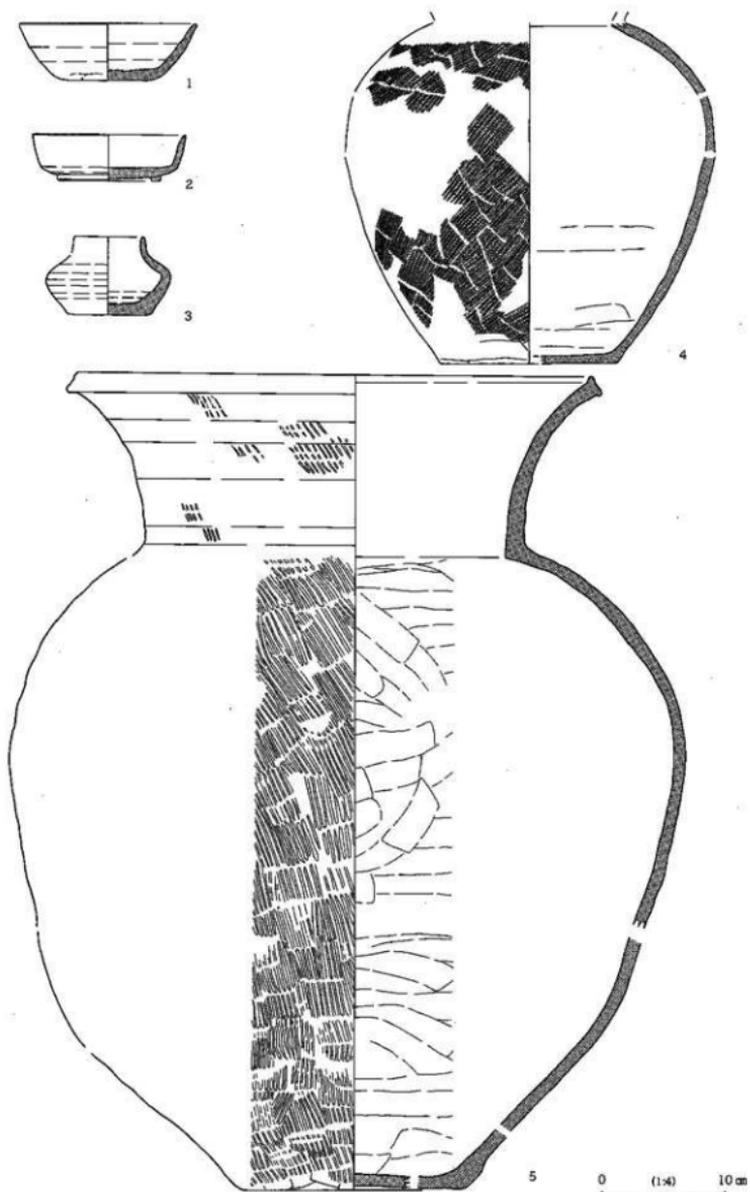


第25図 2号墳石室掘り方実測図

ヘラケズリを施す。3は須恵器短頸壺である。4と5は須恵器甕である。4は胴部外面が平行タタキ目に残り、内面はナデである。5は周溝底より浮いて破砕した状態で出土した。調整は胴部外面が平行タタキ目残り、口縁部はヨコナデ、内面はヘラナデが施されている。外面全体に自然釉が付着している。なお、図示しなかったが鉄鎌茎部と思われる鉄製品2点が出土している。

第5表 2号墳出土土器観察表

| 検出 番号 | 器種 | 法量 (cm) | | | 成形・調整 | | 胎土 色調 |
|----------|------------|---------|--------|------|----------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| | | 口径 | 器高 | 底径 | 外面 | 内面 | |
| 26-1 | 須恵器 壺 | 14.3 | 4.6 | 7.3 | 外面 内面 | ロクロヨコナデ、胴部と底部周縁ヘラケズリ ロクロヨコナデ | 径0.5-1mm以下の白色・黒色粒子を含む 7.5Y 6/1 灰色 |
| 26-2 | 須恵器 高台杯 | 12.3 | 3.8 | 8.0 | 外面 内面 | ロクロヨコナデ、底部周縁ヘラケズリの後高台貼付 ロクロヨコナデ | 径0.5mmの黒色粒子を含む 10Y 4/ 灰色 |
| 26-3 | 須恵器 短頸壺 | 5.6 | 6.4 | 6.9 | 外面 内面 | ロクロヨコナデ、底部ヘラケズリ ロクロヨコナデ | 径0.5mmの黒色粒子を含む N 5/ 灰色 |
| 26-4 | 須恵器 甕 | — | <27.8> | 14.3 | 外面 内面 | 胴部平行タタキ目、底部ヘラケズリ、胴部付タタキ ナデ | 磨きで磨りのある感じ N 3/ 暗灰色 |
| 26-5 | 須恵器 甕 | 41.5 | 66.5 | 18.0 | 外面 内面 | 胴部平行タタキ、底部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ ナデ、自然釉付着 | 白色粒子多く含む。 2.5GY 5/1 オリーブ灰色 |



第26图 2号墳出土遺物実測図

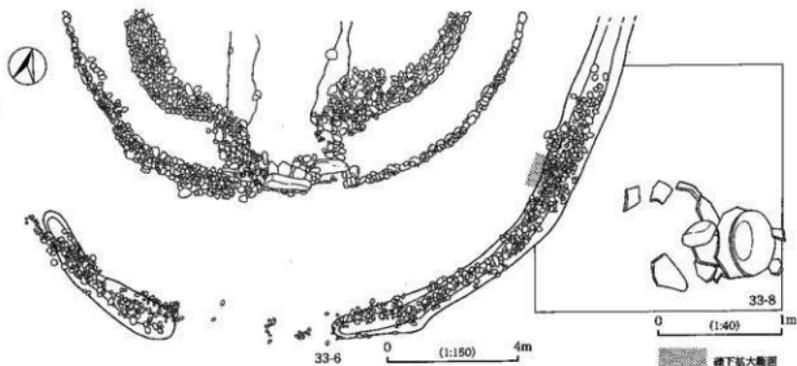
3) 蛇塚古墳 3号古墳

本古墳はⅢ-J区15.20.25Gr及びⅣ-F区11.16.21Grに位置する。3号墳の立地は台地中央の微高地よりやや南に下がった傾斜面に構築されている(第7図参照)。調査前の状況は周辺より1m程高い小山状を呈し、表面には拳大の円礫が散在していた。2号墳とは東西に並ぶような状態にある。

墳形は周溝が歪な円形であるが、二重の外護列石がほぼ正円であるため円墳と考えられる。規模は周溝南北で22.5m、周溝東西で19.7m、外回りの外護列石東西で14.3mを測る。円の中心は奥壁中央に求められた(第49図参照)。周溝・二重の外護列石・南向き開口の横穴式石室が検出された。

周溝は石室前面と南西側が一部とぎれる他は全周する形で検出された。ただ南西側の一部とぎれる部分は周溝端が自然に立ち上がる形状であり、また全体に西側周溝自体が東側に比べ浅く不明瞭であることから、構築当時は西側もとぎれずに巡り、石室前の前庭部空間のみ周溝が土橋状に掘り残されていたと考えられる。掘り方の形態は底面が「U」字型で、北側は一部テラス状に段差が残る。形は円形を指向している考えられるが南北に歪で、古墳北側半分の溝幅が広がる傾向にある。規模は幅が石室前東側で1.1m・北側で3.4m、深さは石室前東側で確認面より64cm・北側で表土より2.8mを測る。周溝の南半分と北側一部には精査時に多量の円礫が検出され、礫中からは遺物も出土した(第27図参照)。これら礫はいずれも周溝がある程度埋没した後、僅かに窪んだ地形に流れ込んだ状態を示していた。しかし、これら礫の原位置を考えると、北側はセクション図より判断すると外側外護列石が崩落したようであるが、南側の礫については外回りの外護列石との間に空間があり、尚かつこの空間には古墳検出時に礫が検出されなかったことから外護列石からの崩落とは考えづらく、あるいは南側一部分にもう一重の列石が存在したためのものかもしれない。

墳丘は外回りの外護列石内側で確認された。残存状況は内回りの外護列石内は最大で1.06mを測る盛土が確認されたが、外回りの外護列石内は南側の残存状況が良好な部分で98cmほどの高さしか確認できなかった。盛土は基本的に6種類に分別できた。墳丘整地土・一次墳丘・二次墳丘・石室内埋土・石室裏込土・内回り外護列石埋土である。各土層の概要は、まず墳丘整地層が墳丘北側で馬蹄形に確認された。この土層は一部地山を掘り込み、再度その上に貼り床状に版築した状態で盛っているのが観察できた(第31図参照)。外護列石の基底部根石はこの土層上に置かれている。次に一次墳丘としたもので内回り外護列石と石室裏込土との間の土である。黒色土・褐色土・黄褐色土が交互に版築状に積み重ねられているのが観察できた。版築の角度は底面が 20° ~ 25° 、上部が 40° ~ 45° と墳丘

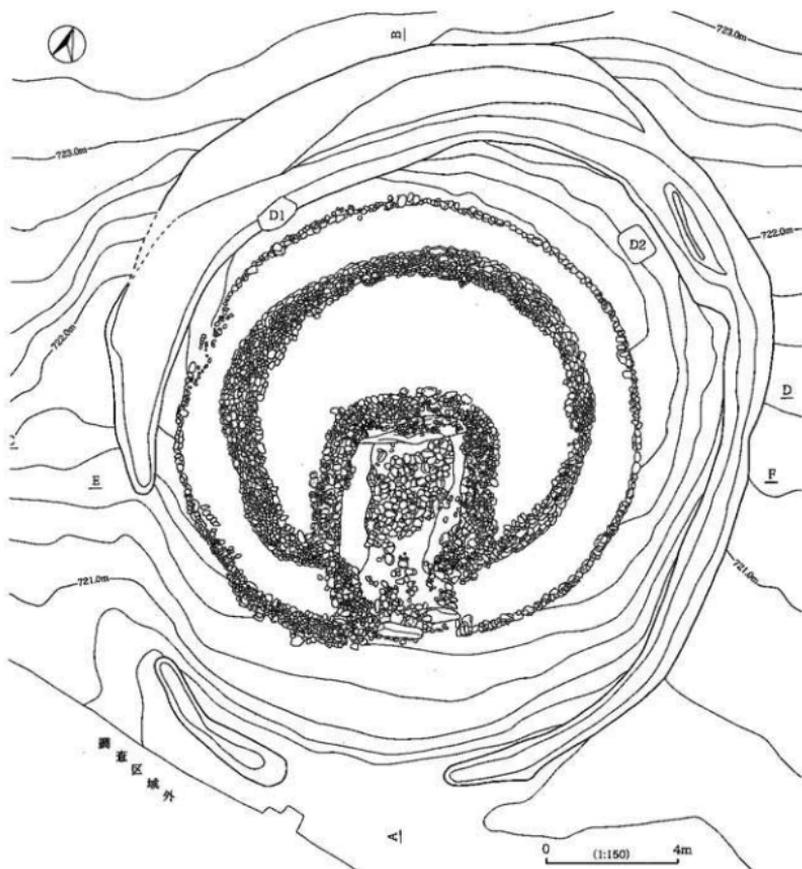


第27図 3号墳周溝礫出土状況

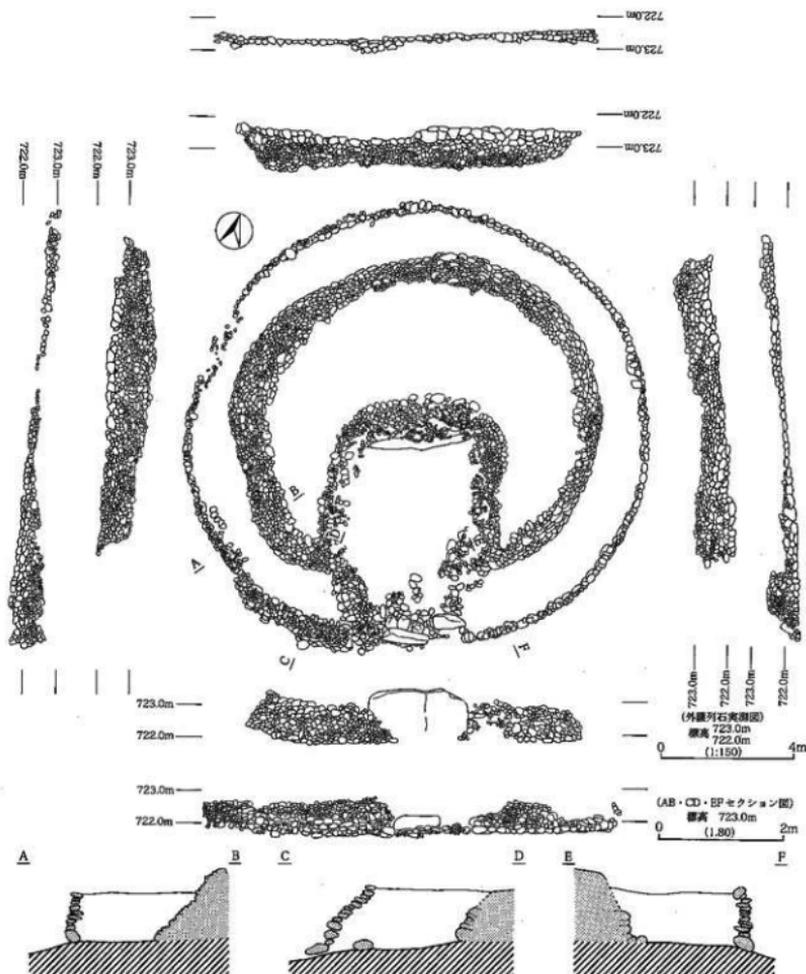
の外側と上部にいくに従い角度がますます小さくなることが確認された。また、石室裏込土との関係では一次墳丘の上に覆いかぶる状態で石室裏込土が検出されることから、両土層は交互に積まれていることが解った。次に二次墳丘は外回り外護列石と内回り外護列石の間の土層である。石室南側部分の残存状況は良好であった。土層は一次墳丘と対照的に殆どが径10cm以下の川原石の小石が主体であった。

この小石は不規則に内回りと外回りの外護列石間を充填しているが、外回りの外護列石きわのみ一際小さな円礫を充当しているのが観察できた。外回りと内回り外護列石の構築は、内回り外護列石の基底部までしっかり礫が積まれていることや、二次墳丘が内回りの外護列石と完全に分離できる事などから、内回りの外護列石完成後、あらためて外回りの外護列石とそれに伴う二次墳丘は構築されたと考える。石室内埋土と石室裏込土については石室の項で後述する。

外護列石は内回りと外回りの2本が検出された。まず内回りの外護列石は石室脇から積まれほぼ正円に近く構築されている。規模は東西径11.3m・南北径9.8m・最大高さで約1.2mほど残存していた。

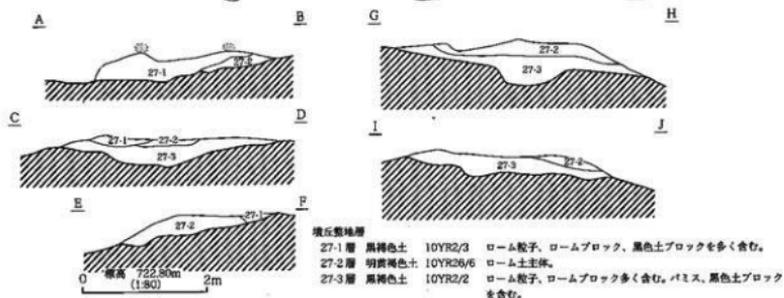
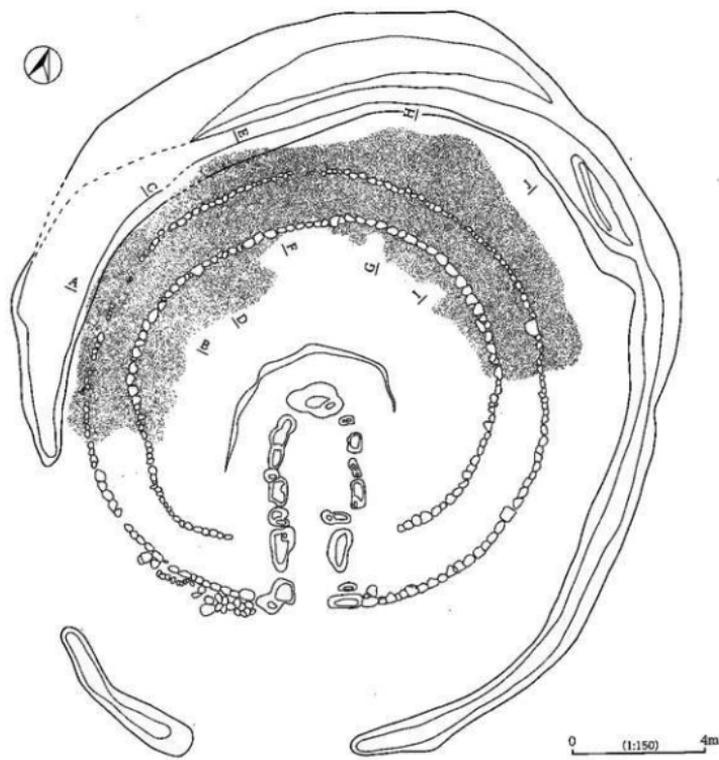


第28図 3号墳実測図



第30図 3号墳外護列石実測図

構築角度はおよそ $40^{\circ} \sim 50^{\circ}$ の範囲に収まる。また、基底部付近は垂直に近い角度で積み上げている。礫の積み方は基底部がもっとも大型の人頭大の礫を使用し、上部に行くに従い小型の河原石を小口積みしている。ただ、西側列石に比べ東側列石の方がや大型の礫を使用している傾向がある。外回りの外護列石もほぼ正円に構築されているが、内回りに比べ残存状況が悪く、石室開口側の南面を除いては1～3段程しか礫が残存していなかった。南面は最大10段以上の石積みが発出された。規模は東西14.1m・南北13.5m・高さ1m（南側）を測る。構築角度はほぼ垂直で、一部南面西よりで 50° を測る。この積み方角度が異なる部分は、積み上げられた礫の内側に本来の列石ラインに沿う



第31図 3号墳墳丘整地範囲及び根石検出状況

根石が、後日確認されたことから、崩落による積み直しが行われていたことが確認された。礫の積み方は内回りと同じく、基底部に人頭大の礫を横積みにし上部は15～20cm前後の石を小口積みにするのを基本としている。また、基底部の根石は南半分の礫が30～40cmで北側半分が15～20cmと明らかに大きさの差があり、視覚的効果を意図しているものと思われる。さらに、外回り外護列石の根石は

数カ所に周りよりも大型の石を使用しているところがあり、なんらかの作業単位を示しているとも思われる。本古墳の列石根石は内回り・外回りともに地形の傾斜がある地山部分にそのまま置かれており、側面から見ると石室開口側に向けて斜めに墳丘が構築されているように見える。これも、正面観の重視によるものであろうか。

埋葬施設は南開口の横穴式石室と考えられるが、残存状態が非常に悪く、確実に原位置を保っている石は奥壁のみであり、側壁・礎床は全く残っていなかった。また、床部分には石室裏込め石と考えられる大型の礫が混入していた。

形態は側壁が一枚も残存していないため石室掘り方より判断した。その結果、右片袖の横穴式石室で側壁は若干の崩壊が見られる。玄門部には不確実であるが立柱石があった可能性がある。柩石の存在は不明である。これらから得られた結果を基に古墳石室の規模を推定すると、各数値は石室長さ6m・玄室長さ3m・玄室最大幅2.20m・奥壁幅1.3m・奥壁高さ1.6m(残存値)・羨道部長3m・羨道部幅1.1mを測る。

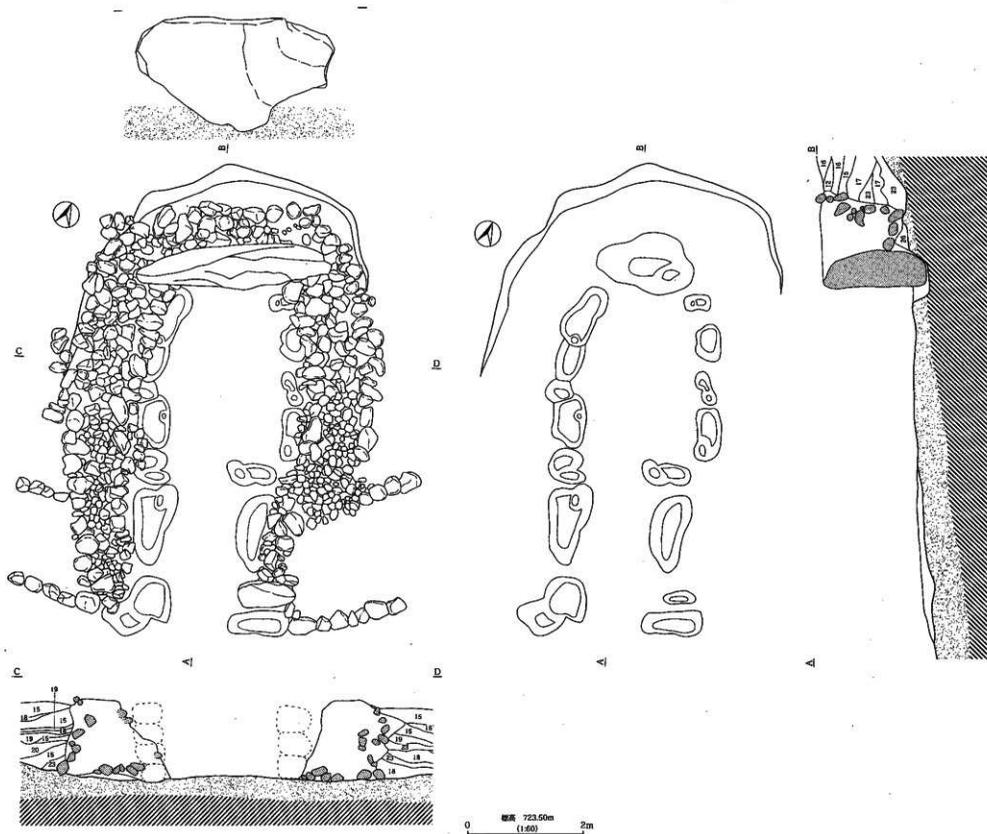
石室礫積み方は奥壁が最大面を使う「腰石」的立て方で、先尖部分を地中に埋め、空間部分を人頭大の礫で両脇を押さえている。石材は溶結凝灰岩である。側壁は残っていなかったが、羨道部右壁の一石がほぼ原位置を保っていると思われた。この石は小口積みを行っている。石室裏込めの状況は基底部外縁に人頭大の礫を使用し、その内側にはやや小ぶりの礫を敷き詰めている。上部は礫と黒褐色の混合土を積み上げている。この裏込め石には湯川から運び上げた径10cm前後の円礫を主体として用いている。また、裏込め石と一次墳丘の混合を防ぐために裏込めの外縁には大きめの礫で石積みが施されているが、積み方は乱雑で規則性も見られず全体的に上方にいくに従い外側に開く傾向にあつた。そのため調査途中で一次墳丘をはずしている段階に崩落してしまった箇所もあり、このことは石室裏込めが一次墳丘の盛り土作業と平行して積まれたことを物語るものである。

石室掘り方は明瞭に検出された。まず奥壁後ろ側には幅5m・高さ22cmの段差のある掘り込みが検出された。これは石室の構築面を水平にするための掘り込みと考えられる。次に石室側では、奥壁から南側に左右合計15カ所の側壁設置箇所と考えられる掘り込みが検出された。深さは浅い場所で5cm・深い場所で21cmを測る。全体的に羨道部側の掘り込みの方が深い。これら掘り込みの底面は何れも非常に硬質化していた。

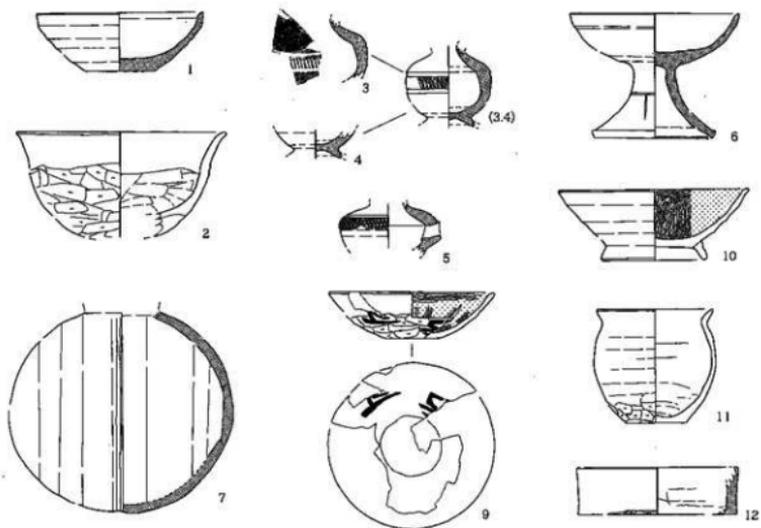
出土遺物

本古墳の出土遺物は後世の攪乱や盗掘などにより多くの遺物が散逸してしまったと考えられるが、墳丘・周溝・石室内から土師器・須恵器、鉄製品、装身具など多種多様な遺物が出土した。

土師器・須恵器は主に周溝内や石室内の崩落石の間から出土した。1は須恵器坏である。南東側の周溝より出土した。体部はロクロ整形で底部は回転ヘラ切りである。2は土師器鉢で南西側の周溝より出土した。底部から体部にかけてはヘラケズリ、口縁部と内面は強いヨコナデを施している。3～5は須恵器ハクである。3と4は同一個体と思われるが接合箇所がなく、実測図による復元を右に掲載した。3は胴部に二状の沈線が巡りその間にヘラ状の刺突が施されている。4は脚の部分であるが脚端部は欠損して不明である。5は周溝の南東側より出土した。体部の孔は焼成前のもので外側より穿孔している。注口部分は捻りだしである。体部には敲き出しと考えられる格子目状の模様は施されている。また頸部には自然釉が顕著に付着する。6は須恵器高坏である。南東側周溝の礫の間から出土した。坏部はロクロ整形で脚部中央に一条の沈線が巡り、この沈線から弱い線であるが垂直に刻線が引かれている。これら沈線は何れも焼成前の物である。7はいわゆる「フラスコ型」の長頸瓶である。南東側周溝の礫の間から出土した。頸部には顕著な自然釉が付着している。8は須恵器甕で、南東側周溝の礫下より破碎した状態で出土した(第27図参照)。復元作業をへるとほぼ完形となった。調整

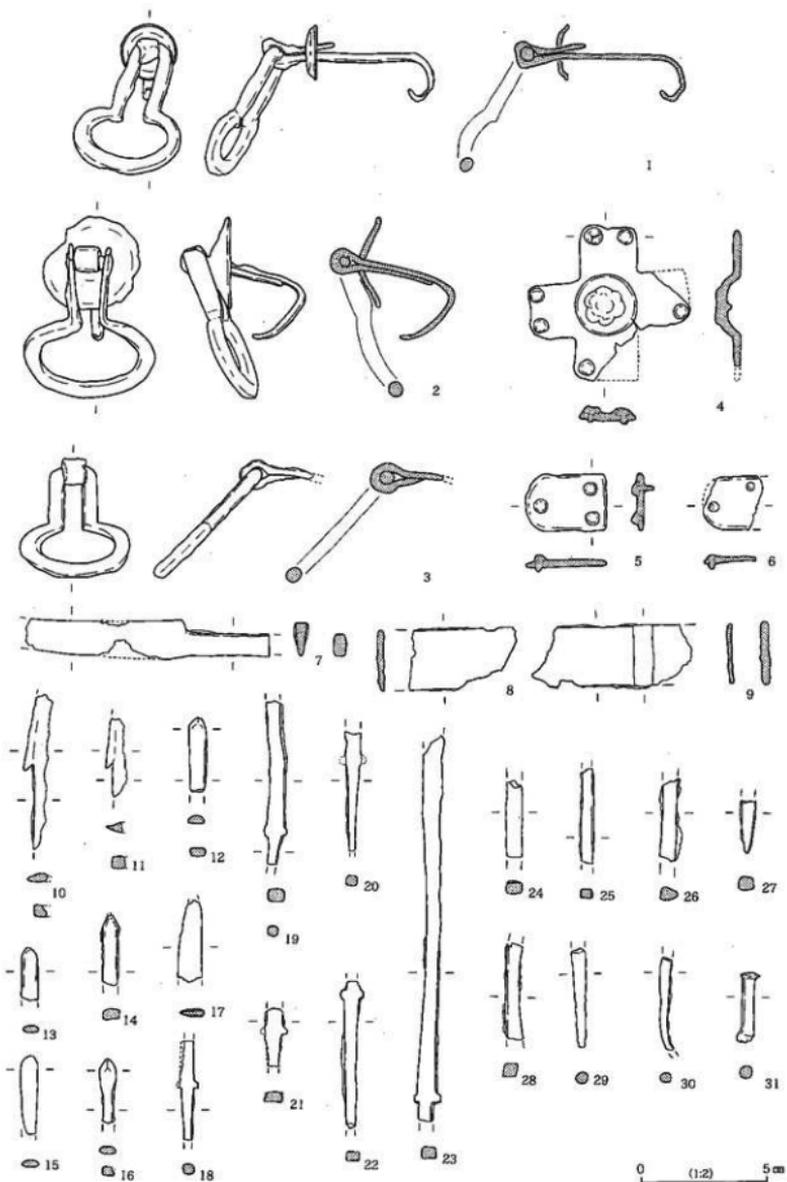


第32図 3号墳石室及び石室掘り方実測図



第33图 3号填出土遗物实测图(1)

0 (1:4) 10cm



第34图 3号出土文物实测图(2)

は外面が平行タタキの後ナデ、内面は同心円の当て具痕が残る。口縁部はヨコナデで、口唇部は折り返し状に厚くなる。9～12は後世の混入品と考えられる遺物である。まず、9は土師器坏で石室内の礫中や周溝中から出土した破片が接合した。調整は底部から体部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデである。内面は丁寧なミガキと黒色処理が施されている。また体部外面には二カ所の墨書が確認できるが、判読は難しい。10は土師器高台付き坏で、石室の崩落礫中より出土した。調整は体部がロクロ整形で底部が回転糸切り磨しの後高台貼付、内面は丁寧なミガキと黒色処理が施されている。11は土師器小型甕であり南西側墳丘や石室内から出土した破片が接合した。調整はロクロ整形の後、底部と胴部下半をヘラケズリしている。12は土師質の陶器であるが器種・所産時期ともに不明である。9～11の3点は何れも9世紀後半代の所産時期が考えられる。

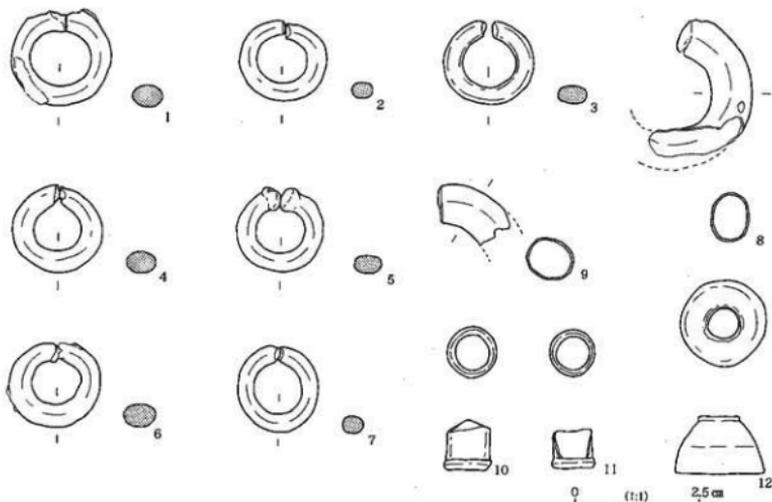
第6表 3号墳出土土器観察表

| 群 号 | 器 種 | 法 量 (cm) | | | 成 形 ・ 調 整 | | 胎 土 色 調 |
|-------|----------------|----------|--------|------|---|---|---------|
| | | 口 径 | 器 高 | 底 径 | 外 面 | 内 面 | |
| 33-1 | 須恵器 坏 | 13.7 | 4.9 | 5.9 | 外面 浜海回転ヘラ切りの後外周をヘラケズリ 内面 ロクロナデ | 径0.5mm以下の白色粒子を含む 7SY 7/ 灰色 | |
| 33-2 | 土師器 鉢 | 17.3 | <8.8> | --- | 外面 体部から底部ヘラケズリ、口縁部強いヨコナデ 内面 ナデ | 径2mm以下の赤色粒子を含む。 10YR 7/3 に近い黄褐色 | |
| 33-3 | 須恵器 ハソウ | --- | --- | --- | 外面 胴部へラ状工具による割欠文を施し2条の沈線を描す。 内面 胴部絞り面 | 径0.5mm以下の白色粒子を含む。 5GY 4/1 暗オリーブ灰色 (内面) | |
| 33-4 | 須恵器 ハソウ | --- | --- | --- | 外面 ロクロナデ 内面 ロクロナデ | 径0.5mm以下の白色粒子を含む。 5GY 4/1 暗オリーブ灰色 (内面) | |
| 33-5 | 須恵器 ハソウ | --- | --- | --- | 外面 胴部に押圧による施文、自然軸が付着 内面 ロクロナデ | 白色粒子を含む 7SY 6/1 灰色 (内面) | |
| 33-6 | 須恵器 高台 鉢 | 13.9 | 10.4 | 9.7 | 外面 胴等に1条の沈線、蓋面に刻線 内面 体部ロクロヨコナデ | 径0.5mmの白色粒子を含む。 7SY 6/1 灰色 | |
| 33-7 | 須恵器 長頸瓶 | 20.0 | <11.7> | --- | 外面 ロクロナデ、中央部に縦方向に強いナデ 内面 ロクロナデ | 径2mm以下の黒・茶色粒子を含む。 7SY 6/1 灰色 | |
| 33-8 | 須恵器 甕 | 24.2 | 45.5 | --- | 外面 平行タタキ目をナデで磨り滑す、口唇部やや比厚 内面 同心円の当て具痕が残る | 径1mmの白色粒子を含む。 7.5GY 6/1 黄褐色 | |
| 33-9 | 土師器 鉢 | 13.8 | 3.8 | 3.0 | 外面 1口縁部ヨコナデ、底部及び体部ヘラケズリ、墨痕あり 内面 ヘラミガキ 黒色処理 | 径1mm以下の黒・茶色粒子を含む。 10 YR 3/4 に近い黄褐色 | |
| 33-10 | 土師器 高台 鉢 | 15.6 | 5.9 | 8.7 | 外面 ロクロナデ、底部回転糸切りの後高台貼付 内面 ヘラミガキ、黒色処理 | 径1mm以下の赤色粒子を含む。 10 YR 5/4 に近い黄褐色 | |
| 33-11 | 土師器 小型甕 | 9.5 | 9.5 | 4.9 | 外面 口縁部から胴部ロクロヨコナデ、底部と底部周辺ヘラケズリ 内面 ヨコナデ | 径1mm以下の赤色粒子を含む。 7.5YR 6/6 褐色 | |
| 33-12 | 土師質 土器 | 13.2 | 3.9 | 13.0 | 外面 ヨコナデ、底面静止糸切り、浜海外周ヘラケズリ 内面 ナデ | 径2mm以下の白色粒子を含む。 7SY 6/2 灰オリーブ色 | |

次に鉄製品であるが31点を図示した。1号墳と同じく原位置を保って出土したものは1点も無かった。1～3は鞍金具の鞍と考えられる。何れも鉄製で形態から1と3が対と考えられる。1は磯金具接地面の部分に金箔が施されている。出土位置は1が羨道部表土で2・3は墳丘である。4は辻金具で石室Ⅲ区より出土した。脚の部分が欠損しているが、形態は脚が四脚で鉢部が半球状を呈し、花形の台座が付く。脚には一脚につき2本の鉄がある。5・6は飾金具である。5が石室Ⅳ区から6が石室Ⅰ区からそれぞれ出土した。形態はいずれも半円形の物で、5は3つの鉄が確認できる。7は刀子の茎の部分と考えられる。8・9は同一個体と考えられるが接合部はない。形態より刀子とも考えられるが不確定である。9にはレントゲンにより黄金具的なものが写し出されている。10～30は鉄製と考えられる。鎌身から頸部まで全容を押しはかれるものは無い。10～17は鎌身部である。形態は10と11が腸状がある片刃箭系で12～16は柳葉系である。17は柳葉系とも思えるが或いは刀子の切っ先とも考えられる。18～23は薙被部であり、形態は方形の突起をもつものである。24～30は基部である。31は弓金具で石室Ⅰ区から出土した。

装身具類は耳環・小玉が出土した。耳環は9点出土した。2・7、3・4、5・6、8・9が対となると考えられる。形態は1〜7が銅芯で8と9は銅板中空である。出土位置は1が石室Ⅱ区、2が石室Ⅲ区、3が石室Ⅲ区敷石内、4〜6が石室Ⅳ区、7が西側玄門掘り方、8が石室裏込め、9が石室Ⅲ区からである。8を除く何れもが金箔が確認できる。金箔の残存状況としては3が最も良好である。10〜12は銅製品であるが種別が不明である。10と11は片側に縁取りがあることから、直刀類の柄部の目貫の金具とも思われるが確証を得ない。11は一部金箔らしき痕跡も見られるが不明瞭である。

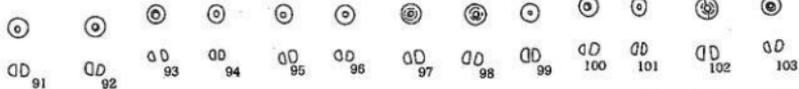
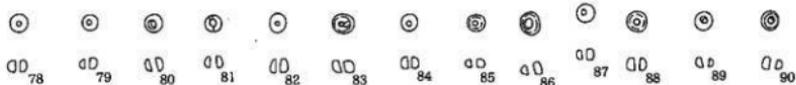
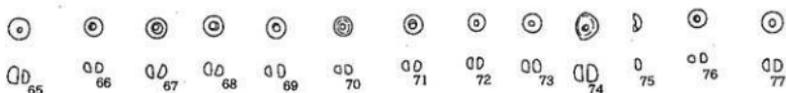
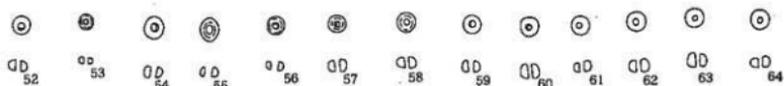
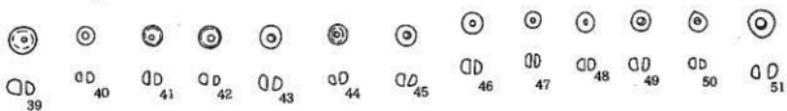
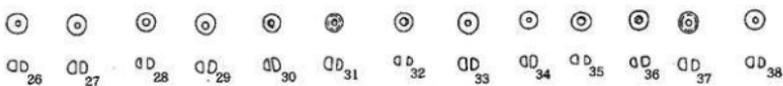
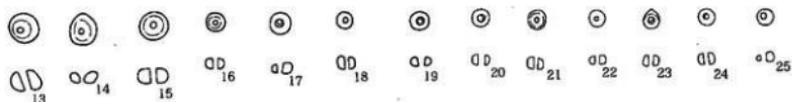
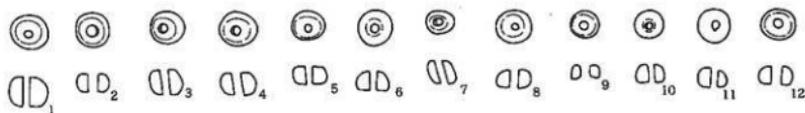
玉類は103点が出土した。すべて素材はガラスである。出土地点は石室排土を区別してふるいにかけて検出した。出土地区で一番多い箇所は石室Ⅰ区で、点数は64点で全体の62%を占める。大きさは1が長さ6.5mmで最大で、最小は53の1.9mmである。名称は1号墳と同様に幅径6mm以下のものについて小玉とした。色調はすべてブルー系である。形態も1号墳と同様な基準により分類し、観察表に記載した。その結果、気泡の形状についてはCに属するものは無く、Aが12点、Bが91点でありBが全体の88%を占める。1号墳に比べ小玉の全体に占める率が高いためBの出現率があがっているものと考えられる。小口面の調整は1〜3が確認された。点数は1が77点、2が7点、3が19点であり、1が全体の74%を占める。小玉が多いための結果といえる。



第35図 3号墳出土遺物実測図(3)

第7表 鉄鏡観察表

| 番号 | 名称 | 扉部 | 匙袿 | 逆刺 | 刃形状 | 平面形 | 備考 |
|-------|-----------|-----|-----|-----|------|------|----|
| 34-10 | 膝袿平刀造片刃鏡系 | --- | --- | --- | 平刀造 | 片刃鏡系 | |
| 34-11 | 膝袿平刀造片刃鏡系 | --- | --- | 膝袿 | 平刀造 | 片刃鏡系 | |
| 34-12 | 片丸造膝袿系 | --- | --- | --- | 片丸造 | 膝袿系 | |
| 34-13 | 圓丸造膝袿系 | --- | --- | --- | 圓丸造 | 膝袿系 | |
| 34-14 | 片圓造膝袿系 | --- | --- | --- | 片圓造? | 膝袿系 | |
| 34-15 | 無角圓丸造膝袿系 | --- | --- | 無角圓 | 圓丸造 | 膝袿系 | |
| 34-16 | 無角圓丸造膝袿系 | --- | --- | 無角圓 | 圓丸造 | 膝袿系 | |



0 (1:1) 2.5 m

第36图 3号出土文物实测图(4)

第8表 3号墳出土玉類観察表

(単位 ㎜・グラム)

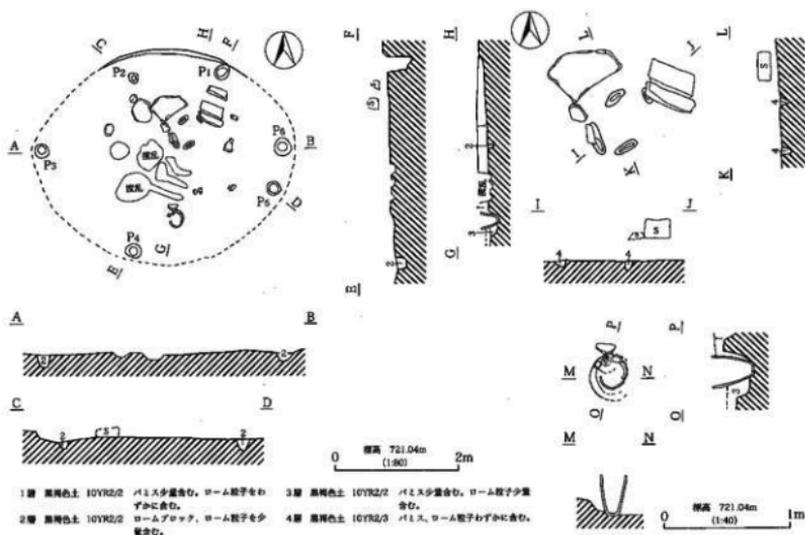
| 番号 | 種類 | 出土地点 | 長さ | 幅 | 孔径 | 重さ | 材質 | 色調 | 形跡 | 備考 | 番号 | 種類 | 出土地点 | 長さ | 幅 | 孔径 | 重さ | 材質 | 色調 | 形跡 | 備考 | |
|----|----|------|------|------|------|------|-----|----|-----|------|-----|----|------|------|------|------|------|-----|----|-----|-----|--|
| 1 | 丸玉 | 石室Ⅰ区 | 6.50 | 6.00 | 1.50 | 0.60 | ガラス | 藍色 | A-3 | | 83 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 1.30 | 3.50 | 1.00 | 0.03 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 2 | 丸玉 | 石室Ⅰ区 | 4.30 | 7.50 | 2.00 | 0.35 | ガラス | 褐色 | B-3 | | 84 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.70 | 4.80 | 2.00 | 0.07 | ガラス | 藍色 | A-1 | | |
| 3 | 丸玉 | 石室Ⅰ区 | 5.50 | 7.10 | 1.50 | 0.37 | ガラス | 褐色 | A-3 | | 85 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.20 | 4.80 | 2.00 | 0.06 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 4 | 丸玉 | 石室Ⅰ区 | 4.90 | 7.80 | 5.00 | 0.39 | ガラス | 藍色 | A-3 | | 86 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.00 | 3.80 | 1.50 | 0.04 | ガラス | 褐色 | B-1 | | |
| 5 | 丸玉 | 石室Ⅰ区 | 3.80 | 6.90 | 1.50 | 0.25 | ガラス | 藍色 | A-3 | | 87 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.50 | 3.80 | 1.00 | 0.06 | ガラス | 褐色 | B-1 | | |
| 6 | 丸玉 | 石室Ⅰ区 | 5.10 | 7.20 | 1.50 | 0.40 | ガラス | 藍色 | A-2 | | 88 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.50 | 4.20 | 1.00 | 0.06 | ガラス | 褐色 | A-3 | | |
| 7 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 5.00 | 5.70 | 1.50 | 0.20 | ガラス | 藍色 | A-3 | | 89 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.80 | 3.90 | 1.50 | 0.04 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 8 | 丸玉 | 石室Ⅰ区 | 4.10 | 7.30 | 1.80 | 0.31 | ガラス | 藍色 | B-2 | | 90 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.40 | 4.00 | 1.00 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 9 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.90 | 5.80 | 2.00 | 0.14 | ガラス | 藍色 | B-1 | 片側陥凹 | 91 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.70 | 4.00 | 1.00 | 0.05 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 10 | 丸玉 | 石室Ⅰ区 | 4.00 | 6.00 | 1.50 | 0.32 | ガラス | 褐色 | B-2 | | 92 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.10 | 4.10 | 1.00 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 11 | 丸玉 | 石室Ⅰ区 | 4.00 | 7.00 | 1.50 | 0.26 | ガラス | 褐色 | A-2 | | 93 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.30 | 4.00 | 1.00 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 12 | 丸玉 | 石室Ⅰ区 | 4.00 | 7.00 | 2.00 | 0.29 | ガラス | 褐色 | B-2 | | 94 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.50 | 4.20 | 1.50 | 0.06 | ガラス | 藍色 | B-3 | | |
| 13 | 丸玉 | 石室Ⅰ区 | 4.60 | 6.30 | 1.50 | 0.24 | ガラス | 褐色 | A-2 | | 95 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.90 | 4.60 | 1.00 | 0.11 | ガラス | 藍色 | B-3 | | |
| 14 | 丸玉 | 石室Ⅰ区 | 2.40 | 5.60 | 1.00 | 0.13 | ガラス | 藍色 | B-1 | | 96 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.30 | 4.10 | 1.50 | 0.05 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 15 | 丸玉 | 石室Ⅰ区 | 3.40 | 6.10 | 1.50 | 0.17 | ガラス | 藍色 | A-1 | | 97 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.90 | 4.40 | 2.00 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 16 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.50 | 3.70 | 1.00 | 0.04 | ガラス | 藍色 | B-1 | | 98 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.90 | 4.30 | 2.00 | 0.06 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 17 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.90 | 4.50 | 1.00 | 0.08 | ガラス | 褐色 | B-1 | | 99 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.10 | 4.30 | 1.50 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 18 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.90 | 3.80 | 1.00 | 0.06 | ガラス | 褐色 | B-1 | | 100 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.50 | 3.80 | 1.00 | 0.05 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 19 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.30 | 4.60 | 1.50 | 0.04 | ガラス | 褐色 | B-1 | | 101 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.60 | 4.00 | 2.00 | 0.08 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 20 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.40 | 3.80 | 1.50 | 0.04 | ガラス | 褐色 | B-1 | | 102 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.80 | 3.70 | 1.00 | 0.05 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 21 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.80 | 4.10 | 1.00 | 0.06 | ガラス | 褐色 | B-1 | | 103 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.10 | 4.00 | 1.00 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-3 | | |
| 22 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.50 | 3.70 | 1.00 | 0.04 | ガラス | 藍色 | B-1 | | 104 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.50 | 5.20 | 1.00 | 0.15 | ガラス | 藍色 | B-1 | 内有り | |
| 23 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.50 | 3.80 | 1.50 | 0.05 | ガラス | 褐色 | B-1 | 内有り | 105 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.60 | 4.00 | 不 | 0.05 | ガラス | 褐色 | B-1 | | |
| 24 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.70 | 3.80 | 1.00 | 0.06 | ガラス | 藍色 | B-1 | | 106 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.20 | 3.80 | 1.50 | 0.04 | ガラス | 褐色 | B-1 | | |
| 25 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.40 | 3.70 | 1.50 | 0.04 | ガラス | 褐色 | B-1 | | 107 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.80 | 4.30 | 1.50 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 26 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.80 | 4.30 | 1.00 | 0.06 | ガラス | 褐色 | B-1 | | 108 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.70 | 3.70 | 1.00 | 0.04 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 27 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.90 | 4.20 | 1.00 | 0.07 | ガラス | 褐色 | B-1 | | 109 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.60 | 3.60 | 1.00 | 0.04 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 28 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.60 | 4.00 | 1.50 | 0.06 | ガラス | 褐色 | B-1 | | 110 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.00 | 3.90 | 1.50 | 0.05 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 29 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.80 | 4.50 | 1.50 | 0.07 | ガラス | 褐色 | B-1 | | 111 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.40 | 3.80 | 1.50 | 0.04 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 30 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.30 | 3.80 | 1.00 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-1 | 片側陥凹 | 112 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.30 | 4.00 | 1.00 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 31 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.90 | 3.90 | 1.00 | 0.06 | ガラス | 藍色 | B-1 | | 113 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.80 | 4.60 | 1.00 | 0.08 | ガラス | 褐色 | B-3 | | |
| 32 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.30 | 4.00 | 2.00 | 0.04 | ガラス | 藍色 | B-1 | | 114 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.70 | 3.70 | 1.00 | 0.05 | ガラス | 褐色 | B-1 | | |
| 33 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.90 | 4.40 | 1.00 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-3 | | 115 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.30 | 3.90 | 1.00 | 0.04 | ガラス | 藍色 | B-3 | | |
| 34 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.90 | 3.70 | 1.00 | 0.04 | ガラス | 藍色 | B-1 | | 116 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.80 | 4.70 | 2.00 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-3 | | |
| 35 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.60 | 4.10 | 1.50 | 0.06 | ガラス | 褐色 | B-1 | | 117 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.70 | 3.80 | 1.50 | 0.05 | ガラス | 褐色 | B-1 | | |
| 36 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.70 | 4.20 | 1.50 | 0.07 | ガラス | 褐色 | B-1 | | 118 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.80 | 4.40 | 1.00 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-3 | | |
| 37 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.80 | 4.20 | 1.00 | 0.07 | ガラス | 褐色 | B-1 | | 119 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.40 | 4.00 | 1.50 | 0.04 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 38 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.50 | 4.00 | 2.00 | 0.04 | ガラス | 褐色 | B-1 | | 120 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.60 | 4.10 | 1.50 | 0.06 | ガラス | 藍色 | B-3 | | |
| 39 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.80 | 5.70 | 1.00 | 0.15 | ガラス | 褐色 | A-2 | | 121 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.10 | 4.20 | 1.00 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 40 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.60 | 3.90 | 1.50 | 0.04 | ガラス | 藍色 | B-1 | | 122 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.80 | 4.30 | 1.50 | 0.07 | ガラス | 褐色 | B-3 | | |
| 41 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.20 | 4.30 | 1.80 | 0.08 | ガラス | 藍色 | B-1 | | 123 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.60 | 4.60 | 2.00 | 0.04 | ガラス | 褐色 | B-1 | | |
| 42 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.60 | 4.60 | 1.50 | 0.07 | ガラス | 褐色 | B-1 | | 124 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.30 | 3.80 | 1.00 | 0.04 | ガラス | 褐色 | B-1 | | |
| 43 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.40 | 4.80 | 1.50 | 0.11 | ガラス | 藍色 | B-1 | | 125 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.80 | 3.80 | 1.00 | 0.05 | ガラス | 褐色 | B-1 | | |
| 44 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.00 | 4.20 | 1.00 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-3 | | 126 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.50 | 4.00 | 1.50 | 0.04 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 45 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.90 | 4.30 | 2.00 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-1 | | 127 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.90 | 4.30 | 1.00 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-3 | | |
| 46 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.20 | 4.20 | 1.00 | 0.08 | ガラス | 藍色 | B-1 | | 128 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.90 | 4.40 | 1.50 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 47 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.00 | 3.50 | 1.00 | 0.05 | ガラス | 褐色 | B-1 | | 129 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.10 | 3.80 | 1.00 | 0.06 | ガラス | 褐色 | B-1 | | |
| 48 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.80 | 4.10 | 1.00 | 0.07 | ガラス | 藍色 | B-1 | | 130 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.60 | 4.10 | 1.50 | 0.05 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 49 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.10 | 4.20 | 1.50 | 0.06 | ガラス | 藍色 | B-1 | | 131 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.70 | 3.70 | 1.00 | 0.04 | ガラス | 藍色 | B-1 | | |
| 50 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.40 | 3.90 | 1.00 | 0.05 | ガラス | 藍色 | B-1 | 内有り | 132 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.00 | 4.50 | 1.50 | 0.08 | ガラス | 褐色 | B-1 | | |
| 51 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 3.00 | 5.50 | 2.00 | 0.12 | ガラス | 藍色 | B-1 | | 133 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.50 | 3.90 | 2.00 | 0.04 | ガラス | 褐色 | B-1 | | |
| 52 | 小玉 | 石室Ⅰ区 | 2.50 | 4.00 | 1.50 | 0.06 | ガラス | 藍色 | B-1 | | | | | | | | | | | | | |

第2節 竪穴住居址

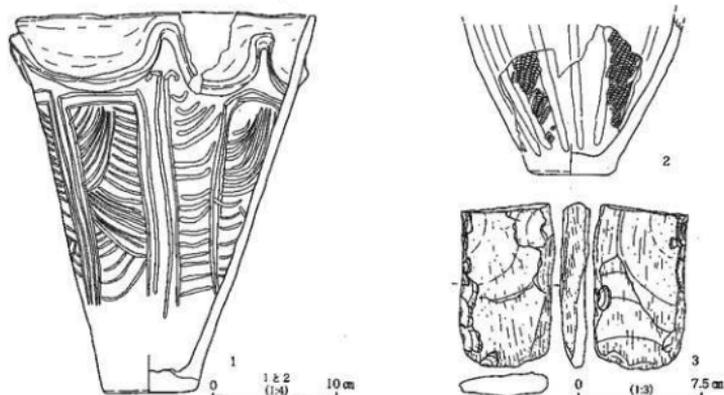
1) 1号住居址

本址はⅣ-F区23Grに位置する。遺構確認面はⅢ層暗褐色土中である。遺構の残存状況は非常に悪く北側の一部で壁の立ち上がりを確認できた他は、遺物の出土状況とピットの検出位置で住居址壁ラインを推定復元した。形態は以上のことから不確実ではあるがやや東西に軸長が長い円形を呈し、中央やや東よりに石敷きの炉をもつ。規模は南北長3.45m・東西長4.25mで壁高は北壁で残存値6cmを測る。ピットは6カ所確認され、何れも壁に沿うように検出された。規模は径23~30cm・深さ23cmのものがおおい。床は軟弱で地山をそのまま踏み固めたような状態であった。住居址の中央北よりに炉と考えられる部分が検出された。炉の周辺には大型の鉄平石が4枚確認された。これら石は床よりも最大18cm浮いているが、本来はこれら石直下が床とも考えられる。炉の四方には長軸22cm・深さ8cmを測る長楕円形の掘り込みが4カ所検出された。これら掘り込みは周辺に広がる石が埋め込まれていたと考えられ、本址炉は石囲い炉であった可能性が非常に高い。なお、炉中央部からは焼土・炭化物等は検出できなかった。住居址南側には埋め変状の深鉢（実測図1）が正位で検出されている。

本址からの出土遺物は図示したものの他に深鉢片がある。1は先に述べたように埋め変状態で出土した。口縁部の一部を欠損するがほぼ完形にちかい。文様は口縁部直下に五つの頂点をもつ山形の隆体を巡らし、胴部は沈線により「コ」の字区画された空間の中に沈線による蕨手状の模様が施文されている。これら特徴より唐草文系の深鉢で加曾利EⅣ平行と考えられる。2は同じく深鉢の底部から胴部破片で、施文は縦方向の沈線区画内に原体L-Rの縄文を充填している。これら特徴から加曾利EⅢ式の特徴を兼ね備えていると考えられる。3は打製石斧で縦方向のすり減りが激しい。これら遺構の特徴や遺物より本址は縄文中期後半に位置づけられる。



第37図 H1号住居址実測図



第38図 H1号住居址出土遺物実測図

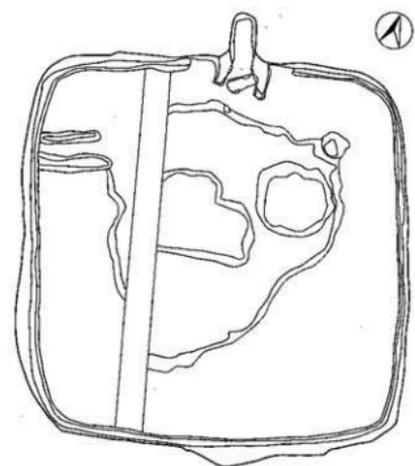
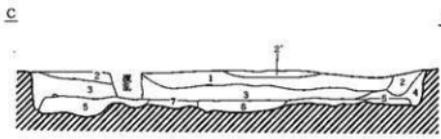
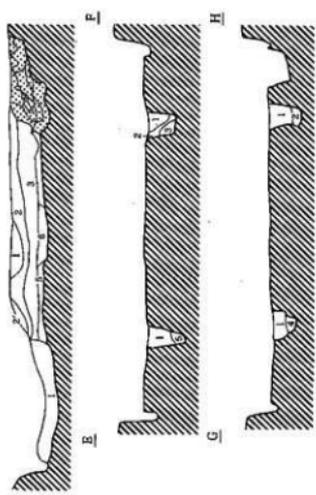
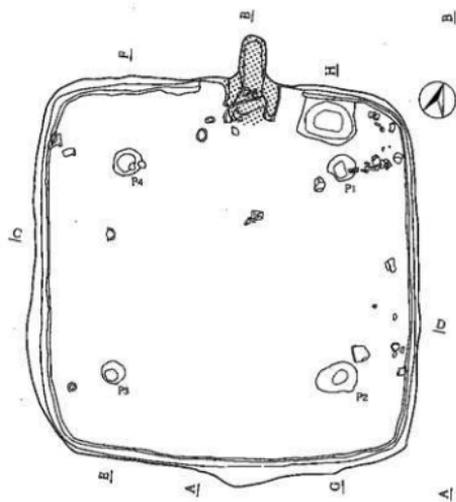
2) H2号住居址

本址はⅣ-L区3.4.8.9Grに位置する。遺構の残存状況は比較的良好であったが、住居址西側部分の床が後世の排水管により攪乱を受けていた。形態は住居址が若干隅丸となる方形の竪穴住居址で北壁中央にカマドを持つ。規模は壁長さが北壁5.5m・南壁5.6m・東壁5.5m・西壁5.6mで、壁高さは東壁中央で40cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がっているが、南壁中央のみやや外側に張り出した状態となっていた。入り口施設の一形態とも考えられたが確証は得られなかった。住居址主軸方位はN-22°-Wを示す。壁溝はカマド脇を除くすべての壁直下で確認された。規模は幅10~16cm・深さ8~16cmを測り、ほぼ均一化していた。床は全面が硬化していた。ピットは四カ所確認され、これらが住居址の支柱穴と考えられる。規模は径が38~46cm、深さが平均で61cmを測る。これらピットは柱跡的な土層は観察されなかった。その他の施設として住居址北東コーナーよりから貯蔵穴的な土坑が検出された。また、この土坑周辺から数多くの遺物が検出された。

本址のカマドは北壁中央に構築されていた。袖は乳白色の粘土を使用しカマド周辺にも2カ所の粘土だまりが見られた。加工痕のみられる40×20cm・厚さ6cmの天井石と考えられる石が焚口部に崩落していた。また、面取り加工した石も周囲に散在し、カマド構築材として使用したものと思われる。火床面は径50cmほどの広がりで確認された。煙道部は規模が長さ1.6m・幅0.42mを測る。形態は火床面とほぼ同じ高さで壁を掘り込み、先端で垂直に立ち上がる。

住居址掘り方は一般的なものと逆で中央部がやや窪んでおり、中央部より東側に広くて浅い方形の土坑が確認できた。また、P4から西側にかけては間仕切りと思われる溝が2本確認された。

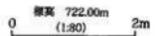
本址からの出土遺物は非常に多く、覆土上層から下層までまんべんなく出土している。特に住居址北東コーナー付近には完形に近い個体が出土している。1は須恵器環で覆土中から出土した。調整は体部クロコヨコナデ、底部はヘラケズリを施す。2~5は土師器環である。出土位置は2と5が覆土、3がカマド内、4が南西コーナー付近である。形態はいずれも須恵器蓋の模倣タイプであるが、5のみややタイプが異なり、模倣した須恵器が異なるのか或いは形態変化を起こしているとも見受けられる。調整は2が底部外面ヘラケズリで内面ミガキ、口縁部はヨコナデ。3が底部外面ヘラケズリで口縁部と内面ヨコナデ、4が内外面ともに丁寧なミガキ、5が底部外面ヘラケズリ内面ミガキである。



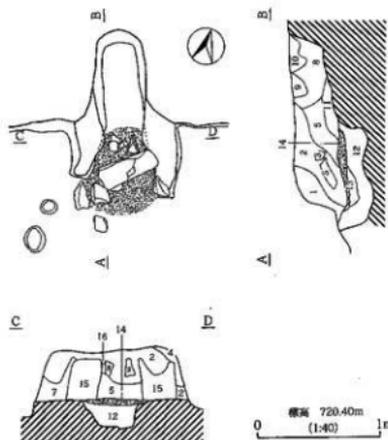
- 1層 剣い暗褐色土
黄褐色土が敷き込んでいる。木の槌やビニールテープが露出し、投鼠土である。罅りが極めて悪い。砂質、粘性なし。
- 2層 黒褐色土
罅りは良いのだが、粘性はやや弱い。黄褐色の小礫(φ5以下)が散在(10%以下)している。粒子が細かい。
- 2'層 黒褐色土
2層より黄褐色の小礫を含有する量が少ない。罅り弱い。
- 3層 暗褐色土
2層よりも明度が高い。黄褐色の小礫を30%前後含む。罅り良く若干の粘性有り。粒子が細かい。
- 4層 茶色味を帯びた暗褐色土
礫等の他の土を全く含まない。罅り、粘性並。やや砂質。
- 5層 乳白色粘土及び黒色土が50%ずつ混在している土
粘性のある部分と、砂質で罅りのない部分とが有り。
- 6層 暗褐色土
乳白色、赤褐色の粘土が30%混在している。この層は、ビットになる。罅りが良く、硬い。
- 7層 白色土
砂質、ザラザラとしている。部分的に赤褐色の粘土が混入している。罅り悪し、粘性なし。粒子細かい。

ビット土層説明

- 1層 鈍い褐色土
小礫φ3以下が層状に混在する。砂質、罅り悪し、粘性なし。やや黄味を帯びる。
- 2層 鈍い黄褐色土
暗褐色や黒色土の塊が混在している。砂質、罅り悪し、粘性なし。
- 3層 黒色土
粒子が極めて細かい。やや粘性有り、罅りはやや良い。
- 4層 暗褐色土
1層よりもやや硬く、黒色土を下部中心に10%含んでいる。砂質罅り悪く、粘性なし。
- 5層 黒褐色土
砂質赤土。暗褐色土が40%混在する。小礫φ3以下が散在。罅り悪く、粘性なし。



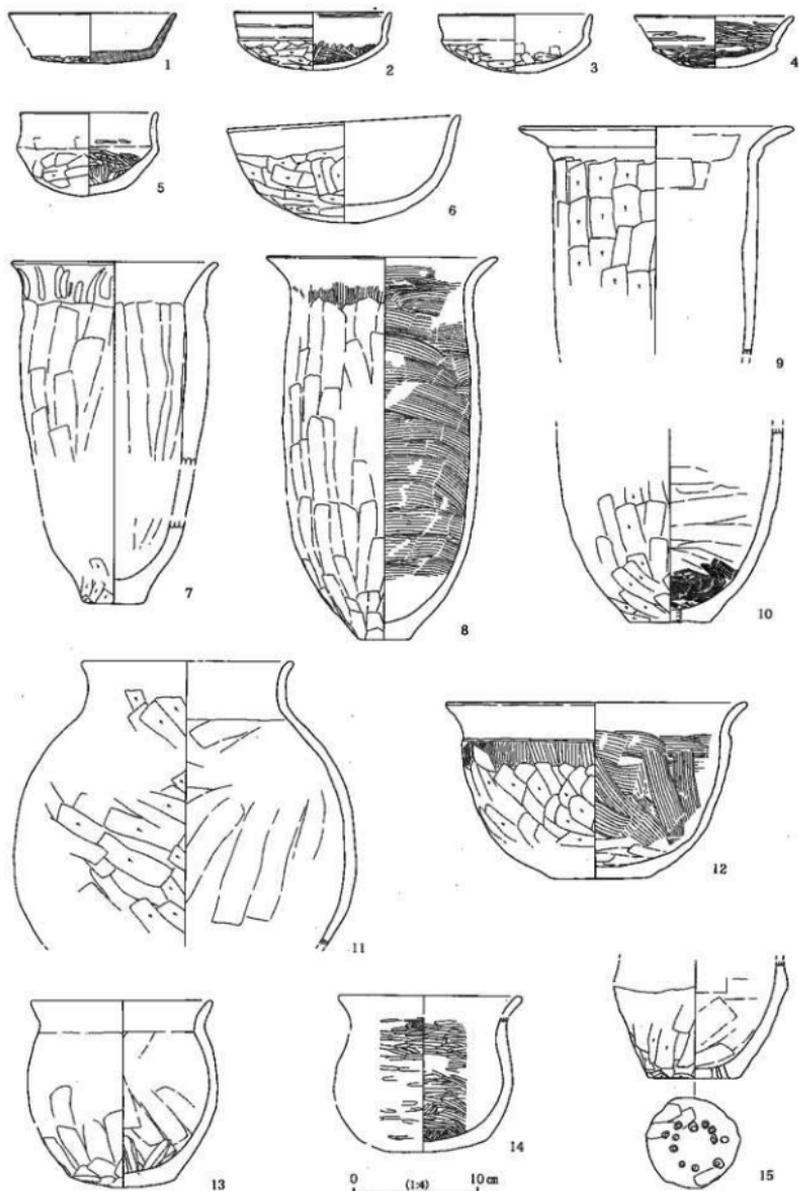
第39図 H2号住居址実測図



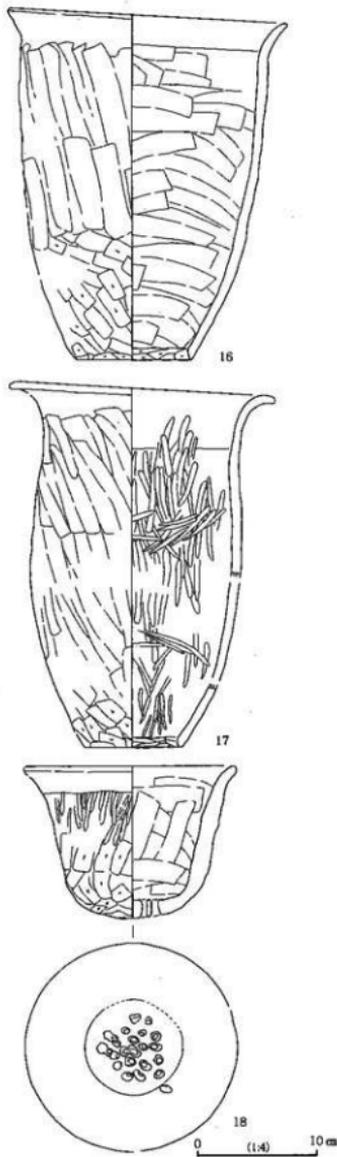
- 1層 暗褐色土 内側に帯びた細かい粒子が散在する。全体的に粒子が細かい。小石より下も散在する。砂質土。しまり悪く、粘性なし。
- 2層 暗褐色土 1層よりも細かい。小石より下の含有量が多い。
- 3層 赤褐色土 黒色の小粒子状土層が混在する。粘性がややあるが、粘土ではない。しまり良い。
- 4層 暗褐色土 粒子粗かく砂質である。白色系の小粒子が散在する。しまり悪く、粘性なし。
- 5層 赤褐色を帯びた褐色土 砂質。しまり悪く粘性なし。暗褐色土が覆った土層。
- 6層 純く黄目の暗褐色土 空地の乳白色土と暗褐色土が混在した土。ザラザラとした砂質。しまり悪くなく、粘性もなし。白色小粒子が散在する。
- 7層 暗褐色土 2層より白味が所す。内側に帯びた粘土質の土が散在する。砂質。しまり悪く、粘性なし。
- 8層 黄目の暗褐色土 小粒子の石が散在している。砂質土。しまり悪く、粘性なし。
- 9層 赤褐色土 しまりが良い。粘性も若干有る。粒子が細かい。雑草土。
- 10層 暗褐色土 黄褐色土の境や、黒色土が散在する。しまり悪く、粘性なし。砂質土。
- 11層 明度の高い黄褐色土 黄味強く、地山の黄褐色土より、きめ細かい砂質。
- 12層 暗褐色土 黒褐色土を40%混在する。砂質。しまり悪く、粘性なし。小石の乳白色粘土が部分的に散在する。
- 13層 赤褐色土 火柱部の土で、赤く焼けている。粒子粗かく砂質。しまり、粘性。
- 14層 火床面
- 15層 カマド土。乳白色土と赤褐色土の混合土。

第40図 H2号住居址カマド実測図

6は土師器鉢とした。調整・形態は土師器環であるが口径が19cmであり、普通のな環の13~16cmと比べると遙かに大型で環とは用途を事すると判断した。出土位置は住居址北東コーナーであり、調整は底部外面ヘラケズリで、内面は不鮮明であるがナゲが施されている。7~10は土師器甕である。出土位置は7がP1脇から、8と10が覆土、9が住居址中央部の床面上からそれぞれ出土している。調整は7が底部及び底部周辺がヘラケズリで胴部外面と内面がヘラナゲ、口縁部はヨコナゲの後指頭によるミガキのような整形が残る。また7は他の甕に比べ胎土が非常に荒く径1~2mmの砂粒を多く含む。8は胴部外面が縦方向のナゲ頸部がハケ目のナゲが残り、口縁部はヨコナゲで内面はハケ目のナゲが施されている。また底部には木葉痕がある。9は胴部外面縦方向のヘラケズリで内面ナゲ、口縁部はヨコナゲであるが頸部に強いヨコナゲの為一条の沈線が巡っているように見える。10は底部と底部周辺ヘラケズリで胴部は縦方向のヘラケズリ、内面は底部分はハケ目の残るナゲで胴部は横方向のナゲが施されている。11は胴張甕で覆土より出土した。調整は胴部外面斜め方向のヘラケズリ、内面は大きな単位のナゲが施されている。12は鉢でP1と東壁の中間地点から出土した。調整は底部及びその周辺が甕面が荒れていて不明であり、胴部はハケ目の残るナゲの後斜め方向のヘラケズリを施している。内面は底付近がナゲで胴部がハケ目の残るナゲを施している。口縁部はヨコナゲである。13は小型甕であり覆土から出土した。調整は底部から胴部外面がナゲ、口縁部ヨコナゲで内面もナゲである。14は調整等から小型壺とした。北東コーナーの東壁直下より出土した。口唇部を欠損しているが、内外面ともに丁寧なミガキが施されている。15~18は甕である。15と18は多孔で、16と17は単孔である。15はカマド東側袖脇から出土した。口縁部を欠損する。調整は外面ヘラケズリで内面ナゲ、孔は焼成前に外側から穿孔されている。18は1/2程が残存し、出土位置はP3とP4の中間地点である。調整は胴部外面が縦方向のヘラケズリで頸部付近に荒いミガキがある。内面はナゲで、孔は焼成前に外側から穿孔されている。16はP4と西壁際から出土した。調整は胴部外面下半がヘラケズリで上半が縦方向のナゲ、内面は横方向のナゲが施されている。17は覆土より出土し、孔周辺はヘラケズリ、胴部外面上半はナゲで内面は大きな単位のミガキが施されている。これらの遺物より本址は6世紀後半の所産時期が考えられる。



第41图 H2号住居址出土遗物实测图(1)



第42図 H2号住居址出土遺物実測図(2)

3) H3号住居址

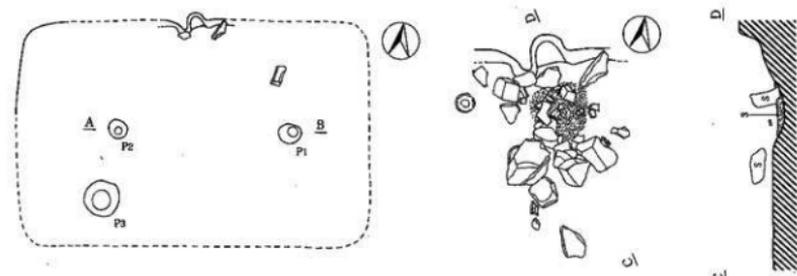
本址はⅣ-B区23Grに位置する。本址の遺構確認面は本来Ⅱ層黒色土中であつたが、試掘時のデーターなどから表土剥ぎの段階で確認面を下げすぎてしまった為、残存状況は非常に不良となつてしまった。ただ、黒色土中の遺構でありプランの検出には困難を極めた。

2度の検出を行ったがプランはつかめず、カマド西側部分で床面と思われる部分が一部確認できたが住居址の立ち上がりは確認できなかった。この床を追って南側に掘り広げるとすぐに硬化した床面が無くなり覆土と同質の黒色土となつてしまった。よつて、図に示した住居址の推定プランは一部立ち上がりが確認された北西コーナー部とカマド、ピットを参考点に点線で示した。

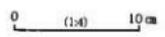
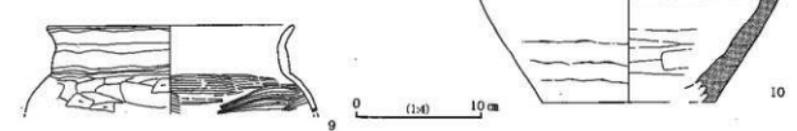
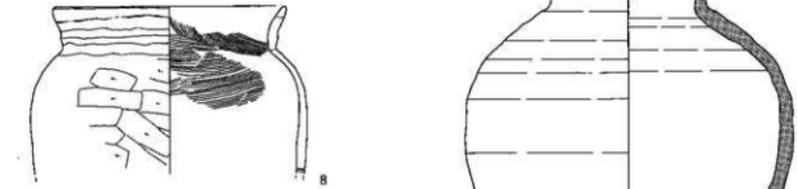
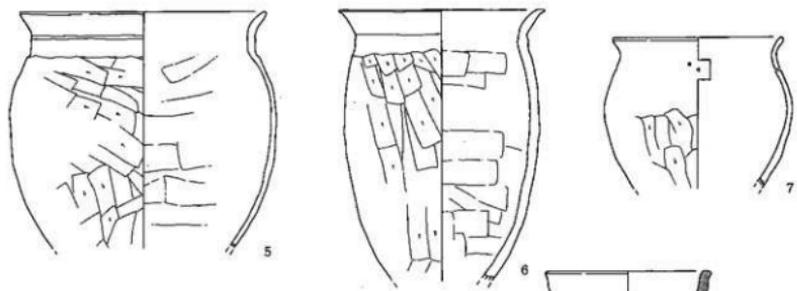
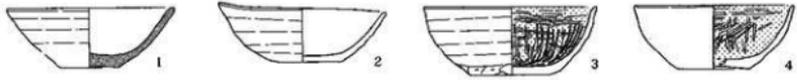
以上のことから本址の形態は東西に長い方形の住居址であり、北壁にカマドを持つ。規模はいずれも推定で東西長軸5.7m・南北短軸3.7mを測る。住居址主軸方位はN-9°-Wを示す。床は硬化した黒褐色土の床面が部分的に確認できた。確認できた床のレベルと遺物のレベル北西コーナーのレベルから、床面は地形の傾斜に沿う形で東側に緩やかに傾斜を持っていたものと思われる。柱穴は2カ所確認された。何れも径は30cm・深さは40cmほどである。また、住居址南西コーナー近くに径58cm・深さ37cmの土坑が確認された。土坑内から出土した須恵器甕片とカマド周辺から出土した須恵器甕の破片が同一個体であつた。

本址のカマドは北壁中央で検出された。火床面は黒色土がよく焼けており、周辺からは多くの石が出土した。すべての石が熱を受けていることから石組みカマドであり、人為的に壊され放棄されたような様子であつた。石材の多くは堅い石であり軽石も少量見られた。加工痕はただ2点のみ直方体に面取りされた砂礫質の石があつた。支脚石は軽石を使用しており、やや傾いてはいるが原位置を保っていた。

本址の出土遺物はカマド周辺から多く出土した。また、本址から出土した須恵器甕片は2号墳から出土した須恵器甕と同一個体のものが存在した。1は須恵器環である。2/3程が残存している。底部は回転糸切り離しである。2~4は土師器環である。3と4は内面ミガキと黒色処理が施されている。5~9は土師器甕で何れも胴部外面ヘラケズリで、8と9は内面ハケ目が残る。10は須恵器短頸壺で底部を欠損する。これらの遺物より本址は9世紀後半の所産時期が考えられる



- 1層 黒褐色土 10YR2/2 明黄褐色土のブロック少量含む。きめ細かく粘性あり。
- 2層 黒色土 10YR2/1 明黄褐色土の小ブロック少量含む。きめ細かく粘性あり。
- 3層 焼土層



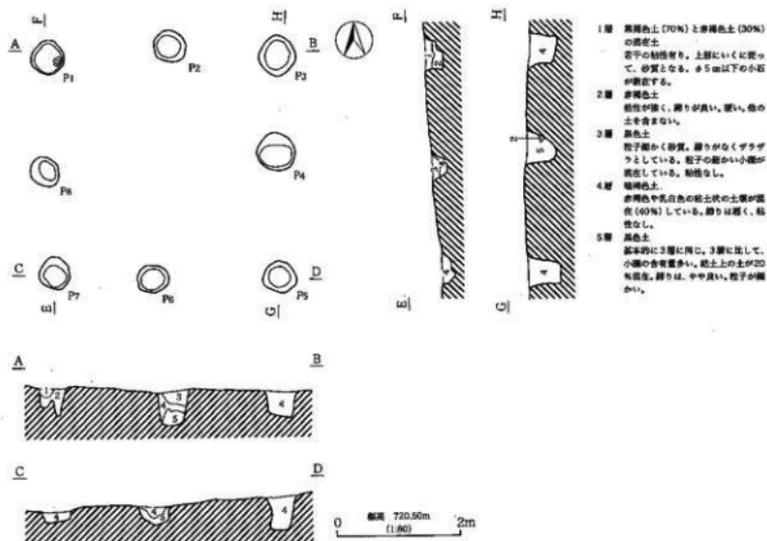
第43図 H3号住居址実測図及び出土遺物実測図

第9表 H2・3号住居址出土土器観察表

| 排 号 | 器 種 | 法 量 (cm) | | | 成 形 ・ 調 整 | | 胎 土 色 調 |
|--------|-----------|----------|--------|------|-----------|--|--|
| | | 口 徑 | 器 高 | 底 徑 | 外 面 | 内 面 | |
| 41-1 | 須恵器 弁 | 13.5 | 4.0 | 9.8 | 外面 内面 | 底部ヘラケズリ、口縁部と体部ナデ ナデ、生焼付的 | 径2mm以下の赤色粒子を多く含む。 10YR 6/2 灰赤褐色 |
| 41-2 | 土師器 弁 | 12.8 | 4.7 | --- | 外面 内面 | 底部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ ミガキ | 径1mm以下の白・黒色粒子を含む。 10YR 6/3 に近い黄褐色 |
| 41-3 | 土師器 弁 | 12.5 | 4.7 | --- | 外面 内面 | 底部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ ナデ | 径1mm以下の白色粒子を含む。 10YR 3/1 黒褐色 |
| 41-4 | 土師器 弁 | 12.3 | 4.2 | --- | 外面 内面 | ヘラケズリの後ミガキ、口縁部ヨコナデの後ミガキ ミガキ | 径1mm以下の白色粒子を含む。 7.5YR 7/2 明褐色 |
| 41-5 | 土師器 弁 | 11.2 | 6.5 | --- | 外面 内面 | 底部ヘラケズリ、11線部ナデ ミガキ | 径1mm以下の黒・茶色粒子を含む。 5YR 6/6 褐色 (内面) |
| 41-6 | 土師器 鉢 | 19.0 | 8.8 | --- | 外面 内面 | 底部から体部ヘラケズリ、L線部ヨコナデ ナデ? | 径1mm以下の白・黒色粒子を含む。 7.5YR 7/3 に近い褐色 |
| 41-7 | 土師器 甕 | 16.6 | --- | 4.8 | 外面 内面 | 底部と周辺ヘラケズリ、胴部ヘラナデ、口縁部ナデの後ミガキ 縦方向の長いヘラナデ | 大粒の砂を含む。軟型である。 2.5YR 4/6 赤褐色 |
| 41-8 | 土師器 甕 | 18.7 | 31.3 | 4.2 | 外面 内面 | 底部に木葉状、胴部ハケ目のナデの後ヘラナデ ハケ目の残るナデ | 径2mm以上の茶色粒子を含む。 5YR 5/6 明赤褐色 |
| 41-9 | 土師器 甕 | 22.1 | <18.6> | --- | 外面 内面 | 胴部縦方向のヘラケズリ、口縁部強いヨコナデ ヨコナデ | 径1mm以下の白・黒色粒子を含む。 5YR 6/6 褐色 |
| 41-10 | 土師器 甕 | --- | <15.8> | 6.3 | 外面 内面 | 底部から胴部ヘラケズリ 底付近ハケ目の残るナデ、胴部ナデ | 径2mm以下の黒・白色粒子を含む。 5YR 6/6 褐色 |
| 41-11 | 土師器 胴部 | 17.2 | <23.1> | --- | 外面 内面 | 胴部から胴部ヘラケズリ、L線部ヨコナデ 縦方向のヘラナデ | 径1mm以下の白・黒色粒子を含む。 5YR 6/6 褐色 |
| 41-12 | 土師器 鉢 | 24.3 | 14.4 | 8.2 | 外面 内面 | 口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目の残るナデの後ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目の残るナデ、底面ナデ | 径1mm以下の白・黒色粒子を含む。 7.5YR 6/3 に近い褐色 |
| 41-13 | 土師器 小甕 | 14.7 | 15.2 | 8.5 | 外面 内面 | 底部から胴部ヘラナデ、口縁部ヨコナデ ヘラナデ | 大粒の小石を含む荒れた感じ。 6YR 5/3 に近い赤褐色 |
| 41-14 | 土師器 小甕 | --- | <11.0> | --- | 外面 内面 | 底部から胴部ミガキ ミガキ | 径1mm程度の白・茶色粒子を含む。 7.5YR 7/3 に近い赤褐色 |
| 41-15 | 土師器 甕 | --- | <9.6> | 7.5 | 外面 内面 | 底部から胴部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ ナデ、底部の孔は焼成前外面から穿孔 | 径1mm程度の白・黒色粒子、小石を含む。 5YR 4/6 赤褐色 |
| 42-16 | 土師器 甕 | 23.5 | 30.0 | 9.7 | 外面 内面 | 胴部下半ヘラケズリ、胴部上半ヘラナデ 横方向のヘラナデ、孔端面ヘラケズリ | 径0.5-1mm以下の白・黒色粒子を含む。 7.5YR 6/4 に近い褐色 |
| 42-17 | 土師器 甕 | 22.3 | 31.2 | 8.2 | 外面 内面 | 胴部下半ヘラケズリ、胴部上半ヘラナデ 鬼いミガキ、孔端面ヘラケズリ | 径1mmの白・黒色粒子、小石を含む。 7.5YR 6/6 褐色 |
| 42-18 | 土師器 甕 | 17.8 | 12.9 | --- | 外面 内面 | 底部から胴部下半ヘラケズリ、胴部上半ミガキ、口縁部ヨコナデ ヘラナデ | 径0.5-1mmの黒・白色粒了小石を含む。 7.5YR 5/6 明褐色 |
| 43-1 | 須恵器 弁 | 13.5 | 4.8 | 4.6 | 外面 内面 | 口縁部ヨコナデ、底部回転糸切り離し 口縁部ヨコナデ | 径0.5-2mmの粒子を多く含む。 7.5YR 6/1 灰色 |
| 43-2 | 土師器 弁 | 13.6 | 4.9 | 5.1 | 外面 内面 | 口縁部ヨコナデ、底部回転糸切り離し 口縁部ヨコナデ | 径0.5-1mmの黒・白粒子を含む。 5YR 5/6 明赤褐色 |
| 43-3 | 土師器 弁 | 14.0 | 5.6 | 6.4 | 外面 内面 | 底部と底部周辺ヘラケズリ、口縁部と体部口縁部ヨコナデ 丁寧な縦と横方向のミガキ、黒色処理 | 径1mm以下の白・黒色粒子を含む。 5YR 6/6 褐色 |
| 43-4 | 土師器 弁 | 12.8 | 5.2 | 5.7 | 外面 内面 | 口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 丁寧なミガキ | 径1mm以下の白色粒子を含む。 5YR 6/6 褐色 |
| 43-5 | 土師器 甕 | 19.9 | <19.3> | --- | 外面 内面 | 胴部斜め方向のヘラケズリ、口縁部ヨコナデ ヘラナデ | 径0.5-2mm以下の黒・茶色粒子を含む。 7.5YR 6/4 に近い褐色 |
| 43-6 | 土師器 甕 | 16.6 | <22.1> | --- | 外面 内面 | 胴部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ ヘラナデ | 径1mm以下の白色粒子を含む。 7.5YR 6/6 褐色 |
| 43-7 | 土師器 甕 | 15.3 | 4.2 | 7.6 | 外面 内面 | 胴部ヘラケズリ ナデ、胴部に2箇所孔、焼成後に穿孔 | 径0.5-1mmの赤・黒色粒子を含む。 7.5YR 6/4 に近い褐色 |
| 43-8 | 土師器 甕 | 18.7 | <13.6> | --- | 外面 内面 | 胴部ヘラケズリ、口縁部輪組み残る。 ハケ目の残るナデ | 径0.5-2mm程度の黒・赤色粒子を含む。 7.5YR 6/4 に近い褐色 |
| 43-9 | 土師器 甕 | 19.8 | <7.2> | --- | 外面 内面 | 胴部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ ハケ目の残るナデ | 径2mm以下の黒・白色粒子を含む。 7.5YR 6/6 褐色 |
| 43-10 | 須恵器 短甕 | 13.3 | 27.2 | 13.9 | 外面 内面 | 口縁部ヨコナデ、底部分ナデ 口縁部ヨコナデ、底部分ナデ | 径0.5-2mmの白・黒色粒子を含む。 N 3/ 暗灰色 |

第3節 掘立柱建物址

1) 1号掘立柱建物址

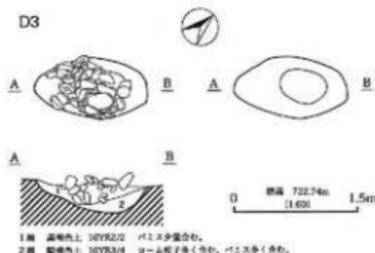
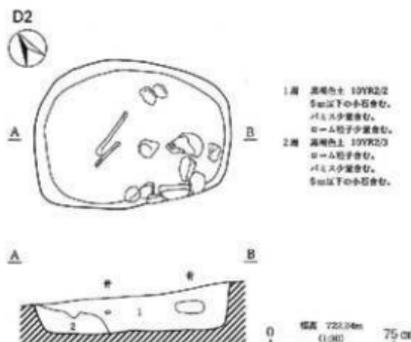
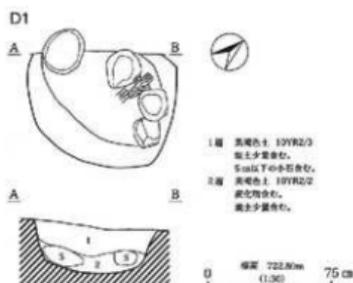


第44図 F1号掘立柱建物址実測図

本址はⅣ-G区20.25Grに位置する。残存状況は良好である。形態は梁行き・桁行きともに2間×2間で、規模は3.7m×3.74mを測る。ピット間の距離はP1～P2が2m、P2～P3が1.8m、P3～P4が1.66m、P4～P5が2.04m、P5～P6が2.06m、P6～P7が1.6m、P7～P8が1.74m、P1～P8が1.94mをそれぞれ測る。主軸方位はほぼ真北を示す。掘立柱建物址に囲まれた面積は13.84㎡を測る。各ピットの形態はほぼ円形で、規模は径が48cm～66cm・深さ23cm～60cmを測る。ピット内の土層は基本的に暗褐色土をベースとしており、柱痕が確認されたものは無かった。

本址からの出土遺物は無く、所産時期も不明である。

第4節 土坑



第45図 D1, 2, 3号土坑実測図



第46図 D2号土坑出土古銭撮影図(実寸)

1) 1号土坑

本址はⅢ-J区15Grに位置する。3号墳の周溝と重複しているが本址の方が新しい。形態は楕円形で、規模は長軸長さ96cm・深さ28cmを測る。壁は緩やかに立ち上がる。土坑底部付近には大型の礫4つが検出された。また、礫中に扶まるように炭化物と焼土、人骨が検出されている。出土遺物は無いが、人骨が火葬骨であることや、D2号土坑が中世銭を出土することから中世の土塚墓であり、本址も中世に所産時期を求められる火葬墓と考えられる。

2) 2号土坑

本址はⅣ-F区11Grに位置する。すぐ東側を3号墳の周溝が巡るが直接の重複はない。形態は隅丸方形で、規模は長軸長1.2m・短軸長90cm・深さ28cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。土坑内からは人頭大の礫に混ざって頭位を東に向ける人骨が埋葬されていた。人骨は頭部と下肢骨のみで他の部分は検出されなかった。

出土遺物は図示した古銭が5枚出土した。なお、本址の人骨は焼成を受けていないため、所産時期は中世の土塚墓と考えられる。

3) 3号土坑

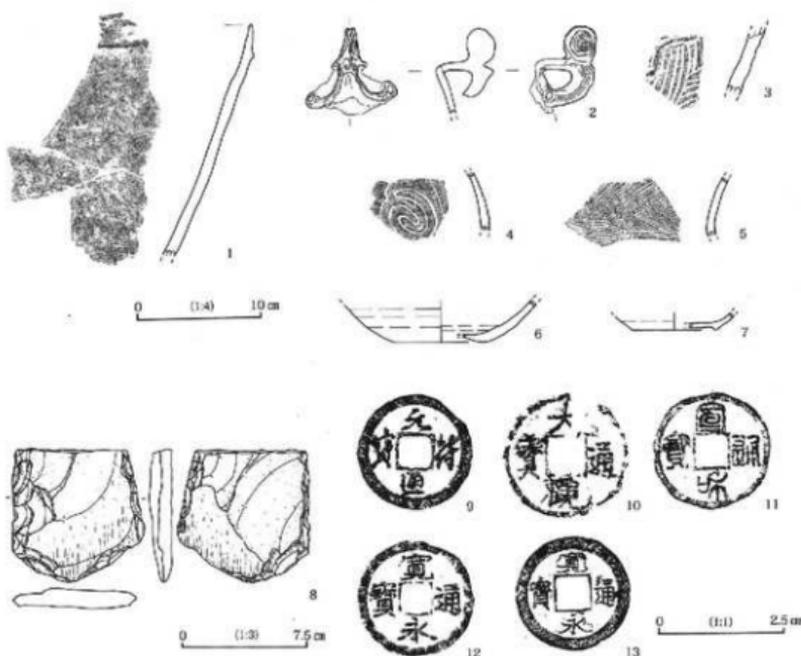
本址はⅢ-J区16Grに位置する。すぐ北側にD1号土坑が存在する。重複関係は3号墳とあるが本址の方が新しい。形態は細長い円形で、規模は長軸1.38m・深さ32cmを測る。壁は緩やかに立ち上がる。出土遺物は無かったが土坑中央に人頭大の礫が集石状に検出された。本址の所産時期は不明であるが、検出位置から中世土塚墓の可能性はある。

第5節 遺構外遺物

本節ではGr出土の遺物及び出土遺構に明らかに伴わない遺物を掲載した。1は縄文深鉢で1号墳・3号墳の墳丘から出土したものがそれぞれ接合した。口唇部直下に低い隆帯が巡る。時期は中期後半（加曾利EⅣ）と考えられる。2は縄文深鉢の口縁部把手部分である。胎土はきめ細かく精製土器のようである。時期は後期初頭（称名寺）と考えられる。3は縄文深鉢で3号墳墳丘より出土した。時期は中期（唐草文系）と考えられる。4は縄文深鉢で3号墳周溝から出土した。文様はJ字状文の中に縄文を充填している。時期は後期初頭（称名寺）と考えられる。5は弥生甕の頸部破片で1号墳墳丘から出土した。6・7は陶器で、6が瀬戸・美濃の鉢、7が瀬戸・美濃の皿である。8は打製石斧である。9から13は3号墳出土の古銭である。

第10表 D2号土坑・3号墳出土古銭一覧表

| 番号 | 銭名 | 初鋳年代 | 備考 | 番号 | 銭名 | 初鋳年代 | 備考 |
|------|------|---------|-----|-------|------|-----------|-----|
| 46-1 | 祥符通寶 | 北宋 1009 | 假銭? | 47-9 | 元符通寶 | 北宋 1098 | |
| 46-2 | 嘉祐通寶 | 北宋 1056 | | 47-10 | 大観通寶 | 北宋 1107 | |
| 46-3 | 元祐通寶 | 北宋 1086 | | 47-11 | 宣和通寶 | 北宋 1119 | |
| 46-4 | 政和通寶 | 北宋 1111 | | 47-12 | 寛永通寶 | 江戸? 1636~ | 古寛永 |
| 46-5 | 永樂通寶 | 明 1408 | | 47-13 | 寛永通寶 | 江戸? 1697~ | 新寛永 |



第47図 遺構外出土遺物実測図

第V章 考察

第1節 調査のまとめ

今回の調査では、規模や築造時期の異なる3基の古墳が調査され数多くの成果が得られ、それと同時に多くの課題が提示されたように思う。ここでは簡単にその成果と今後の課題についてふれまとめとしたい。

(1) 墳丘施設(外護列石)

まず注目する点として3号墳の「外護列石」があげられる。石室裏込めを除く二重の列石を持つ古墳としては東信地域として初例である。類例を周辺地域に求めると、県内においては長野市の大室古墳群大室谷支群・村東単位支群の第23号墳(7世紀前半)、同支群第25号墳(6世紀後半)、同支群2号墳、やや性格が異なるかもしれないが同支群第244号墳などがある。これら石組みについて報文中では、「この石組(内側)は外表面にでるものではなく墳丘内に埋設されるものである。」とのべられている。県外については、まず群馬県富岡市の芝宮古墳群富岡64号墳、同古墳群富岡69号墳(7世紀中頃)、同古墳群富岡71号墳(6世紀後半)、同古墳群富岡72号墳(7世紀初)などがある。これらの内「69、71、72号墳は二段築成の円墳であった。」と報告されている。なお、71号墳の内側と外側の列石の間には3基の円筒埴輪が樹立されている。次に高崎市の少林山台遺跡2号墳(6世紀Ⅲ四半期)、同遺跡3号墳(5世紀Ⅱ四半期)、同遺跡7号墳(6世紀前半)、同遺跡17号墳(6世紀後半)がある。何れの古墳も外側列石と内側のテラス部に埴輪列が巡り、報告では葺石のある二段築成の古墳とされている。次に埼玉県では神川町の青柳古墳群・四軒在家支群3号墳(7世紀代)が上げられる。本古墳は二重の葺石があるが、構築当時にすでに二重であったか改築によるものかは不明である。次に美里町の猪俣北古墳群第1号墳(6世紀末～7世紀初頭・鉄鍬より)があり、本古墳の形態は二段築成と報告されている。最後に神奈川県栗原市の桜土手古墳群第1号墳、同古墳群第7号墳、同古墳群第9号墳(7世紀中頃)がある。この内1号墳と7号墳については報文の中で盛り土の観察から「墳丘が完成の段階では、この石垣は盛り土の中に入ってしまっていて、外からは見えない様な状態になる。」と述べられているが、外側の列石と内側の石積み間には広い平坦部があり、形態は二段築成ともいうべきものと考えられている。

以上近隣地域の類似資料17基を挙げたが、この他にも多くの資料が存在すると思われる。また、この中には蛇塚古墳3号墳の「外護列石」とは性格を異にするものも含まれていると考えられる。特に「外護列石」と「葺石」については、本文中にも述べたが構築角度等での区分があるが、非常に分離の部分があるように感じられる。しかし、これら資料の中には多くの共通項も見いだせる。まず、二重の列石を持つ古墳は何れも古墳群中で規模が大きい方である事。次に石室壁の石材が河原石等の小型礫を使用するものが多い事。県内の大室古墳群の例を除くと何れの資料も形態は二段築成と報告されている事などが挙げられる。これらの点を整理すると、この二重の列石については、埴輪列と前庭部が非常に重要な要素として関係しているようである。或いは一次墳丘保護の必要性と共に墳丘の葺石中に埴輪列付帯の為、小円墳にもテラス状の段が創設され、埴輪消滅の後も墳丘盛土の省力化や石室前庭部の空間確保の為、前庭部からつながるような列石が整備されていったと言うような時間的・地域的変容も考慮されるのではないだろうか。蛇塚古墳3号墳の外護列石は形態的に富岡市芝宮古墳群や栗原市桜土手古墳群のものと近似するように感じられ、且つまた本墳外護列石は内側列石との間を土ではなく土石混合によって積み上げていることから、あまり高く積むことは困難と考えられる他の古墳と同様二段築成の可能性が指摘できるのではないだろうか。大要に雑ばくな捉え方であるが、まとめると3号墳外護列石は周辺地域の古墳築造の変化と連動し築かれたものであるが、在地での類

例及び変遷がつかめないので、現段階では群馬方面の影響下に成立した施設と考えておきたい。ただ、本課題は今後改めて資料の集成を持って考察の必要があると考えられる。

(2) 埋葬施設（主体部）

今回調査された3基の古墳の主体部は何れも横穴式石室であった。ただ、残存状況が3基とも悪く不明な部分が数多く存在したが、1号墳のいわゆる「L字型」横穴式石室と2号墳の玄室内に組合式石棺状の埋葬施設を持つ横穴式石室はどちらも調査例に乏しく稀少な資料を提供した。以下この2形態の埋葬施設について若干の考察を試みたい。

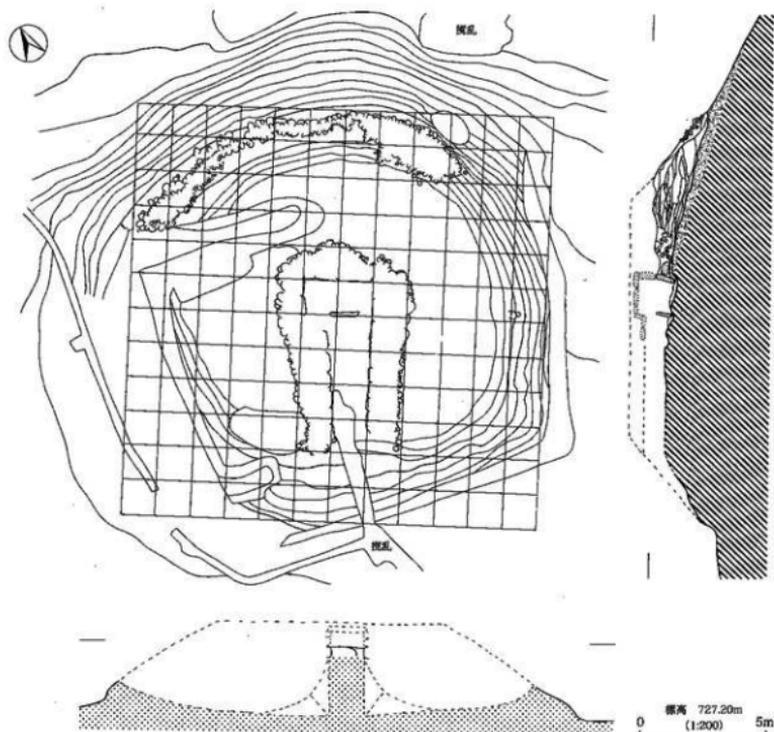
まず1号墳の石室形態であるが、本文中でも述べたとおり左袖の設定及び「石障」的な石の位置づけについて苦しんだ経緯がある。しかし、報告書段階の結論としては左片袖の「羽子板型」横穴式石室として把握した。しかし、本古墳の石室はもう一つの要素として玄室部が羨道より短く片側のみ広がるいわゆる「L字型」横穴式石室としても認定しよう。この「L字型」石室は「T字型」石室の変形として理解されている形態で、これら形態の石室は少数であるが全国的に分布する。もっとも有名なものとして紀伊半島の岩橋千塚古墳群の「T字型」横穴式石室をあげることができる。東国における分布は先学の研究成果を援用すると北から福島、栃木、茨城、千葉、埼玉、群馬、長野、静岡と諸例が報告されている。中でもやや分布の集中する地域としては千葉県房総半島や群馬県内でも甘楽・安中を中心とする西毛の山間部があげられる。県内の例としては茅野市姥塚古墳(T)・庵著神塚古墳(T)、飯田市畦地1号墳(L)、下伊那郡松川町一の坪古墳(L)、また実測図は公表されていないが丸子町辰の口高塚古墳(T)がある。県内の例は「古東山道」ルートに近い分布を示すようである。近県の「L字型」石室の例としては、群馬県が伊勢崎市権現山2号墳、佐波群赤堀村総寛赤堀村17号墳、甘楽郡甘楽町金比羅山古墳などがある。次に埼玉県では児玉郡青柳古墳群十二ヶ谷戸15号墳、大里郡花園町黒田古墳群4号墳、東松山市諏訪山古墳群3号墳などが知られている。これらいずれの古墳も築造年代は6世紀代から7世紀でも早い時期とされ、それぞれの地域では横穴式石室導入期か或いはそれに近い時期の石室形態として捉えられている。また、興味深い共通点として蛇塚古墳1号墳の「石障」的な仕切石に似た柵石が黒田古墳群4号墳を近似例として「T字型」、「L字型」それぞれの石室に多いことである。これは紀伊の岩橋千塚古墳群が所在する紀ノ川流域に石障が少なからず存在する事と大いに関連があるように感じられる。また、もう一步踏み込んだ推察をすれば、紀ノ川流域に広がる岩橋型石室と関連があると考えられている熊本の後型石室は石障の本元的な石室形態であり玄室平面が方形であるという特徴は「T字型」石室の初現的姿に示唆的である。話がやや飛躍したが、東国に広がるこの手の石室形態の解釈について一つの視点としてあながち的はずれでは無いように思う。この点に関しては後論にゆだねるとして、蛇塚古墳1号墳の石室系譜がいづこに定まるかは別として、形態としては他の例と同じく比較的細長い羽子板状の石室であり尚かつ「L字型」の要素が加わることから佐久平内においては導入期の横穴式石室と考えたい。

次に2号墳の横穴式石室をとりあげる。本文中でも述べたとおり2号墳の主体部は片袖の横穴式石室であるが、玄室部内に土壇状の掘り込みを持ち組合式石棺状の配石を持つと推定される特異な形態の墳墓であった。ただ構築時期は出土遺物より類推すると8世紀前半代であり、横穴式石室としては終末期の時期となる。佐久平近辺においても8世紀代より古墳を築造している例も見受けられるが、その形態はいずれも横穴式石室が小型となるタイプのものである。ただ、石室側壁の礫積み方が礫を平積みにして石室裏込めを盛るタイプ(佐久市長峰古墳群など)と、側壁石を腰石的に立てて小型の石室を造り裏込め石をほとんど持たないタイプ(白田町新海神社東御陵古墳など)がある。これらのことを考えあわせると、或いは蛇塚古墳2号墳の石室形態はこれら終末期古墳の祖形的なもので、玄室内の組合式石棺状の部分を発展させたものが白田町新海神社東御陵古墳のタイプとなり、石室の部分を小型にしていってものが佐久市長峰古墳群のタイプとなっていく。というような位置付けも

可能なのだろうか。ただ、蛇塚古墳2号墳のようなタイプ⁷の石室例が非常に乏しい為、雑沓な理解となってしまったが今後の資料の増加を待ちたい。

(3) 築造企画

ここでは、蛇塚古墳1号墳と3号墳の築造企画についてまとめてみたい。古墳築造企画という尺度論を扱わねばならない。今回も先学の成果に基づき晋尺、高麗尺、唐尺等を石室計測値を元に割り出そうと考えていたが、調査された3基の古墳はいずれも残存状況が悪く、平面形すら不確実な部分も存在する。本来尺度を論ずる場合には平面形はもちろん立面である側壁、天井部等も考慮されるべきである。また、幾多の研究者^(註10)の指摘もあるように切石積み石室以外の石室では計測をどの部分で行うか、どの数値を生かすかによって適合する尺が不安定となる。これらのことを顧み、蛇塚古墳の場合は、尺度というよりも企画に論点を置き考察してみたい。下と右に示した図がそれである。この2図は、「古墳の墳端と中心がどこであるか」ということを主眼として求めたものである。まず1号墳は中心が石室玄室中央の「石障」的仕切石の下であり、玄室左壁を1単位とすると奥壁部分が2単位であり、墳端までは6単位を示す。石室の羨道部端が欠損しているため石室全体の単位は不明であるが5単位位と推定できる。ここに示した1単位は約1.4mである。この復元図から推定すると1号墳の石室は墳丘のかなり上部にあり、地形的な制約なのか平地に存在する横穴式石室の古墳に比べ異

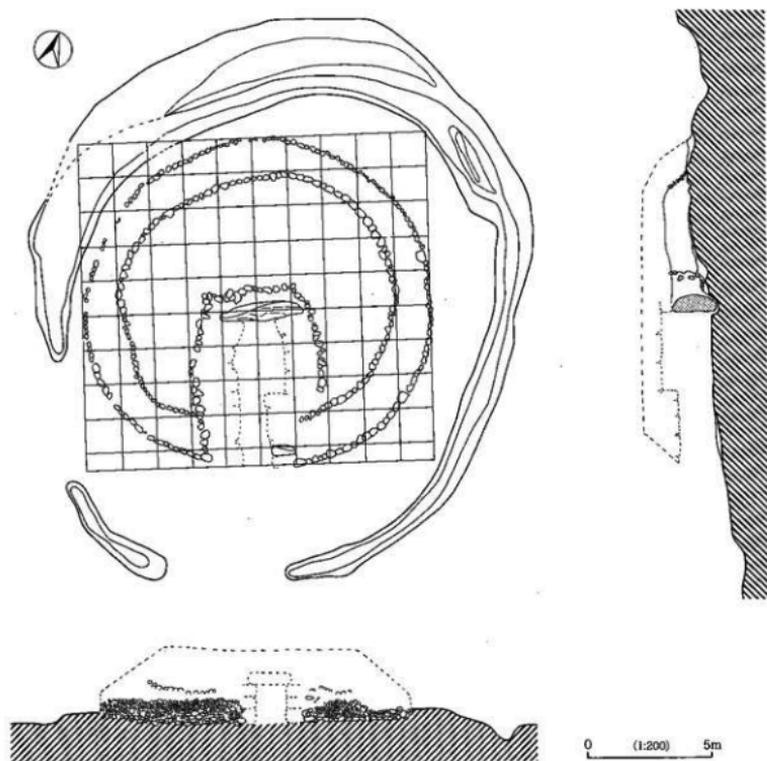


第48図 蛇塚古墳1号墳推定復元図

質な景観を示している。

次に3号墳も同様の理由から復元図を設定した。ただ、3号墳は石室礎がすでに残存していなかったため、比較的正面に近い外回りと内回りの外護列石根石によって中心を設定した。それによると内回り外護列石までは中心より半径4単位、外回り外護列石までは5単位であり、内回りと外回りの列石間は1単位となる。1単位の長さは1号墳と同様1.4mである。ただ、南面のみ0.5単位の端数が算出された。列石根石において大型の礎が設置された箇所についてはこの単位と何らかの関係は見いだせなかった。また、外側の周溝についても南北に長いためか単位の設定はできなかった。このことから、3号墳は列石内のみ企画に基づき構築され、それに伴うように必要な盛り土の為に土量で周溝より掘削していたとも考えられる。

以上、簡単に築造企画についてまとめてみたが、いずれの古墳も1単位が1.4mに設定できたのは示唆的であり、やはりこの1.4mが35cmの倍数であるというの一考に値するのかもしれない。しかし、今回は先に示した理由によりここまでの推論に止めたい。また復元図もあくまで推定であり可能性の範疇として今回は示しておきたい。



第49図 蛇塚古墳3号墳推定復元図

(4) 築造時期

最後に三古墳の築造時期について確認し調査のまとめとしたい。本来、古墳はその築造時期と埋葬時期にタイムラグがあるのは「墓」としての宿命であり、そのことは現在でも追認される事実である。しかるに横穴式石室も構築時期と石室内から出土する副葬品及び墓前祭祀品は時間的開きが当然存在する。ましてや、追葬可能な横穴式石室の構築時期を把握するのは考古学的に困難な部分が生ずる。ただ、出土品に頼らない時間的な割り出しには、形態変化などによる型式学的な手法を用いなければならないが、佐久平においてはその論考も数少ない。よって今回は出土品の内、型式学的編年が先学の研究成果により発表されている遺物を選び、古墳の築造時期を類推してみたい。

まず1号墳であるが、須恵器・土師器の中ではおおそ時期把握ができるものとして16図1の土師器環の6世紀後葉～7世紀前葉、16図4～7のハクで6世紀後半、鉄製品では17図1・2の環状鏡板付轡で6世紀末～7世紀初頭^(B12)、17図3の辻金具で6世紀後葉^(B13)、鉄鎌は大きく3つの形態が副葬されているが、18図21～39の長頭闊筥被直角圓片丸造柳葉式が6世紀後葉、18図40～44の短頭狭筥被直角闊平造長三角系式が同じく6世紀後葉、18図47～50の片刃箭系も同じく6世紀後葉である。玉類については構築時期を示す手がかりに薄いように思われるが、構築時期とは論点が離れるが注目される遺物として黄色いガラス小玉がある。1号墳はガラス小玉190点中15点(全体の7.8%)が出土している。佐久市においては調査された古墳からの黄色いガラス小玉は初めての出土であり、近隣市町村においても望月町の大塚第3号墳のガラス小玉416点中1点、長野市大室古墳群村東単位支群第25号墳のガラス小玉585点中黄色156点(全体の27%)などであり、黄色いガラス小玉の出土は数少ない。この黄色いガラス小玉の出現は5世紀後半に遡るとされ、出土数も1古墳10個以内で総数に占める割合も5%以内が圧倒的に多く、貴重品であるため地域の首長の元にまず入手され、その後、配下の族長層に少量ずつ分与されたと推考されている。また、黄色いガラス小玉の希少性と偏在的な出土状況の説明を陰陽五行思想における黄色の概念と、威信財としての分配システムの存在とを結びつけることにより説明しようとする試みもある。長野県内においても全体の動向を把握していないため、この様な分配論が立証されるのか判断がつかかねるが、いずれにしても1号墳出土の黄色いガラス小玉も含め一考の必要性があるように思われる。なお、黄色いガラス小玉出土の古墳は6世紀後半～7世紀前半が多いようである。以上、1号墳の出土遺物より副葬された時期を推定するとおおむね6世紀後葉から下っても7世紀初頭という時期が求められると考える。これは石室形態の項でも述べたが、1号墳石室の「L字型」形態より指し示す時期とも整合性があると考えられるため、1号墳の築造時期は6世紀後葉～7世紀初頭と考えたい。

次に2号墳であるが、石室内よりの出土遺物は無く、羨道部より26図1～3の須恵器、周溝より26図4.5の須恵器甕が出土しているのみである。これら須恵器の所産時期はおおむね8世紀代として大きく捉えるしか特徴が無く、石室も小型であり、特に玄室内に特徴的な組合式石棺状の埋葬施設を持つなどのことから、現時点では8世紀前半代としておきたい。

最後に3号墳であるが須恵器については33図6の高環で7世紀中葉、33図5のハクで同じく7世紀中葉、33図1の須恵器環については調整の問題から所産時期を保留したい。鉄製品については34図1～3の鞍金具があるが、類例が乏しく時期確定までには至れないが、群馬県下の例を見ると6世紀後半代のものが多いようである。また34図4の辻金具は末期的な形態で7世紀前半以降として捉えられる。鉄鎌については前他のプロポジションが把握できるものが無く時期については不明である。以上、出土遺物からの時期は7世紀中葉を示すと考えられる。また、大型礫使用の石室形態や先に述べた外護列石の諸例より類推すると7世紀中葉～後葉として捉えるべきと考える。ただ、須恵器については周溝中の出土であり、位置付けには注意が必要であろう。

3基の古墳の築造時期について考察してきたが、まとめるとまず1号墳が6世紀後葉から7世紀初

頭に微高地上に築造され、その後半世紀ほど経過した後、1号墳の南の平地に3号墳が構築され、また、その半世紀後にすぐ東隣に規模を小さくして2号墳が築かれたことになる。約100年の間に近接して3基の古墳が築かれたことになる。このことは、一つの有力家族が100年に渡る造墓活動の結果として類推できる非常に貴重な資料であり、またそれ以上にこれらの古墳は佐久平に横穴式石室が導入され展開し消滅していく過程を見事に一地域の三基の古墳で表している事になり、今後の当地域における横穴式石室研究の貴重な資料を提示したこととなる。

以上、雑ばくな考察となつてしまつたが調査のまとめとし、考察不足である外護列石の問題や石室使用石材、古墳の立地、周辺古墳及び集落との関係、また1号墳・H2号住居址・1号掘立柱建物址との関係などは今後の課題とし、いずれ改めて再考するとして本説を閉じたい。

註・引用文献

- 註1. 大塚初重 他編 1993「信濃大室横石塚古墳群の研究」大室谷支群・村東単位群の調査
- 註2. 富岡市教育委員会 1998「芝古墳群」シ・イマ・ト店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 註3. (財)群馬県埋蔵文化財事業団 1993「少林山台遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書第153号
- 註4. 埼玉県神川町教育委員会 1996「青柳古墳群 四軒在家支群」神川町教育委員会文化財調査報告書第13集
- 註5. 埼玉県美里町教育委員会 1998「猪俣北古墳群 引地遺跡・滝ノ沢遺跡」美里町遺跡発掘調査報告書第9集
- 註6. 栃土手古墳群発掘調査団 1989「神奈川県栗野市板土手古墳群の調査」
- 註7. 土生田純之 1994「横穴式古墳構築過程の復元」『専修史学』第26号
- 註8. 塚塚山考古学研究所 古墳部会 1990「横穴式石室を考える」近畿の横穴式石室とその系譜
- 註9. 池上悟 1988「東国T字形石室寸攷」『立正史学』第63号
- 註10. 土生田純之 1991「日本横穴式石室の系譜」
- 註11. 土屋長久編著 1975「信濃佐久平古氏族の性格とまつり」
宇賀神誠司 1997「佐久地方における横穴式石室の空襲」第9回佐久地方遺跡発掘調査報告会資料
- 註12. 岡安光彦 1984「いわゆる「素環の轡について」一環状鏡板付轡の形式学的分析と編年一」
『日本古代文化研究 創刊号』
- 註13. 宮代栄一 1986「古墳時代雲珠・辻金具の分類と編年」『日本古代文化研究 第3号』
- 註14. 三河考古学談話会 1994「東三河の横穴式石室 資料編」『三河考古』6号
小久保 徹 他 1983「埼玉県における古墳出土遺物の研究 I 一鉄鎌について一」
『研究紀要』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 註15. 望月町教育委員会 1997「大塚第3号古墳」望月町文化財調査報告書 第23集
- 註16. 橋本博文 1981「常陸郡山古墳」大津村教育委員会
- 註17. 森山安彦 1999「塚古墳群 野塚27号墳発掘調査報告書」江南町埋蔵文化財調査報告書第12集
- 註18. 群馬県古墳時代研究会 1996「群馬県内出土の馬具・馬形埴輪」群馬県古墳時代研究会資料集第2集

参考文献

1. 岡林孝作 1992「長野県北部における横穴式石室の編年と系譜」『史跡森野軍塚古墳一』更埴市教育委員会
2. 田辺昭三 1981「須原大蔵丸」角川書店
3. 群馬県古墳時代研究会 1998「群馬県内の横穴式石室Ⅰ」(西毛編)群馬県古墳時代研究会資料集第3集
1999「群馬県内の横穴式石室Ⅱ」(東毛編)群馬県古墳時代研究会資料集第4集
4. 1981「群馬県史」資料編3 原始古代3 古墳
5. 1986「茅野市史」上巻 原始古代
6. 1985「丸子町の文化財」丸子町教育委員会
7. 1988「長野県史」考古資料編 全1巻(4) 遺構・遺物

第2節 佐久市蛇塚古墳群出土人骨について

聖マリアンナ医科大学 解剖学教室

平田 和明 奥 千奈美

I. はじめに

佐久市に所在する蛇塚古墳群から出土した中世人骨3体と古墳時代複葬墓一基（推定で3個体が埋葬される）から出土した人骨について佐久市教育委員会から鑑定を委嘱されたので、ここに結果を報告する。

II. 人骨の出土状況

出土した人骨は全体的に保存状態が悪く碎片化している。D2人骨は全身にわたって残存しているが、骨質は脆弱であり、保存材による処理を受けている。

III. 人骨の所見

鑑定を行った人骨3個体と複葬墓1基分について以下に記載を行う。歯式の表記は、数字は永久歯の残存を、×は欠損を示す。

1) 蛇塚古墳1号墳人骨（性別不明・壮年期）（古墳時代）写真1

この個体は保存状態が悪く、遊離歯3本の歯冠部だけが残存する。これらの歯の咬耗度はMartinの1度であり、壮年期であると推定される。歯式を以下に示す。

| | |
|----------|----------|
| ×××××××× | ×××××××× |
| ×76××××× | ×××××6×× |

歯がは6 | 6の頬側歯冠に認められる。

2) 蛇塚古墳3号墳人骨（複葬墓：壮年期男性1個体、壮年期性別不明2個体）（古墳時代）写真2

この資料は保存状態が悪く、碎片化している。残存部位は遊離歯と四肢骨片である。遊離歯は重複部位があることから、複数個体が埋葬されていたと推定される。歯種別の残存歯数（アラビア数字）を下表に示す。

左右

| | | | | |
|----|-------|---|-------|---|
| 上顎 | 側切歯 | 1 | 第一小白歯 | 2 |
| | 第一小白歯 | 1 | 第二小白歯 | 1 |
| | | | 第二大白歯 | 1 |
| | 第一大白歯 | 1 | | |
| 下顎 | 第一大白歯 | 1 | 側切歯 | 1 |
| | | | 第二小白歯 | 1 |
| | | | 第一大白歯 | 2 |
| | | | 第二大白歯 | 3 |
| | | | 第三大白歯 | 2 |

*これ以外に部位不明の歯片が3個残存していた

右下顎第二大白歯が3本認められることから最小個体数は3であると推定される。また、この下顎第二大白歯は咬耗度がMartinの1度と同程度であることから、3個体とも壮年期前半であると考えられる。他に、左尺骨の栄養孔を含む骨体、左脛骨の栄養孔を含む骨体、右指骨（手）の基節骨片、

部位不明骨片7片が残存する。左尺骨は太く、頑丈であるため、被葬者のうちの一人は男性であったと推定される。

3) D1号土坑人骨 (性別不明・成人) (中世)

この人骨は灰色化、収縮、ひび割れが激しく、焼骨である。残存部位は前頭骨の右眼窩部骨片、頭蓋冠片3個と部位不明四肢骨片3個および部位不明骨片3個である。前頭骨が収縮にもかかわらず、比較的大きいことから、成人であると推定される。

D2号土坑人骨 (男性・壮年期) (中世) 写真3

この個体は保存状態が悪く、骨質が脆弱であり、取り上げ時に保存材による処理を受けている。残存部は頭蓋及び下肢骨である。

頭蓋：左側からの土圧によって左右に扁平化している。また、頭蓋の顔面部と脳頭蓋の左右が腐食によって欠損しており、左右頭頂骨の矢状縫合を含む上方部、左側頭骨の錐体部から乳突部、左側頭骨下顎窩から左蝶形骨大翼の一部および後頭部が残存している。歯は下顎歯は下顎骨に樹立するが、上顎歯は上顎骨がほとんど認められないため遊離歯の状態である。残存歯の歯式を以下に示す。

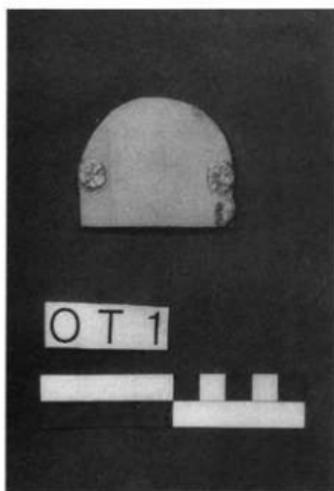
| | |
|-----------------|-----------------|
| 8 7 6 5 4 3 × × | × × × 4 5 6 7 8 |
| 8 7 6 5 4 3 2 1 | 1 2 3 4 5 6 7 8 |

下顎骨と歯は比較的大きく、男性であると推定される。また、3 | 56、3 2 1 | 2 3の咬耗が観察できたが、これらの歯の咬耗度はMartinの1~2度であり、壮年期であると推定される。観察可能歯に齶蝕は認められない。頭蓋骨全体は灰色化、収縮、ひび割れなどの痕跡が目立って認められないため、焼骨である可能性は低い。

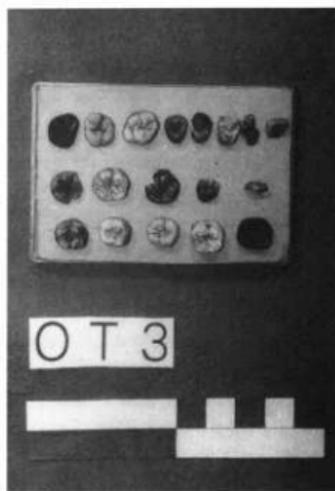
下肢骨：左右大腿骨体部が残存している。大腿骨も頭蓋骨同様、灰色化、収縮、ひび割れが目立って認められないため、焼骨である可能性は低い。

IV. まとめ

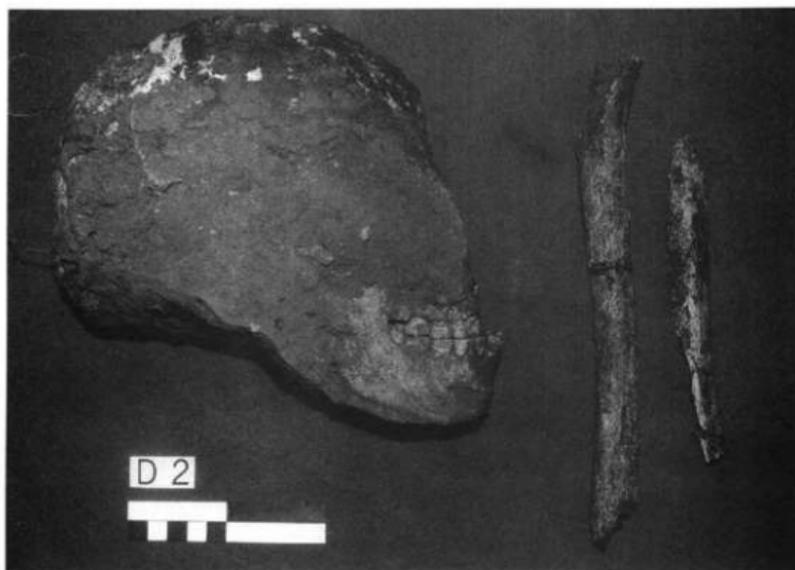
佐久市蛇塚古墳群からは少なくとも成人6体の人骨が出土している。そうち中世人骨は2個体分(壮年期男性1体・成人性別不明1体)であり、古墳時代の複葬墓(1号墳)から壮年期性別不明1体と複葬墓(3号墳)から3個体分の壮年期人骨(男性1体・性別不明2体)が出土した。齶蝕は1号墳人骨の2歯に認められた。またD1号土坑人骨は灰色化・収縮・ひび割れが激しく、焼骨である。そのため、D1号土坑は火葬墓である可能性が高い。一方、D2号土坑人骨は灰色化・収縮・ひび割れが認められないため、焼骨である可能性は低い。



1号墳出土人骨



3号墳出土人骨



D 2号土坑出土人骨

図 版



調査区全景（北より）

手前が調査前の1号墳、遠方に見える山裾は八ヶ岳山麓

① 1号墳調査前風景
(南より)



墳丘に見える溝は前年の
試掘調査のトレンチ跡

② 1号墳南側石積み近景
(西より)



③ 1号墳調査前風景
(北より)





① 1号墳全景（西より）



② 1号墳全景（北より）



① 1号墳墳丘側面
(東より)

縮状に見える土層は地山の堆積であり、南側に向けてローム層が押し上げた様な状態が観察できる。



② 1号墳墳丘側面
(西より)

手前の段は後世の構築物の基礎による削平



③ 1号墳墳丘側面
(北より)

①1号墳外護列石検出状況
北斜面全景
(北より)



②1号墳外護列石検出状況
(北より)

列石は原位置を保っている
と考えられるが石積みの作業
単位等は把握できなかった。



③1号墳外護列石検出状況
北側斜面近景
(北より)

列石の積み始めである基底
部は大きめの石を丁寧に並べ
ているのが観察できたが、上
部に行くに従い不規則な並び
となった。





① 1号墳西側攪乱部分
(北より)

後世の構築物の基礎。このようなセメント積みの基礎が墳丘西側に廻り、墳丘本来の形を大きく改変していた。



② 1号墳石室検出状況
(南より)



③ 1号墳石室検出状況
(南より)

玄室部と考えられる部分には特に大型の礎の崩落がめだった。



① 1号填石室全景